ハ外族中ヨリ隨意ニ撰擧スルヿヲ得、親族會議ノ時後見人ハ發言シテ決議ニ預ルヿ一般ナリト雖ヒ、其監察者ヲ任スルヿニ付テハ發言スルヿヲ得ス、蓋シ己レノ處置ヲ監督スルノ任アル者ヲ、自ラ撰擧スヘキニ非サレハナリ、

第四百二十四條　後見人ノ監察者ハ後見ノ職ノ空位トナリ又ハ後見人ノ失踪セシ時當然ニ後見人トナルノ權ナシ此場合ニ於テハ其監察者更ニ後見人ヲ任セシム可キ處置ヲ爲ス可シ若シ此規則ニ背キテ幼者ノ爲メ損害アル時ハ其償ヲ出ス可キノ言渡ヲ受ク可シ（民一一二、四四六、一一四九、訴八八三、）

後見人死去セシカ、若クハ治産ノ禁ヲ受ケシカ、若クハ失踪シタルカノ時ハ、最早監視スヘキ管理ナキヲ以テ、其監察者ノ職務ハ止ムナリ、然レヒ更ニ後見人ヲ任セシムヘキ處置ヲ爲サヽルヘカラス、若シ此處置ヲ怠リタル時ハ、之ニ因テ幼者ノ爲メ釀シ得ヘキ損失ヲ補償スルノ責アリ、

第四百二十五條　後見人ノ監察者ノ職務ハ後見人ノ職務ト同時ニ終ル可シ（民四七一、四七六、四七七、四八八、五一二、刑二九）

後見人ノ職務ノ終ル毎ニ、其監察者ノ職務モ同時ニ終ル、然レヒ後見人死去シテ其職空位トナリ、更ニ後見人ヲ任スヘキ時、親族會議ニテ撰擧シタル新後見人ト同族ニ非サル時ハ、更ニ其監察者ニ任セラレ得ヘシ、

第四百二十六條　此章ノ第六款第七款ノ規則ハ後見人ノ監察者ニモ亦通シ用フ可シ

然ヒ後見人ハ其監察者ヲ退任セシムルノ處置ヲ爲ス可カラス又監察者ヲ退任セシムルカ爲メノ親族會議ニ參ス可カラス（民四二七、四二八、四四二、四四三、）

此章ノ第六款第七款ハ、後見ノ職ヲ辭シ得ルヿ、後見人タルヲ得サルヿ、後見人タラシメサルヿ、及後見人ノ職ヲ免黜スルヿノ原由ヲ定ム、此原由ハ後見人ノ監察者ニモ適用スヘキナリ、後見人ノ監察者ハ正當ノ原由アレハ、後見人ノ職ヲ免黜セシムヘキ處置ヲ爲シ得ルト雖ヒ、後見人ハ決シテ其監察者ノ職ヲ免黜セシムル處置ヲ爲スヿヲ得ス、蓋シ後見人ニ於テ精切ナル監察者ヲ退却セシメントスルノ恐レアルヲ以テナリ、

○第六款　後見免除ノ原由

後見ハ公同及親族ノ責任トス、何トナレハ幼者ニ成丁人ノ保護ヲ受ケシムルヿハ、政府

モ亦親族ノ如ク緊要トナセハナリ、故ニ後見ノ職ニ任セラレシ者ハ、法律ニ定メタル格別ノ場合ニ非サレハ、其職ヲ辭スルヿヲ得ス、其場合ハ次款ニ掲ケタル後見ノ職ニ任スルヿ能ハサル原由、及後見ノ職ニ參セシメサルノ原由トハ全ク相違シテ一種ノ特權トシ、以テ此特權ヲ有スル所ノ後見人ハ、其職ヲ辭退スルヿヲ得、其原由ヲ二等ニ分チ、一ハ後見ノ職務ヲ受ケサルヿヲ聽ルス、之ヲ辭退(エキスキューズ)ト稱ス、一ハ既ニ受ケシ後見ノ職務ヲ放棄スルヿヲ聽ルス、之ヲ釋放(デシヤルジユ)ト稱ス、

第七百二十七條　左ノ人々ハ後見人タルヿヲ免除ス

千八百四年五月十八日ノ法律ノ第三章第五章第六章第八章第九章第十章第十一章ニ記スル所ノ人

大審院ノ上席人及ヒ裁判官並ニ同院ノ大檢事及ヒ代言師長州長

幼者住所ノ州外ノ地ニテ公務ヲ行フ者(民四二八ヨリ四三一、四三八、四三九、)

千八百四年五月十八日ノ法律ヲ以テ皇族、陸軍海軍ノ將官、元老議官、參議官、立法議員等ハ後見ノ職ヲ免除シ、又千八百七年九月十六日ノ法律ヲ以テ、會計檢査院ノ吏員ヲ免

除シタリ、

後見ヲ爲スヘキ州ニ非サル他州ニ於テ奉務スル所ノ裁判官檢事ハ、後見ヲ辭退シ得、千八百六年十一月二十日參議院ノ意見ニ因レハ、一寺院ノ住職タル僧官モ亦之ヲ辭シ得、

第四百二十八條　現ニ服役ニ充ツル軍人及ヒ佛蘭西國外ニテ皇帝ヨリ任シタル職務ヲ行フ者モ亦後見ヲ免除ス(民四二九ヨリ四三一、四三八、四三九、)

本條ノ國外トハ佛蘭西ノ本國外ノヿナリ、故ニ佛蘭西ノ藩屬地ニ在テ職務ヲ行フ者ハ後見ヲ免除ス、

第四百二十九條　若シ皇帝ヨリ職務ノ任ヲ受ケタル公正ノ證ナキニ因リ爭論ノ生スル時ハ後見ノ免除ヲ求ムル者其所屬官局ノ宰相ヨリ渡シタル所ノ證書ヲ出サヽレハ後見免除ノ言渡ヲ得可カラス(民四二八、)

後見ノ職ヲ免カレン爲メ、職務ノ任ヲ帶ヒタリト逃フル所ノ者ハ、其職務ノ任ノ實否ニ付爭論ノ生シタル時、眞實其職務ノ任ヲ受ケシヿノ證ヲ立サルヲ得ス、

第四百三十條　前數條ニ記シタル者後見ノ免除ヲ得可キ公務ノ任ヲ受ケタル後後見ノ職ニ

任スルヿヲ承諾シタル時ハ、後ニ其公務ヲ遂ヘテ後見ノ職ヲ釋放スルヿヲ聽サス（民四二七、四二八、四三一、）

官吏ハ後見ノ職ヲ辭シ得ヘキ正當ノ原由アリト雖ヒ、之ヲ顧スメ後見ノ職ニ任スルヿヲ承領シタル時ハ、其原由ヲ拋棄シタル者トス、何トナレハ其後見ノ事務ハ、決シテ己ノ精力ノ及ハサル所ニ非スト自認シタルヘケレハナリ、故ニ一度後見ノ職ヲ承領シタル上ハ、官吏タルノ故ヲ以テ之ヲ釋放スルヿヲ得ス、元來後見人屢變更スルハ善良ノ管理ニ害アレハナリ、

第四百三十一條　後見ノ任ヲ受ケ其職ヲ行ヒシ後公務ノ任ヲ受ケシ者其後見ノ職ヲ保有スルヿヲ欲セサル時ハ其公務ノ任ヲ受ケシ日ヨリ一月内ニ親族會議ヲ爲サシメ他ノ後見人ヲ撰マシム可シ

其者公務ノ任ノ滿チタル後自カラ再ヒ後見ノ職ニ任スルヿヲ求メ又ハ其者ニ代リ後ニ後見人トナリシ者其職ヲ退ク可キヿヲ求メタル時ハ親族會議ニテ前ノ後見人ヲ其職ニ復サシムルヿヲ得可シ（民四三〇、）

既ニ後見ノ職ヲ行ヒ始メシ者公務ノ任ヲ受クル時ハ、之ニ因テ其後見ノ職ヲ釋放シ得ヘキノ原由ヲ得、然レ𪜈其公務ニ任セラレシ日ヨリ三十日内ニ親族會議ヲ爲サシメ、此原由ヲ申述ヘサルニ於テハ、釋放ノ特權ヲ拋棄シタルモノト看做ス、又釋放ノ原由ヲ申述ヘ代リノ後見人ヲ任セシメタルニ於テハ、其公務ノ任滿チタル後、親族會議ニテ後見人ノ職ニ復セシムル𪜈、又ハ後ニ任シタル後見人ニ其職ヲ保續セシムル𪜈、幼者ノ資益トナルヘキ方ニ決定スルヲ得、

第四百三十二條　幼者ノ血屬又ハ姻屬ノ親ニ非サル者ハ其幼者ノ住所ヨリ四「ミリヤメートル」ノ距離内ニ後見ノ職ヲ行ヒ得可キ血屬及ヒ姻屬ノ親アラサル時ノ外强テ之ヲ後見ノ職ニ任ス可カラス（民四〇一、四三八、四三九、訴八八二、八八三、）

後見ハ專ラ親族ノ責任ニシテ且義務ナリ、之ニ因テ血屬若クハ姻屬ノ親ノ缺乏スル時ニアラサレハ、强テ他人ニ後見ノ職ヲ受ケシムルヿヲ得ス、

第四百三十三條　滿六十五歲以上ノ者ハ後見ノ職ニ任スルヿヲ辭シ得可シ○同上ノ齡ニ至ラサル中ニ後見ノ職ニ任シタル者ハ七十歲ニ至リシ時其職ヲ釋放スルヿヲ得可シ（民四

三八、四三九、二〇六六、訴八八二、)

滿六十五歳以上ノ者ハ、後見ノ職ヲ辭シ得ルト雖ヒ、其以前若クハ後ニ後見ノ職ヲ行ヒ始メタル所ノ者ハ、滿七十歳ニ至ラサレハ、其職ヲ釋放スルヿヲ得サラシメシハ、成ルヘク丈ケ後見人ノ交代ヲ防ケルナリ、

第四百三十四條　重疾ニ罹ルノ確證アル者ハ後見ヲ免除ス

又既ニ後見ノ職ニ任シタル後重疾ニ罹ル時ハ其職ヲ釋放スルヿヲ得可シ(民四三八、四三九、訴八八二、)

重疾ハ後見辭退ノ原由タリト雖ヒ、其重疾愈重大ニ趣クカ、若クハ後見ノ職ヲ行ヒ始メシヨリ後ニ發生スルカニ非サレハ、後見ノ職ヲ釋放スルヿヲ聽サス、

第四百三十五條　何人ニ限ラス二箇ノ後見ノ職ニ任シタル時ハ他ノ後見ヲ免除ス

夫或ハ父タル者既ニ一箇ノ後見ノ職ニ任シタル時ハ更ニ他ノ後見ノ任ヲ受クルニ及ハス

但シ己レノ子ノ後見ニ付テハ格別ナリトス(民四三七、四三八、五〇六、五〇七、訴八八二、八八三、)

後見ハ幼者ノ數ニ因テ算スルニ非ス、後見人ノ管理スル財産ノ數ニ因テ算ス、故ニ兄弟ノ子三人ノ後見ヲ爲ス者ハ、其實一箇ノ後見ヲ爲スモノトス、夫或ハ父タルノ分限アレハ、從テ其子ヲ監督保護スヘキノ務メアリ、故ニ既ニ一箇ノ後見(己レノ子ノ後見ニ非ス)ノ任ヲ帶ヒタル者ハ、更ニ他ノ後見ノ任ヲ受クルヿヲ必要トセス

第四百三十六條　公生ノ子五人アル者ハ其子ノ後見ノ外更ニ他ノ後見ヲ免除ス

佛國ノ兵籍ニ入リ服役ニ充テ死シタル子ハ此五人ノ子ノ數中ニ算入ス可シ其他ノ死シタル子ハ現ニ生存スル孫ヲ遺留シタルニ非サレハ五人ノ數中ニ算入ス可カラス(民四三七、四三八、七三九、七四〇訴八八二、)

後見ノ免除ヲ得ルカ爲メ算スル五人ノ子ノ數ハ、公生ノ子若クハ公生ノ子ト爲シタル者、若クハ「ピュタチーフ」ノ婚姻ニ因リ擧ケタル現存ノ子ノミヲ算シ、私生ノ子、養子、胎内ノ子、若クハ既ニ死去セシ公生ノ子ヲ算入スルヿナシ、然レトモ兵役ニヨリテ死去セシ公生ノ子、若クハ孫ヲ遺留シテ死去セシ公生ノ子ハ之ヲ算入ス、但シ孫ハ數人アルモ其代襲スル父若クハ母一人ノ數ニ算スルノミ、

第四百三十七條　後見ノ職ヲ行フ時間ニ子ノ出產スルコアリト雖ヒ之ヲ述ヘテ後見ノ職ヲ退クコヲ得ス

後見ノ職ニ任セラレシ時、既ニ四人ノ子アリシ者ハ、其後更ニ子ノ出產スルコアリヒ、後見ノ職ヲ釋放スルヲ得ス、

第四百三十八條　後見ノ任ヲ受クル者之ヲ任スル親族會議ノ席ニ在ル時ハ其席ニテ直チニ其職ヲ辭スル旨ヲ述ヘ其會議ニテ其評議ヲ爲ス可シ若シ其席ニテ辭スルコナキ時ハ後ニ至リ辭スルコヲ許サス（民四二七、四二三、四三九、）

後見人ノ任ヲ受クル者、之ヲ任スル評議ニ出席シテ、之ヲ辭退スル旨ヲ申述サルニ於テハ、更ニ其辭退ヲ聽サス、以テ幼者ノ財產ノ管理人即チ其保護人ノ速ニ定マルコヲ要ス、

第四百三十九條　後見ノ任ヲ受クル者之ヲ任スル親族會議ノ席ニ在ラサル時ハ其職ヲ辭スルコヲ評議セシム可キ爲メ特ニ親族會議ヲ爲サシム可シ

此處置ノ手續ハ其職ニ任スルノ告知ヲ得タル時ヨリ三日內ニ之ヲ爲ス可シ但シ幼者住所ノ地ニ居住セサル者ノ爲メニハ其住所ト幼者ノ住所トノ間其路程三「ミリヤメートル」每

ニ一日ノ猶豫ヲ加フ可シ此等ノ期限ヲ過ル時ハ其辭職ノ求メヲ許サス（民一〇二、一一〇、四〇七、四〇八、四三八、訴八八二、八八三、一〇三三、）

本條ノ規格ハ尊屬親ノ後見人、又ハ父母中ノ後ニ生存スル者ニヲ任シタル後見人、及親族會議ニテ任シタル後見人ニモ適用ス、而シテ此等ノ後見人ハ、其職ニ任セラレシコヲ知リタル時ヨリ三日內ニ、其辭退ノ旨ヲ申述フルヲ要ス、

第四百四十條　親族會議ニテ後見人ノ辭職ヲ肯セサル時ハ後見人裁判所ニ訴出シ其辭職ノ聽ルシヲ請フコヲ得可シ然ヒ其訴訟ノ時間ハ假リニ後見ノ職ヲ行ハサルヲ得ス（民四三八、四三九、訴八八三ヨリ八八九、）

後見人親族會議ニテ己レノ辭退ヲ聽ルサ、リシコヲ服セサル時ハ、初告裁判所ニ訴出シ、其裁判所ノ言渡ハ又之ヲ控訴スルコヲ得、

第四百四十一條　裁判所ニテ後見ノ職ヲ辭スルコヲ聽ルシタル時ハ其辭職ヲ肯セサル者訴訟ノ費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

若シ裁判所ニテ其辭職ヲ聽ルサ、ル時ハ原告人訴訟ノ費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

（訴一三〇、一三一、）

裁判所ニ於テ辭退ノ趣意其理ナシト言渡シタルトキハ、其訴訟ノ費用ヲ後見人ヨリ出サシメ、其理アリト言渡ス時ハ、後見ノ職ヲ免レ其費用ハ幼者ヨリ出サシム、然レトモ親族會議ニテ辭退ヲ肯セサリシヿ不當ノ道理ニ根據セリト判スル時ハ、其親族會議ノ員ニ訴訟ノ費用ヲ擔當セシム、

○第七款　後見ノ職ニ任スルヿ能ハサルヿ、後見ノ職ニ參セシメサルヿ、後見ノ職ヲ退カシムル事

後見人ノ職ニ任スルヿ能ハサルヿノ原由ハ、其職ヲ行フノ器能ナキモノト爲スヿニテ、即チ幼者若シクハ治產ノ禁ヲ受ケシ者、若クハ幼者ト利益ヲ相爭フ者及ヒ婦ノ分限等ヲ云ヒ、後見ノ職ニ參セシメサルヿノ原由ハ、未タ後見ノ職ヲ行ハサル所ノ者ニ適施スヘク、後見ノ職ヨリ退カシムルヿノ原由ハ、既ニ後見ノ職ヲ行ヒシ所ノ者ニ適施スヘクシテ、醜惡ノ素行アルカ、若クハ不正實ノ管理ヲ爲セシ者ニメ、幼者ノ監督及財產ノ管理ヲ委任スルヿ能ハサルヲ云フ、

第四百四十二條　左ノ人々ハ後見人又ハ親族會議ノ員タルヿヲ得ス

第一　父母ヲ除ク外ノ幼者

第二　治產ノ禁ヲ受ケシ者

第三　母及ヒ尊屬ノ親ニ非サル女

第四　幼者ノ身分、幼者ノ財產又ハ其多分ニ付自カラ幼者ニ對シ訴訟ヲ爲ス者及ヒ其父母幼者ニ對シ同上ノ訴訟ヲ爲ス者（民三八八、三九六、四〇八、四四三、四四四、四八九、四九九、五〇七、五一三、刑二九、）

父母中ノ後ニ生存スル者ハ、縱ヒ幼年ナリトモ愛情アルニ因リ、其子ノ後見人タルヿヲ得セシム、然レトモ財產管理ノ分限ニ過キタル處置ヲ爲スヿニ付テハ、其子ノ親族會議ノ許可ヲ得ルヲ要ス、又幼年ノ父若クハ母ニ其子ノ後見人タルヿヲ得セシムルハ、其結婚ニ因リ當然後見ヲ免カレシ、公正ナル父若クハ母ニ非ラサレハ之ヲ許サス、（第四百七十六條見合セ）私生ノ子ノ父母ハ、成丁ニ至ラサレハ其子ノ後見人トナルヲ得ス、

抑本條ニ付テ注意ス可キヿ三ツアリ、第一治產ノ禁ヲ受ケシ者ノ不能力ハ、審判上ノ補

佐人ヲ受ケシ者ニ波及スルヿナシ、第二母ヨリ他ノ尊屬親ノ婦ハ、父母中ノ後ニ生存スル者、若クハ親族會議ニ因リ撰任ヲ受ケシ時ノ外、當然後見人トナルヿヲ得ス、第三幼者ニ對シ訴訟ヲ爲ス者モ、他人ノ後見人タルニ妨ケナシ、何トナレハ其後見人タルノ權力ナキヿハ、其幼者ニ對シテノミノヿナレハナリ、

外國人ハ佛蘭西人ノ後見人タルヲ得ヘキ乎否ヤノヿニ付、論説頗ル多シト雖ヒ、裁判事例ニ因レハ後見人ノ職ハ殆ント公務ニ類似スルヲ以テ、外國人ヲシテ之ヲ行ハシムルヿ能ハスト決定シタリ、(千八百六十一年三月二十一日巴里上等審院ノ判決)

第四百四十三條　施體又ハ加辱ノ刑ニ處セラレシ者ハ當然後見ノ職ニ參セシムルヿヲ得ス

其既ニ後見ノ職ニ任シタル者ハ後見ノ職ヲ退カシム(民二五、四四四、四四五、刑七、八、二八、三四、四二、三三五、)

凡ソ重罪審院ニテ施體若クハ加辱ノ刑ニ處セラレシ者ハ、當然後見人ノ職ニ參セシメス、或ハ後見人ノ職ヲ退カシム、輕罪裁判所モ亦或ル場合ニ於テハ、罪囚ヲシテ後見人タルノ權ヲ剝奪スルヿヲ得、(刑法第四十二條見合セ)然レヒ加辱ノ刑ニ處セラレシ父若クハ母、或ハ輕罪裁判所ニテ後見人タルノ權ヲ剝奪セラレシト雖ヒ、親族ノ會議ニテ其子ノ後見ノ職ニ任スルヿヲ得、此場合ニ於テハ自然ノ後見人タルノ權ヲ失ヒ、評議上ノ後見人トナルナリ、

第四百四十四條

第一　聞エアル不行跡ノ人

第二　後見ノ職ヲ行フニ堪ヘス又ハ不信實ノ處置ヲ爲シタルノ證アル者

此等ノ者ハ後見ノ職ニ參セシメス又既ニ後見ノ職ニ任セシ者ハ其職ヲ退カシムルヿヲ得可シ(民四四三、四四五、五一三、)

本條ノ場合ニ於テ親族會議ハ、第一後見人タル者、怠慢酒狂ノ如キ醜惡不良ノ素行アルノ聞エアルカ、第二最前若クハ現今後見ノ職ヲ行フニ付、其器能ナキカ、若クハ管理上ニ不正實ノ處置ヲ爲シタルカヲ判定セサルヘカラス、而メ此兩原由ノ一箇アル時ハ、縱ヒ幼者ノ父タリトモ、後見ノ職ニ參セシメス、又ハ之ヲ退カシムルヿヲ得ヘシ、何トナレハ幼者ヲシテ其害トナルヘキ風習ニ感觸セシメス、且其財産ヲ浪費セシメサル爲メ必

要トスル後見ノ目的ニ相戻レハナリ、

第四百四十五條　後見ノ職ニ參セシメス或ハ後見ノ職ヲ退ケラレタル者ハ親族會議ノ員中ニ加ハルヿヲ得ス（民三九五、四二一、四四二、四四三、刑九、四二、四三、三三五、）

凡ソ後見ノ職ニ參セシメサルヿ、及ヒ之ヲ退カシムルヿノ原由ハ、後見人ニノミ該ルモノナレハ、之ヲ親族會議ノ員ニ波及スルヿヲ得ス、何トナレハ親族會議ノ員ノ權ハ幼者ノ身體財產ニ關係スルヿ、後見人ノ權ニ比スレハ稍〻少ナキヲ以テナリ、然レハ本條ノ規則ハ少シク苛酷ニメ、凡ソ罪囚ヲ善道ニ導キ自ラ悔悟スル心意ヲ起サシメンカ爲メ、復權ヲ許ス所ノ原則ト併行セサルニ似タリ、

第四百四十六條　後見人ヲ退職セシメントスル時ハ後見人ノ監察者ノ求メニ從ヒ又ハ治安裁判官ノ職務ヲ以テ爲サシメタル親族會議ハ之ヲ言渡ス可シ

其裁判官ハ幼者ノ從兄弟又ハ更ニ近親ノ血屬又ハ姻屬ノ親一人又ハ數人ヨリ親族會議ヲ爲サシム可キノ求メヲ受ケタル時ハ之ヲ爲サシメサルヲ得ス（民四〇六、四〇七、四二〇、四二一、七三五、）

後見人ヲ退職セシムルヿト同ク、後見ノ職ニ參セシメサルヿモ、亦親族會議ニテ之ヲ言渡ス、未タ後見人ノ監察者ヲ任セサル時ハ、幼者ノ血屬又ハ姻屬ノ親ノ請求ニ因リ、治安裁判官其職務ヲ以テ親族會議ヲ爲サシムヘシ、

第四百四十七條　親族ノ會議ニテ後見人トナラントスル者ヲ其職ニ參セシメサル事又ハ既ニ任シタル後見人ヲ退職セシムル事ヲ言渡ス書ニハ其言渡ヲ爲スノ理由ヲ記ス可シ但シ後見人ノ述フル所ヲ聽キタル上又ハ後見人ヲ呼出シテ猶出席セサル上ニ非サレハ其言渡ヲ爲ス可カラス（民四四八、四四九、訴八八三、八八四、）

親族會議ニテ後見ノ職ニ參セシメサルヿ、若クハ之ヲ退クルヿノ原由ニ付、評議セントスル時ハ、使吏ヲシテ呼出書ヲ送達シテ會議ニ出席セシメ、會議ニ於テ其議決ノ根據スル理由ヲ示サヽルヘカラス、此理由ノ如何ニ付爭論ノ生スル時ハ、裁判所ニ於テ之ヲ判斷スルヲ得ヘシ、

第四百四十八條　後見人親族會議ノ言渡ニ從ヒタル時ハ其旨ヲ其言渡書ニ附記シ新タニ任シタル後見人直チニ其職務ヲ行ヒ始ム可シ

若シ後見人親族會議ノ言渡ニ從ハサル時ハ後見人ノ監察者親族會議ノ言渡ノ認可ヲ得ンコトヲ初告裁判所ニ訴出ス可シ其裁判所ノ言渡ハ之ヲ控訴スルコトヲ得可シ

此場合ニ於テハ後見人ノ職ニ參セシメラレサル者又ハ其職ヲ退ケラレシ者其職ヲ得ントスルニ付キ後見人ノ監察者ヲ裁判所ニ呼出スヲ得可シ（民四二〇、訴五九、六一、八八三、八八七ヨリ八八九、）

親族會議ニテ後見ノ職ニ參セシメサルコト、若クハ之ヲ退カシムル旨ヲ言渡シタル上ハ、直チニ新後見人ヲ任ス、然レトモ舊後見人親族會議ノ言渡ニ承服シタル上ニ非サレハ、新後見人其職ヲ行ヒ始ムルコトヲ得ス、故ニ其承服セサル言渡ニ付、裁判所ノ認可アル迄ハ舊後見人其職ヲ保有ス、

第四百四十九條　親族ノ會議ヲ爲サシメント求メタル血屬又ハ姻屬ノ親ハ前條ニ記スル所ノ訴訟ニ參スルコトヲ得可シ其訴訟ハ至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ吟味シ且裁判ス可シ（訴三三九、三四〇、四〇四、四〇六、八八四、八八五、）

或ル訴訟急迫ナル時ハ、尋常ノ訴訟手續ノ爲メ定タル期限ヲ要セス、之ヲ裁判所ニ訴出ス、

○第八款　後見人ノ支配

後見人ノ職務ハ其要三ツアリ、第一幼者ノ身體ヲ保全スルコト、即チ其健康教育ヲ監護シ幼者ヲシテ賢俊ナル財産管理ノ方法ニ訓達セシムルニアリ、第二凡ソ民事上ノ處置ニ付幼者ニ代理スルコト、第三幼者ノ財産ヲ管理スルコト是ナリ、

本款ハ專ラ財産管理ノコトヲ規定シ、其處置ヲ分テ四級トス、第一後見人ノ專斷ヲ以テ爲シ得ルヘキモノ、第二親族會議ノ許可ヲ得サレハ爲シ能ハサルモノ、第三親族會議ノ許可ノ外裁判所ノ認可ヲ得サレハ爲シ能ハサルモノ、第四後見人ニ於テ絶テ爲シ得サルモノ、是ナリ

第四百五十條　後見人ハ幼者ノ身體ヲ監護シ且民法上ニ關スル諸件ニ付キ幼者ニ代ル可シ（民四六八、一四四、一四八、一六〇、九〇四、一三〇九、一三九八、）

後見人ハ懇切ニ幼者ノ財産ヲ支配シ且其支配ノ不良ナルニ付キ幼者ノ爲メ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス可シ

後見人ハ幼者ノ財産ヲ買入ルコトヲ得ス又親族會議ヨリ後見人ノ監察者ニ其後見人ト貸

渡ノ約定ヲ結フ可キヿヲ許可シタル時ニ非サレハ幼者ノ財産ヲ借入ルヽヿヲ得ス又幼者ヨリ義務ヲ得可キノ權又ハ幼者ニ對シ訴訟ヲ爲スノ權ヲ讓リ受クルヿヲ得ス（民一〇八四一八、四五一、四五二、九〇七、一一四九、一二四九、一二五〇、一五九六、一六八九、一六九〇、一七一八、二一二一、二一三五、訴一二六、一三二、九〇五、）

第一項　幼者ヲ保全シ其健康教育ヲ監護シ、且幼者ヲシテ一箇ノ產業ヲ撰定セシメンヿヲ督理スルハ、概シテ後見人ノ職掌ナリト雖モ、父若クハ母ハ後見ノ職ヲ退ケラルヽモ、其子ヲ監護指導スルノ權ヲ保有ス、何トナレハ是等ノヿハ親タル者ノ權及務メニ於テ離ル可カラサルモノナレハナリ、又裁判所ハ親族會議ノ員ノ請求ニ因リテハ、幼者監護ノ權ヲ後見人ヨリ剝奪シテ之ヲ他人ニ委任スルヿヲ得、

後見人凡ソ民法上ニ關スル諸件ニ付幼者ニ代ルトノ規則ハ、後見人ノ爲シタル處置ハ、即チ幼者自ラ正當ニ爲シタルモノト看做シ、以テ之ヨリ生スル權利及義務ハ、總テ幼者ニ於テ擔當スヘシトノ義ナリ、羅馬法ニ於テハ其處置ニ付、後見人ノ許可ヲ以テ幼者自ラ契約者ノ一方トナリタリ、此法ニ因レハ、幼者ヲシテ其財產ノ愼重ナル管理ニ早

ク熟練セシムルヿニ付、緊切ナル便益アリキ、佛國ノ法制ニ於テモ幼者自ラ爲シ得ヘクシテ、後見人ニテ代理セサル事件アリ、卽チ婚姻ノ契約私生ノ子ノ認メノ類ナリ、

後見人權限外ノ處置ヲ爲シタリトモ取消トセス、特ニ之ヲ取消シ得ヘキ者トス、然レトモ幼者成丁ニ至リ其取消ヲ言渡サシメント欲スル時ハ、其處置己レノ損失ト爲リシヤ否ヤヲ證スルヲ必要トス、（第千三百十四條見合セ）

第二項　懇切ニ管理ヲ爲サヽル所ノ後見人ハ、幼者ニ損害ヲ賠償スルノ言渡ヲ受ケ得ヘキ過失ヲ犯スナリ、

第三項　後見人ハ決シテ自ラ幼者ノ財產ヲ買受クルヿヲ得ス、又人ヲシテ己ニ代リテ買受ケシムルヿヲ得ス、若シ後見人ニテ此ヿヲ爲シ得ヘシトセハ、一人ニテ爲スヘカラサル賣主ト買主トヲ兼ネ、其務ト利益トノ間ハ紛紜ヲ生シ、賣却ヲ公ケノ競賣ニ爲サンヿヲ定メタル法式ヲ蹂行セスシテ、高價ニ入札セントスル者ヲ除去センモ計リ難ケレハナリ、然レトモ審判上ノ賣拂ニ於ハ、後見人分ツヘカラサル權利ヲ幼者ト共有スル所ノ財產ニ就テハ、入札人ト爲ルヿヲ得ヘシ、何トナレハ此場合ニ於テハ、後見人ノ利益

ノ爲メナサシムル所ノ入札ハ、賣却ノ性質ニアラスシテ、財産分派ノ性質アリト爲セハナリ、（第八百八十三條見合セ）是著述者一般ノ意見ニメ、且千八百六十二年六月十日「モンペナーエー」上等審院ノ判決ヲ以テ確定シタル所ナリ、（其文畧之）

親族會議ノ許可アレハ、後見人モ幼者ノ土地ヲ借入レ得ヘキノミナラス、猶家屋其他凡ソ動及不動ノ財産ヲ借入ル、コヲ得、蓋シ斯ノ處分ニ付テハ幼者ノ利益ヲ損害スルコナク、却テ之ヲ保護スルコ多キヲ以テナリ、然レ𪜈此時ニ當テ後見人ト幼者トノ間ニ於テ、各其利益相觸ルヽコアルニ因リ、後見人ト取結フヘキ貸渡ノ契約ハ、後見人ノ監察者之ヲ爲スヘシ、

後見人ハ幼者ニ對シ義務ヲ得ヘキノ權、若クハ訴訟ヲ爲スノ權ヲ讓受クルコヲ得ス、故ニ後見人ハ幼者ノ債主ト左ノ約定ヲ爲スコヲ得ス、予ハ自ラ後見スル幼者ヨリ二萬「フラン」ノ金額ヲ受取ルヘキ汝ノ權利ヲ、八千「フラン」ニテ買受クルナリ、因テ予ハ幼者ヨリ二萬「フラン」ヲ受取ルヘキノ權利ヲ得ヘシト、何トナレハ幼者ノ資益ヲ保護スヘキハ後見人ノ職掌ナルニ、其職務ニ乘シテ利ヲ射ントセハ、一切ノ證書モ己レノ手中ニ

アルヲ以テ、其幼者ノ負債ノ消滅ヲ證スルニ足ルヘキ證書ヲモ滅却セシメ得ヘケレハ、其射利モ眞ニ容易ナルニ因リ、其本務ニ背戻スルコ至大ナルヘシ、因テ斯ノ如キ權利ノ讓受ケハ、縱ヒ其得ント期望セシ所ノ一萬二千「フラン」ノ利潤ハ得サリシ𪜈、固ヨリ取消トス、然レ𪜈讓受ケシ價額即チ前ニ述ヘタル八千「フラン」ノ高ハ、幼者ノ負債ナリシコ明瞭ナルニ於テハ、之ヲ幼者ニ向テ求ムルコヲ得ヘシ、實ニ幼者ト雖𪜈他人ノ損失ヲ以テ己レヲ富マスヘカラス、且後見人初メヨリ貪利ノ念ナク、己レノ金ヲ以テ幼者ノ負債ヲ償却シ、其債主ノ有セシ書入質ノ代權ヲ得シ時ハ、書入質ノ權アル者ト同一ノ權ヲ以テ、己レノ代償セシ金額ノ返辨ヲ求メ得ヘキコハ疑ヒナシ、

第四百五十一條　幼者ノ財産ニ封印アル時ハ後見人其任ヲ受ケタルコヲ相當ノ法式ニ循ヒ知リ得タル日ヨリ十日内ニ其封印ヲ除去スヘキコヲ求メ直チニ證書人ヲシテ其監察者ノ面前ニ於テ幼者ノ財産ノ目錄ヲ記サシムヘシ

又幼者ヨリ後見人ニ償フヘキ物件アル時ハ後見人證書人ノ必ス爲スヘキ問ニ答ヘテ其幼者ヨリ得ヘキ物件アル旨ヲ述ヘ之ヲ幼者ノ財産ノ目錄中ニ記入セシメ且之ヲ記入シタル

旨ヲ調書ニ記ス可シ若シ後見人此事ヲ爲サヽル時ハ後ニ至リ幼者ヨリ償ヲ得ルヿヲ得ス（民四二一、四三八、七九五、八一九、一四四二、訴九二、九二八ヨリ九四四、）

封印トハ堂室倉庫ヨリ諸什器ニ至ルマテ、總テ印ヲ捺シタル紙ヲ結ヒ付贐ヲ以テ之ヲ封シ、破毀セサレハ開緘スルヿ能ハサラシメシモノヲ云、此封印ハ治安裁判官之ヲ爲シ、又其裁判官ニ非サレハ之ヲ除去スルヲ得ス、故ニ之ヲ破毀スル者ハ律ニ依テ罪ヲ科ス、（刑法第二百四十九條以下見合セ）蓋シ以テ動產ノ紛失ヲ豫防セシナリ、

財產目錄トハ動產ノ種類、評價、不動產ノ證券、貸借ノ證書ヲ調查シ、之ヲ治安裁判官後見人ノ監察者及證人數人ノ面前ニ於テ、證書人ノ記スル所ノ書ナリ、此目錄ハ後見人ノ管理ニ委ヌヘキ幼者ノ財產ノ高ヲ證ス、以テ後見ノ終ル時後見人ヨリ爲スヘキ計算ノ便ニ供ス、

凡ソ後見人ハ其幼者ニ屬スル動產ニ封印ヲ爲サシメ、且其目錄ヲ作ラシムヘキヲ要ス、（人ノ死去スル時ハ先ツ動產ニ封印ヲ爲サシムルヿ一般ナレハ、必シモ後見人ニ限ルヿナク、死者ノ債主親族同居人モ之ヲ爲サシメ得ヘク、又封印ノナキ時ハ必シモ之ヲ爲サシムルヲ要セス、直チニ財產目錄ヲ作ラシムルヿヲ得ヘシ、訴訟法第九百七條以下見合セ）然レトモ現在スル尊屬親ノ後見人ニ就テハ、封印ヲ爲サスシテ直ニ財產目錄ヲ作ラシムルヿヲ得、若シ封印ヲ爲スヘキ動產ノアラサル時ハ、治安裁判官動產ノアラサル旨ヲ調書ニ記ス、（訴訟法第九百二十四條見合セ）又後見ヲ爲スノ時間幼者遺物ノ相續ヲ爲ス每ニ、財產目錄ヲ作ルヲ必要トス、然レトモ後見人死去スルカ又ハ其職ヲ釋放若シハ放免スルヿアル每ニ、新後見人ヲシテ、財產目錄ヲ作ラシムルヿヲ必要トセス、

證書人ハ動產ノ評價及明細表ヲ記スル前ニ、後見人幼者ノ權利者ニアラサルヤ否ヤヲ申述フヘキ求メヲ爲スヲ要ス、而シテ財產目錄中ニ其返答ヲ記錄ス、若シ後見人幼者ヨリ得ヘキ義務ノアラサル旨ヲ申述フルニ於テハ、之ニ因テ幼者ニ對シ有シ得ヘキ所ノ一切ノ權利消滅ス、何トナレハ後見人後ニ至リ、幼者ヨリ義務ヲ得ヘキ權利アル證書ヲ出ストモ、其義務ハ既ニ盡シタル者ト思度スレハナリ、此思度ハ後見人ノ幼者ニ對シテ爲サントスル諸訴訟ニ付、大ニ幼者ヲ保護ス、然レトモ後見人證書人ヨリ、其幼者ヨリ得ヘキ義務アリヤ否ヤノ申述ヲ爲スヘキ求メヲ受ケサル時ハ、幼者ニ對シテ其權利ノ滅盡ヲ

受クルヿナシトス、

第四百五十二條　後見人ハ幼者ノ財産ノ目錄ヲ記シ終リシ時ヨリ一月内ニ官吏ヲシテ親族會議ニテ現品ノ儘保ヲ置クヘキヿヲ聽ルシタルモノ、外ハ賣拂ノ公告又ハ貼附ヲ爲シ其由ヲ調書ニ記シタル後一切ノ動産ヲ監察者ノ面前ニテ競賣セシムヘシ（民四五三、五二七、五二八、五三三、訴六一七ヨリ六二五、九四五ヨリ九五二、）

後見人ハ家具牛馬麥麻葡萄酒ノ如キ有形ノ動産ナラデハ、之ヲ賣拂ハシムルヿヲ要セス、蓋シ此等ノ財産ヲ現存シ置クトキハ、損敗ノ價ヲ減スヘキニ因リ、之ヲ賣拂ヒ其代價ニ利息ヲ生セシメナハ、幼者成丁ニ至ル時、其現品ノ價ヨリ大ナル金額トナルヘケレハナリ、然レトモ書像書藉等ノ如キ或ル動産ヲ保存スヘキヿ幼者ノ爲メ切要ナル時、親族會議ハ後見人若クハ親族會議ノ員ノ申立ニ因リ、之ヲ保存スルヿヲ聽ルシ得、

貸金穀年金商工ノ株式證書ノ如キ、無形ノ動産ハ之ヲ保存ス、之ヲ賣拂フトモ其代價ヲ以テ同性質ノ事ニ付、再用スヘキヿヲ要スル時ハ、尤モ之ヲ保存スヘキナリ、動産ノ賣拂ハ、概シテ財産目錄ヲ作リシヨリ一ケ月ノ期限内ニ貼附ヲ爲シ、後見人及其監察者立會

ノ上競賣ノ方法ヲ以テ、公賣人（コンミセールプルズォール）若クハ證書人ヲシテ賣拂ハシムルヿヲ要ス、

第四百五十三條　父母法律ニ循ヒ幼者ノ財産ノ入額ヲ所得ト爲シ且之ヲ品物ノ儘ニテ後ニ幼者ニ渡サントスル時ハ之ヲ賣拂フニ及ハス

此場合ニ於テハ父母己レノ費用ヲ以テ評價人ヲシテ幼者ノ財産ノ眞價ヲ算定セシム可シ其評價人ハ後見人ノ監察者ヨリ任スル所ニシテ治安裁判官ノ面前ニ於テ誓ヲ爲ス可シ○父母後ニ現品ノ儘ヲ以テ幼者ニ渡スヿヲ得サル動産ハ其算定ノ代金ヲ幼者ニ渡ス可シ（民三八四、三八五、四二〇、四五二、五八九、訴三〇二、三〇三、）

父母中ノ後ニ生存シ、法律上子ノ財産ノ入額ヲ所得ト爲スノ權アル者ハ、其欲スル所ニ隨ヒ、或ハ幼年ナル其子ノ動産ヲ賣拂ハシメ、或ハ評價ヲ爲サシメテ後現物ヲ保存スルヿヲ得、現物ヲ保存セント欲スル時ハ、自費ヲ以テ後見人ノ監察者ノ任スル所ニシテ、治安裁判官ノ面前ニテ誓ヲ述ル所ノ評價人ヲシメ、動産ヲ評價セシムルヿヲ要ス、蓋シ此場合ニ於テハ、財産目錄中ニ記シタル評價ヲ以テ不充分ト爲セハナリ、且其現品ニ損失ノ

生スル時、其損失ハ己レノ過失ニ因ラサルヿノ證ヲ立サルニ於テハ、賠償ノ責アリトス、

第四百五十四條　父母ノ後見ヲ除クノ外ハ總テ後見ノ職ヲ行ヒ始メントスル時親族會議ニテ後見人ノ支配スル財産ノ多寡ニ准シ見積書ヲ以テ幼者ノ毎歳ノ費用及ヒ財産支配ノ額ヲ定ム可シ

又其見積書ニハ後見人其支配ヲ爲スニ付キ給料ヲ與フ可キ輔佐人一員又ハ數員ノ助ケヲ得可キヤ否ヤヲ定ム可シ其輔佐人ノ處置ニ付テハ後見人其責ニ任ス可シ（民三八四、三八五、四〇七、四〇八、一九九四、）

後見ノ職ヲ行ヒ始メントスル時、親族會議ハ幼者ノ爲メ及其財産管理ノ爲メ、後見人年々費用スヘキ金員ノ見積高ヲ定メ、且同時ニ後見人其職ヲ行フニ付、幼者ノ財産ヨリ給料ヲ支給スヘキ補佐人ヲ設クヘキヤ否ヤヲ定ム、此兩件ノ決議ハ幼者ノ財産上ニ著シキ變遷ノ生スル時ハ、之ヲ更正スルヿヲ得、後見人豫定ノ金額ヨリ寡ク費用シタル時ハ、其餘分ヲ返還シ、豫定ノ金額ヨリ多ク費用シタル時ハ、過失ト看做シ善良ノ管理ヲ爲スタメ止ムヲ得サリシヿノ證ヲ立テサルニ於テハ、其定額外ノモノヲ幼者ノ財産中ヨ

リ差引クヿヲ得ス、

自然ノ後見人ニ付テハ、親族會議ニ於テ決シテ費用ノ額ヲ定ムルヿナシ、何トナレハ法律及親族會議モ、父若クハ母ノ其子ニ於ル情愛ノ厚キハ疑ヲ容ルヘカラサレハナリ、

第四百五十五條　親族ノ會議ニテ幼者ノ入額其費用ノ額ヨリ多キヿ幾許ニ至ル時ハ後見人其金額ヲ幼者ノ資益トナル可キ方法ニ用フ可キヤヲ定ム可シ而メ之ヲ用ル時ハ六月内ニ之ヲ爲ス可ク若シ此定期ヲ過クル時ハ後見人其金額ニ付キ幼者ニ息銀ヲ償フ可シ（民四五二、四五六、一〇六五、一〇六六、一一五三、一九〇七、）

凡愼重ナル管理人ト同ク、後見人モ貯金ノ幾許ヲ保有スヘシト雖モ、其額ヲ過ル所ノモノハ、幼者ノ入額ヨリ生スルト元金ノ返還ヨリ生スルトヲ問ハス、後見人ニ於テ六ケ月間ニ之ヲ幼者ノ資益トナルヘキ方法ニ用ヒサルヘカラス、若シ後見人幼者ニ對シ負債アリテ、返濟期限ノ來リシ時ハ、差引計算（コントクーラン）ノ類ニ因テ直ニ之ヲ返完シタルモノト看做ス、若シ又後見人幼者ニ對シ貸金アリテ、返濟期限ノ來リシ時ハ直ニ之ヲ請取、且幼者ノ金箱中ニハ、此負債ヲ返濟スル爲メ充分ノ金額アリシモノト看做ス、

若シ後見人六ケ月ノ期限前ニ親族會議ニテ定メタル餘額ヲ貸附ルカ、若クハ幼者所屬ノ金額ノ幾許ヲ、己レ一身ノ費用ニ充テタル時ハ、其息銀ヲ償ハサルベカラス、蓋シ後見ヲ爲スヲ以テ却テ幼者ノ損失ヲ來タシ己レヲ利スルノ方法ト爲スヘカラサレハナリ、又六ケ月ノ定期內ニ貯金ノ餘額ヲ、幼者ノ資益トナルヘキ方法ニ用ルヿナキ時ハ、其期限ノ到リシ時ヨリ其息銀ヲ償ハサルヘカラス、蓋シ自ラ補理スヘキ過失ヲ犯セハナリ、後見人幼者ノ金額ヲ用ルニハ例ヘハ、公債ト爲スカ、息銀ヲ取テ貸附ルカ、不動產ヲ買入ル、カ等、全ク自己ノ適宜ト思考スル所ヲ以テ爲シ得、然ルニ幼者ノ名ヲ以テ不動產ヲ買入ル、時、其代價ノ全部ヲ拂フニ必要ナル金額ヲ現有スルニ於テハ、親族會議ノ許可ヲ得ルヲ要セスト雖ヒ、代價ノ全部ヲ拂フニ必要ナル金額ヲ現有セス、因テ其皆濟ノ爲メ期限ヲ契約スルカ如キ時ハ、親族會議ノ許可及裁判所ノ認可ヲ得スシテ、之ヲ買入レ得ヘキヤノ論說頗ル多カリシカ、千八百六十三年一月八日大審院ニ於テ、此事ハ到底特別ナル情狀ニ因ラサレハ、確定スヘカラスト判決シタリ、（其文略之）

第四百五十六條　若シ後見人幼者ノ金額幾許ニ至ル時ハ之ヲ幼者ノ資益ノ爲メ用フ可キヤ

ヲ親族會議ニテ定メシメタルヿナキ時其後見人前條ニ記シタル定期ニ至リ猶之ヲ用ヒサルニ於テハ金額ノ多少ヲ論セス幼者ノ爲メ用ヒサル其總高ノ息銀ヲ幼者ニ償フ可シ（民四五五、一一五三、一九〇七、）

親族會議ニテ貯金ノ高ヲ定メシメサル後見人ハ、縱ヒ管理ノ爲メ必要ナル些少ノ金額ノ外アラサル時ト雖ヒ、六ケ月ノ後ニ至レハ其息銀ヲ償ハサルベカラス、之ニ付キ本條ノ嚴密ナル規格ニ依レハ、若シ後見人ニテ數年間幼者ノ金額ヲ、其資益トナルヘキ方法ニ用ルヿナク空ク貯ヘ置ク時ハ、息銀ノ息銀ヲモ償ハサルベカラス、何トナレハ大ニ後見人ノ過失ニ係ルヲ以テナリ、

第四百五十七條　後見人ハ父若クハ母ト雖ヒ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ幼者ノ爲メニ金額ヲ借受ケ或ハ幼者ノ不動產ヲ他人ニ贈與シ又ハ賣拂ヒ又ハ書入質ト爲スヿヲ得ス其許諾ハ極メテ切要ナル事又ハ明白ナル利益アルニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス

幼者ノ爲メ極メテ切要ナル事アル時ハ後見人ヨリ簡略ナル算計書ヲ出シ幼者ノ金額動產入額等ノ不足ナルヿヲ證シタル上ニ非サレハ親族會議ニテ其許諾ヲ爲ス可カラス

何レノ場合ト雖モ親族會議ニテハ何レノ不動産ヲ先ニ賣拂フ可キヤヲ指示シ且之ヲ賣拂フニ付キ有益ナリト思量スル諸件ヲモ亦指示ス可シ（民四五八、四五九、四八四、五〇九、五一七、五一八、一一二五、一三〇四、一三〇五、一三一四、二一二六、訴八三、八八三、八八四、九五三、九五四、）

金額ヲ借入レ、不動産ヲ贈與賣却シ、若クハ書入質ト爲スヿハ、尋常財産管理ノ界限ヲ超過シタル處置ナルニ因リ、斯ノ如キ處置ハ極メテ切要ナルカ、若クハ明白ナル利益ノアル場合ニシテ、且親族會議ノ許諾及裁判所ノ認可ヲ得タル後ニ非サレハ、後見人之ヲ爲スヲ得ス、蓋シ切要ナル事トハ、例ヘハ後見人ニ於テ幼者ノ不動産ヲ修理スヘキヿ急ナルカ、若クハ幼者ノ需用ニ充ルカ爲メ止ムヲ得ス金額ヲ要スルノ類ナリ、又明白ナル利益トハ、例ヘハ入額ヨリモ修理ノ費用ノ多キ家屋ヲ賣却シ、若クハ幼者ノ資益トナルヘキ産業ヲ定ムルノ類ナリ、

第四百五十八條　前條ノ事ニ付キ親族會議ニテ爲シタル決定ハ後見人ヨリ初告裁判所ニ請ヒ其認可ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ執行フ可カラス初告裁判所ニ於テハ裁判官會議ノ室

ニテ撿事ノ述フル所ヲ聽キタル上其言渡ヲ爲ス可シ（民四五七、四六〇、五〇九、訴八三、一一一、八八五、八八六、）

幼者ノ名ヲ以テ金額ヲ借入レ、不動産ヲ贈與シ若クハ賣拂ヒ、若クハ書入質ト爲スヿヲ許諾スル所ノ親族會議ノ決定ハ、初告裁判所ノ監査ヲ受ケサルベカラス、初告裁判所ハ撿事ノ述フル所ヲ聽キタル上、裁判官會議ノ室ニ於テ調査シ、以テ其認可ヲ與ヘ或ハ與ヘサルヘシ、裁判所ノ認可トハ（チモロカーション）親族會議ノ決定ヲ可トシ、其決定ニ必要ナル効力ヲ與フル所ノ判決ナリ、親族會議ノ決定ノ認可ノ求メヲ受ケタル裁判所ハ、其決定書中ニ掲ケタル事ノ外、何レノ處置ヲ爲スベキヿヲモ示命スルヲ得スト、千八百六十一年四月一日大審院ニ於テ決定シ、「ギジョン」審院ノ判決ヲ破毀シタリ、曰ク法律ヲ以テ裁判所ニ親族會議ノ決定ヲ認可スルノ權ヲ與ヘシト雖モ、其權ハ裁判所ヲシテ後見人及親族會議ニ代リ其請求スルヿモナク、且決定モセサル所ノ處分ヲ、裁判官ノ職權ヲ以テ命スルヿヲ許セシニアラス、因テ後見人及親族會議ニテ指定メタル不動産ニ非サル他ノ物ヲ賣拂フベキヿヲ命シ、上告ヲ受ケタル「ギジョン」審院ノ判決ハ其權限ヲ僭越シタル

モノナリト、

第四百五十九條　不動產ノ賣拂ハ其縣(カントン)內常例ノ場所ニ相次テ三次ノ日曜日ニ競賣ノ報告書ヲ貼附セシ後初告裁判所ノ裁判官又ハ特ニ任ヲ受ケタル證書人後見人ノ監察者ノ面前ニ於テ公ケニ之ヲ爲ス可シ

其貼附書ノ各通ハ其貼附ヲ爲シタル地ノ邑長檢印シテ之ヲ證ス可シ（訴九五六、九五七、九六四、九六五、）

幼者ニ屬スル不動產賣拂ノ法式ハ、訴訟法第九百五十三條以下ニ之ヲ定メタリシカ、其後千八百四十一年六月二日ノ法律ヲ以テ之ヲ改正シ、大ニ其費用ヲ減省シタリ、

定規ノ法式ニ因リ爲シタル幼者ノ不動產ノ賣拂ハ、確固不動ソモノナリ、

第四百六十條　幼者ト不動產ヲ共通シテ所有スル者ノ請ヒニ因リ其不動產ヲ競賣ニ爲ス可キヿヲ裁判所ヨリ言渡シタル時ハ幼者ノ財產賣拂ニ付キ第四百五十七條及ヒ第四百五十八條ニ記シタル法式ヲ用フルニ及ハス

此場合ニ於テハ唯前條ニ記スル所ノ法式ニ循ヒ其競賣ヲ爲スヿヲ必要トス但シ此競賣ニ

ハ必ス外人ヲ參セシム可シ（民四六五、八二七、一六八六、一六八七、二二〇六、二二〇七、訴九五四、九七〇、九七一、）

數人共有ノ物ニシテ、損害ナク之ヲ分割スルヲ得サル所ノ物ヲ競賣スルヿヲ「リシター シヨン」ト稱ス、（千六百八十六條見合セ）又何人タリトモ他人ト財產ヲ共有スルヲ必トセス、其所有者ハ各其分派ヲ求メ得ル（第八百十五條見合セ）ニ因リ、若シ其財產ノ現品ヲ分派スルヲ得サル時ハ、之ヲ競賣セサルベカラス、幼者ト財產ヲ共有スル者、其分派ヲ求ムル時ハ、其求メハ動カスヘカラサルヿ、雙方ノ者ノ爲メニハ恰モ法律ノ如シ、固ヨリ後見人ノ可否シ得ヘキニ非ス、故ニ其分派ノ利害ニ付親族ノ會議ヲ爲サシムルモ無益ナリ、然レトモ後見人ヨリ分派ヲ求メントスル時ハ、必ス親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非レハ之ヲ爲スヲ得ス、（第四百六十五條見合セ）又共有財產ノ所有者中ニ、幼者若シクハ治產ノ禁ヲ受ケシ者若シクハ失踪者ノアル時、之ヲ賣拂ハントセハ必ス其競買者トシテ他人ヲ參セシメ、以テ其價額ヲ增加セシメントス、

抑競賣ノ條中幼者ヨリ其債主ニ對シテ返濟ノ方法ノヿ、年金、商工ノ株式、貸附ノ證書

ノ權利ヲ讓渡スヿ、幼者ニ屬スル財産貸渡契約ノ期限ノヿヲ揭ケサルニ付其要領ヲ左ニ開陳セントス、

第一　裁判言渡ノ如ク施行スヘキ證書ヲ有スル幼者ノ債主、其返辨ヲ得ント欲セハ、其不動産ヲ抵償トシテ之ヲ奪ヒ、之ヲ賣拂ハシメントスルノ前、先ツ其動産ヲ賣拂ハシメサルヘカラス、(第二千二百六條七條見合セ)此賣拂ハ必ス公ケナル競賣ヲ以テスヘシ、

第二　後見人ハ幼者ニ屬スル公債證書、毎年ノ入額五十「フラン」ヲ過キサル時ハ、何レノ許可ヲモ要セス、手形賣買世話人ヲシテ、現時ノ相場ニヨリ賣拂ハシムルヿヲ得ルト雖ヒ、其入額五十「フラン」以上ナル時ハ、親族會議ノ許諾ヲ得サルヘカラス、(千八百六年三月二十四日法律)又佛國銀行ノ株式一個ハ、後見人ノ專斷ヲ以テ之ヲ賣拂ヒ得ルト雖ヒ、數個ヲ賣拂ントスル時ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルヲ要ス、(千八百十三年九月二十五日勅命)又予謂ラク商工ノ會社ノ株式、及ヒ貸附金穀ノ證書ハ、後見人ノ專斷ヲ以テ之ヲ賣拂ヒ得ベシト雖ヒ、固ヨリ其過失ノ責ニ任スヘシ、

第三　後見人ハ幼者ニ屬スル土地家屋貸渡ノ期限九年ヲ過キサル時ハ、專斷シテ其契

約ヲ結フヿヲ得、又土地ト家屋トニ因リ、期限前二年或ハ三年內ニ更ニ此契約ヲ結フヿヲ得、(第千四百二十九條千四百三十條千七百十八條見合セ)九年餘ノ貸渡約定ヲ結フヿヲ爲メニハ、親族會議ノ許諾ヲ得ルヲ要ス、

第四百六十一條　後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ幼者其親族ノ遺物相續ヲ爲スヿヲ承諾シ又ハ之ヲ拒ムヿヲ得ス○幼者其親族ノ遺物相續ヲ爲スニハ後見人其遺物ノ目錄ヲ記シテ其遺物ノ價額ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權ヲ以テセサレハ之ヲ引受ク可カラス(民四〇七、七七六、七八四、七九三、訴九八六、九九六、)

權力完全ノ丁年者ハ左ノ三法ノ一ヲ撰テ遺物相續ヲ爲シ得、第一別段ノ約定ナク遺物ノ相續ヲ承諾スルヿ、然ル時ハ恰モ死者ノ身體ノ繼嗣人タルカ如ク、其遺物ニ屬スル一切ノ負債ノ引受人トナルナリ、第二遺物目錄ノ利益ヲ以テ其相續ヲ承諾スルヿ、即チ遺物ノ目錄ヲ記シテ、其遺物ノ價額ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權ヲ以テスルヿ、然ル時ハ己レノ財産ト遺物トヲ分チ、其遺物中己レノ相續スヘキ分ノ及フヘキ丈ケナラテハ、死者ノ負債ヲ擔當スルニ及ハス、然レトモ負債ヲ償却シテ猶ホ餘リアル時ハ之ヲ所有

トス、第三遺物相續ヲ肯セサルヿ、然ル時ハ遺物中己レノ相續スヘキ部分、及其遺物ニ屬シタル責任モ共ニ棄却ス、凡ソ幼者若クハ治產ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ、遺物相續ノ始ル時、後見人ハ決シテ別段ノ約定ナク之ヲ引受クルヿヲ得ス、遺物目錄ノ利益ヲ以テスルカ、若クハ之ヲ肯セサルヘシ、但シ親族會議ノ許諾ヲ得タル上ニ非サレハ、此兩方便ヲモ行フヘカラス、遺物目錄ノ利益ヲ以テ相續ヲ承諾スルヿハ、何レノ妨碍ヲモ生セサルカ如シト雖ヒ、種々ノ手續ヲ要スルニヨリ殆ント得失相償フヘカラサルノ費用アルヿアリ、又凡ソ相續人ハ遺物目錄ノ利益ヲ以テスル者タリヒ、死者ヨリ受ケタル贈遺物ハ、返還シテ遺物中ニ算入セサルヘカラサルニ因リ、（第八百四十三條見合）相續人タルヨリ、却テ贈遺ヲ受ケシ者タルノ利益トナルヘキヿアリ、

第四百六十二條　幼者其親族ノ遺物相續ヲ爲スヿヲ後見人ノ拒ミシ後他ニ其遺物ヲ引受ル者ナキ時ハ後見人更ニ親族會議ノ許諾ヲ得テ幼者ノ爲メ其遺物ヲ引受ケ又ハ幼者丁年ニ至リ自カラ之ヲ引受ルヿヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其遺物ヲ引受クル時ノ景狀ノ儘ヲ以テ其財產ヲ受取ル可ク其以前法ニ適シテ爲タル財產賣拂ノ契約又ハ其他ノ契約ヲ取消

サント爲ス可カラス（民四六一、七八四、七九〇、八一二、二二五二、二二五八、）親族會議ノ許諾ヲ以テ、後見人幼者ニ代テ、遺物相續ヲ爲スヿヲ肯セサルヿハ、丁年者ノ之ヲ肯セサルト同一ノ効アリ、蓋シ丁年者ハ己レノ爲メ開始シタル遺物相續ヲ肯セサリシヒ、後ニ至リ未タ他ニ之ヲ引受ケタル者ナキニ於テハ、其意ヲ變シ更ニ之ヲ引受クルヿヲ得（第七百九十條見合セ）ルト雖ヒ、相續人ノアラサリシ時間ニ、管財人ノ正當ニ爲シタル處置ハ之ヲ保護セサルヘカラス、然ヒ幼者ト丁年者トノ間ニハ差違アリ、幼者ハ其肯セサリシ遺物相續ヲ他ニ引受クル者ナキニ於テハ、何レノ時タリヒ之ヲ引受クルヿヲ得ルト雖ヒ、丁年者ハ一度肯セサリシ時ハ、遺物相續ノ開始シタル時ヨリ三十年內ニ非サレハ引受クルヿヲ得ス、此差違ハ遺物相續ヲ承諾スル權、幼者ノ爲メニ期滿得免ノ期限、第二千二百五十二條見合セ）ナケレハナリ、

第四百六十三條　後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ人ヨリ幼者ニ爲シタル贈遺ヲ承諾ス可カラス

後見人幼者ノ爲メニ贈遺ヲ承諾シタル時ハ丁年者ノ之ヲ承諾シタルト同一ノ効アリトス

（民四〇七、八九四、九三五、九四〇、）

後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ、他ヨリ幼者ニ提供シタル贈遺ヲ受領スルヲ得ス、何トナレハ贈遺ニ因テ、幼者ノ歸依ヲ得ントスル者アリテ、幼者ノ道德ヲ辱カシムルヿアリ得ヘケレハナリ、然レトモ幼者ノ父母及父母中ノ後ニ生存スル者、其他ノ尊屬親ハ、親族會議ノ許諾ヲ得ルヲ要セス、幼者ニ提供シタル贈遺ヲ受領スルヿヲ得、（第九百三十五條見合セ）蓋シ法律上父母其他ノ尊屬親ハ、其卑屬親ニ關シタル道德上ノ事件ノ、最好ナル監定人ト看做セハナリ、

第四百六十四條　後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ幼者ノ不動產ニ關シタル權利ニ付キ訴訟ヲ爲ス可カラス又其權利ニ付キ他人ヨリ要スル所ヲ承諾ス可カラス（民四〇七、四六七、一一二五、一三〇四、訴四八一、四八四、商六〇、）

凡ソ訴訟ヲ爲スノ權ハ人權ト物權トニアリ、人權ニ關スル訴訟トハ、原告ニ於テ被告ノ債主ナリト述フルヿナリ、物權ニ關スル訴訟トハ、原告ニ於テ被告人ノ占有スル物件ノ所有者ナリト述ヘ、或ハ其物件ニ付權利アリト述フルヿナリ、人權若クハ物權ニ關シタ

ル訴訟不動產ヲ目的ト爲ス時ハ、之ヲ不動產ノ訴訟權ト稱シ、動產ヲ目的ト爲ス時ハ、之ヲ動產ノ訴訟權ト稱ス、

後見人ニ於テ幼者ノ不動產ノ訴訟ヲ起サントスルカ、若クハ他人ヨリ要ムル所ニ辨駁ヲ爲サス、其要ムル所ヲ承諾セントスルニハ、親族會議ノ許諾ヲ得ルヲ必要トス、蓋シ斯ノ如キ訴訟ヲ起シ若クハ其要メヲ承諾セハ、大ニ幼者ノ權利ヲ危險ナラシメ得ベケレハナリ、然レトモ不動產ノ訴訟ニ付辨護シ、若シハ動產ノ訴訟ヲ起スヿニ付テハ、之ヲ辨護スルニモ、又承諾スルニモ親族會議ノ許諾ヲ必要トセス、

第四百六十五條　後見人幼者ノ他人ト共通スル財產ノ分派ヲ求メントスルニハ必ス親族會議ノ許諾ヲ要ム可シ然トモ他人ヨリ其幼者ト共通スル財產ヲ分タント要ムル時ハ後見人其答ヲ爲スニ付キ親族會議ノ許諾ヲ必要トセス（民四六六、八一五、八三八、）

遺物ノ分派ヲ求メントスルニハ、縱ヒ其遺物全ク動產ナリト雖モ、後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルヲ要ス、何トナレハ幼者成丁ニ至ル迄其共通ヲ維持シ、以テ審判上分派ノ費用ヲ省キ、且相對ノ協議ニ因リ、其遺物中最モ幼者ニ適當スベキ物件ヲ得ントスルヿ肝

要ナルヘケレハナリ、然レトモ他人ヨリ起シタル分派ノ訴ニ答辨スル爲メニハ、親族會議ノ許諾ヲ得ルヲ要セス、蓋シ誰人モ必シモ財產ノ共通ヲ保續スルニ及ハサルニ因リ、

（第八百十五條見合セ）誰人タリトモ其訴訟ノ權ヲ妨碍シ得サレハナリ、

第四百六十六條　前條ニ記シタル財產分派ニ付キ後見人幼者ヲシテ丁年者ニ等シキ効ヲ得セシメントスルニハ遺物相續ヲ爲ス地ノ初告裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ其財產ヲ評價セシメタル後裁判所ニ於テ其分派ヲ爲ス可シ

評價人ハ其裁判所ノ上席人又ハ之ニ代ル可キ裁判官ノ面前ニテ正實ニ其職ヲ行フ可キノ誓詞ヲ述ヘタル上遺物ヲ平等ニ區分ス可シ其區分シタル物ハ裁判官ヨリ任シタル證書人ノ面前ニテ圖引ニ爲シ此等ノ官吏ヨリ其物ヲ引渡ス可シ

此手續ヲ行ハスシテ爲シタル分派ハ假ノ處置ナリト看做ス可シ（民一一〇、四六五、八二四、八三八、八四〇、一一二五、一三〇五、一三一四、訴三〇二、九六六、九七五、九八四、）

第八百十五條以下ニ、審判上ノ分派ヲ正當ニ爲ス爲メ定メタル法式ヲ掲ク、此法式ヲ守行シタル時ハ、其分派ハ幼者ノ爲メニモ、丁年者ノ爲メニモ、等シク不動不易ノ効ヲ生ス、

若シ其法式ヲ守行セサル時ハ、其分派ハ或ハ假ノ處置トシ、或ハ取消シ得ヘキモノトス、蓋シ分派者ニ於テ確定ノ分派ヲ爲ス迄ノ間、各別ニ其入額ヲ得ントスルノ法ヲ設ケシ時ハ假ノモノトシ、分派者ニ於テ審判上ノ分派ヲ正當ニ爲スタメ定メタル法式ノ一二ヲ失念シ、全ク共通ヲ止メントシタル時ハ取消シ得ヘキモノトス、分派ノ取消シ得ヘキモノナル時、幼者ハ己レノ利益ノ爲メ定メタル法式完備セサルニ因リ、其取消ヲ訴ヘ得ヘシト雖ヒ、此權ハ丁年者ニ屬スルヿナシ、

第四百六十七條　後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得且初告裁判所ノ撿事ノ撰ミタル法律學者三員ノ調告ヲ得ルニ非サレハ幼者ニ代リテ和解ヲ爲ス可カラス

又其和解ハ初告裁判所ニ於テ撿事ノ述フル所ヲ聽キタル上之ヲ認許シタルニ非サレハ其効ナカル可シ（民四〇七、四六四、四七二、二〇四四、訴八三、八八五、一〇〇四、商六〇、）

和解トハ雙方互ニ一歩ヲ讓リ、既ニ生シタル爭ヲ止メ、或ハ將ニ生セントスル爭ヲ豫メ防ク契約（第二千四十四條見合セ）ニシテ承諾（アクセプタシヨン）ト異ナリ、承諾ハ原告ノ述ヘタル權利ヲ認ムルヿナリ、又判斷（コンプロミシー）ト異ナリ、判斷ハ雙方ノ間ニ既ニ生シタル紛議ヲ斷決スルノ權ヲ

判斷人ニ授クルヿナリ、動產ニ關シタル權利ノ要メニ付テハ、親族會議ノ許諾ヲ得テ之ヲ承諾シ得ヘシト雖ヒ、決シテ判斷人ノ判斷ニ任スルヿヲ得ス、何トナレハ判斷人ニ任スルヨリハ裁判所ニ向テスル方、幼者ノ權利ヲ保護スルヿ稍ヤ確實ナレハナリ、和解ニ至テハ動產ニ關スルト不動產ニ關スルトヲ問ハス、親族會議ノ許可ト、撿事ノ撰ミタル法律學者三人ノ訓告、及裁判所ノ認可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス、

第四百六十八條　後見人幼者ノ行狀ニ付キ至重ナル戾意ノ事アル時ハ之ヲ親族會議ニ述ヘ其許諾ヲ得タル上此篇第九卷親權ノ定メタル規則ニ循ヒ幼者ヲ禁錮セント訴フルヿヲ得可シ（民三七五ヨリ三八三、四〇七、）

後見人ハ親族會議ノ許可ヲ得タル後、願ニ因ラサレハ（第三百七十七條見合セ）幼者ニ對シ懲治ノ權ヲ施スヲ得ス、且父母中生存スル者アル時ハ、其權ヲ有スルヿナク、其權全ク父母中ノ生存スル者ニ屬ス、

○第九款　後見ニ付テノ算計

第四百六十九條　凡ソ後見人ハ其職ノ終リシ時其執行ヒタル諸事ニ付テノ算計ヲ爲ス可シ（民四七一、四七五、八〇、五〇九、二一二一、二一三五、訴五二七、九〇五、商六一二、）

後見人ハ財產ノ管理人ト等ク、其管理ノ終リシ時其算計ヲ爲スヲ要ス、是レ世治上ニ付テ後見人ノ最モ切要ナルモノナリ、後見人ノ死去若クハ釋放若クハ放免ニ因テ後見ノ終ル時、其算計ハ新後見人ニ爲ス、之ニ反シテ幼者ノ死去スルカ、若クハ後見ヲ免カルヽカ、若クハ成丁ニ至リテ後見ノ終ル時ハ、其場合ニ從ヒ幼者ノ相續人、管財人ノ附屬シタル幼者、若クハ從前幼者ニシテ今成丁ニ至リ、專ラ其權利ヲ行用スルヲ得ヘキ者ニ爲スナリ、

第四百七十條　父母ヲ除クノ外總テ後見人ハ其職ヲ行フ時間ト雖ヒ親族ノ會議ニテ特ニ預定シタル期限ニ其行ヒシ諸事ニ付テノ算計書ヲ後見人ノ監察者ニ渡ス可シ然ヒ其算計書ハ毎歲一通ノ外出スニ及ハス○此書ハ印稅ナキ紙ニ記シ且之ヲ渡スニ付キ裁判上ノ式ヲ用ルヿナク且費用ヲ要スルヿナシ（民四二〇）

行事ニ付テノ算計書ハ時々之ヲ作ルヘキモノナレハ、印稅及登記ヲ免シテ其費用ヲ省

ク、後見人ノ監察者ハ此算計書ニ因リ、幼者ノ事務ノ運行、後見人ノ爲ス管理ノ景狀ヲ容易ニ監察スルヲ得ヘシ、然レトモ父母ハ假令其子ノ財産ノ入額ヲ所得ト爲スノ權ナキ者ト雖トモ、行事ニ付テノ算計書ヲ出スヿノ拘束ヲ受クルヿナシ、蓋シ法律ハ以テ其慈愛ニ委ネタレハナリ、

第四百七十一條　後見人ノ最終ノ算計書ハ幼者ノ丁年ニ至リ又ハ後見ヲ免カルヽニ至リシ時幼者ノ費用ヲ以テ之ヲ記ス可シ但シ其費用ハ後見人之ヲ前拂ニ爲ス可シ此算計書ニ記シタル費用中確證アリテ且幼者ノ爲メ利益トナル可キ趣意ヲ以テ爲シタルモノハ後見人ニ償フ可シ（民四七六、四八〇、四八八、訴一三〇、五二七ヨリ五四二、）

後見人ノ確定ノ算計ノ費用ハ、必ス幼者ニテ之ヲ擔當ス、然レトモ放免ヲ受ケタル後見人、己レニ代ル後見人ニ爲スヘキ特別ノ算計ノ費用ハ、後見人ノ擔當スヘキヿ一般人ノ聽ルス所ナリ、蓋シ後見人ノ不行跡若クハ不正實ノ結果ヲ以テ、幼者ノ財産ノ損耗ト爲スヘカラサレハナリ、後見人ノ算計ハ相對ニ爲シ或ハ後見ノ始マリシ地ノ裁判所ニテ爲ス、其相對ノ算計ハ私記ノ證書若クハ證書人ノ記シタル證書ヲ以テ之ヲ證ス、何レノ場

合ト雖トモ其費用ハ後見人ヨリ立替置ク、何トナレハ幼者ハ未タ己レノ隨意ニ爲シ得ヘキ財産ナキヲ以テナリ、後見人ハ其後見ヲ行ヒシ時間爲シタル有益ノ費用ハ、假令管理ノ界限ヲ過キタル處置ニ付テモ其返償ヲ求メ得、蓋シ人ノ損失ヲ以テ己レヲ富マスヘカラサルノ原則ハ、幼者ニ適用スヘケレハナリ、又後見人ハ其爲シタル費用ノ果ノ有益ナリシヿハ、書類ヲ以テノミ之ヲ證シ得ヘキニ非ス、凡ソ他ノ一切ノ方法ヲ以テ證シ得ヘシ、

第四百七十二條　後見人ト幼者ノ丁年ニ至リシ者トノ間ニ約定ヲ爲シタリト雖トモ其約定ヲ爲ス以前ニ詳細ナル後見人ノ算計書及ヒ證書類ヲ其幼者ニ渡シ且其約定ヲ爲スヨリ少クトモ十日前ニ幼者其算計書及ヒ證書類ヲ受取リタル證書アルニ非サレハ其約定ノ効ナカル可シ（民九〇七、二〇四四、訴五三六、）

本條ノ規格ハ前ノ幼者猶ホ後見人ノ威權ノ下ニアリテ、其管理ノ處分ニ付充分ノ見識ヲ得サル時、幼者猥リニ後見人ノ算計ノ釋放ヲ與ヘンヿヲ預防スルノ趣意ナリ、之ト同一ノ趣意ニ因リ第九百七條ニ於テ、幼者ヨリ未タ算計ノ皆濟セサル所ノ、後見人ニ爲シ

タル贈遺ハ取消ト爲シタリ、幼者ヨリ出スヘキ受取書ハ、其月日ヲ官簿ニ登記スルニ及ハス、幼者受取書ヲ出シテヨリ十日内ニ取結ヒシ約定ノ取消ハ、前ノ幼者ニ非サレハ之ヲ訴フヘカラス、且此訴ハ後見人ノ算計ノ事ニ限リ、之ヲ更張シテ他ノ所爲ニ推及スルヿヲ得ス、

右ノ取消ハ畢竟後見人ノ一身ト、其後見ヲ受ケシ者トノ間ニ設ケタル禁制ナレハ、第一前ノ幼者ト後見人ノ相續人トノ間、第二幼者ノ相續人ト後見人トノ間、第三子ト其財產ヲ管理スル父トノ間ニ取結ヒタル約定ニ擬スヘキニ非スト、千八百六十六年七月九日同一月三日大審院ニテ決裁シタリ、(其文略之)

第四百七十三條　若シ後見人ノ算計書ニ付キ爭ノ生スル時ハ他ノ民法上ニ管スル爭ト同シク之ヲ訴ヘテ裁判ヲ受ク可シ(民四七五、訴五二七、)

後見人ノ計算ノ事ニ付爭ノ生シタル時ハ、普通法ニ因リテ審理セシムヘキ本條ノ規格ハ無用ナリ、凡ソ後見人ノ管理ノ事ニ關シタル爭議ヲ受理スヘキ裁判所ハ、後見ノ始マリシ地ノ裁判所ナリ、

第四百七十四條　後見人ヨリ幼者ニ償フヘキ殘額アル時ハ別ニ裁判所ニ訴出セスヒ算計書終成ノ時ヨリ其息銀ヲ拂ハシム可シ

幼者ヨリ後見人ニ償フ可キ殘額アル時ハ算計書終成ノ後其殘額ヲ償フ可キヿノ催促狀ヲ送リシ日ヨリ其息銀ヲ拂ハシム可シ(民一一五三、二一二一、二一三五、訴一二六、五四二、九〇五、商五四〇、六一二、)

後見人計算ヲ爲スニ當テ、出額ト入額トノ間ニ權衡ヲ保チ難ク、差違ノ生スルヿ殆ント常ナリ、此差違ヲ殘額ト稱ス、而シテ前ノ幼者後見人ヨリ受取ルヘキ額ハ、後見人ノ算計書ノ終成ノ時ヨリ當然ニ息銀ヲ生スヘク、之ニ反シテ前ノ後見人前ノ幼者ヨリ受取ルヘキ額ハ、前ノ幼者ニ對シ之ヲ償フヘキ催促狀ヲ送リシ時ヨリナラデハ息銀ヲ生スルヿナシ、本條ハ凡ソ人ニ償フヘキ金額ハ、其償ヲ得ント裁判所ニ訴出シタル日ヨリナラデハ息銀ヲ生スルヿナシ(第千百五十三條見合セ)トノ原則ニ戻レリト雖ヒ、抑裁判所ニ訴出スルヿハ、保護者ト被保護者トノ情ニ於テ、爲スニ耐ヘサルヿ屢ナルヘシトノ趣意ニ基ケリ、又前ノ幼者ノ受取ヘキ額ハ當然ニ息銀ヲ生シ、前ノ後見人ノ受取ヘキ額ハ訴

出ノ日ヨリナラデハ生セストノ差等ハ、前ノ幼者ハ未タ世事ノ經驗少ク、且其嘗後見人ニ對シテハ恩儀尊敬ヲ盡サヽルヘカラサルニ因リ、法律上ニ於テハ特別ニ前ノ者幼ヲ保護スルヿヲ要シタリ、

第四百七十五條　後見ノ諸事ニ付キ幼者ヨリ後見人ニ對シ訴訟ヲ爲スヿヲ得可キ權ノ期滿得免ハ幼者ノ丁年ニ至リシ時ヨリ十年ナリトス（民四七二、四八八、一三〇四、訴五四一、）

後見人ハ償ヲ得スシテ重任ヲ行ヒ、之カ爲メ其不動產ハ、其任ノ終リシ上ハ、其費用セシ所ト收入セシ所トノ計算ニ付キ、永ク不安ノ中ニアラシメサルヿ穩當ニシテ、且計算ニ關シタル許多ノ書類ヲ、永ク保存スルヿ事實難キヲ以テノ故ニ、概シテ三十年ト定メタル期滿得免ノ期限ノ變則ヲ設ケテ、幼者成丁ノ時ヨリ十年ト定メタリ、然レ𪜈此規則ハ後見ノ事ニノミ適用スルヲ得ヘキニ因リ、後見人ノ算計書終成ノ後、幼者ニ償フヘキ殘額ノ如キハ、三十年ヲ經過セサレハ期滿得免ノ生スルヿナシ、又本條ハ幼者ヨリ後見人ニ對シテノ訴訟權ノミノヿヲ說クニ因リ、後見人ヨリ幼者ニ對シテノ訴訟權ハ、三十年ヲ經過セサレハ期滿得免ノ生スルヿナシ、

幼者成丁ニ至リシ後、猶ホ後見人ノ財產上書入質ノ權ノ順序ヲ保有セント欲セハ、成丁ニ至リシヨリ年內ニ更ニ官簿ニ登記セシメサル可ラス（千八百五十五年三月廿五日法律）

○第三章　後見ヲ免ル、事

「エマンシパーシヨン」（後見ヲ免ル、事）トハ、幼者ヲシテ父ノ權若クハ後見人ノ權ヨリ免レシメ、身體ヲ自治シ住所ヲ撰定シ、且法律ニ定メタル限內ニ於テ、其財產ヲ管理セシムルノ措置ナリ、故ニ後見ヲ免カレシ幼者ハ、其財產ノ管理上ニ付テハ未タ恰モ授業生ノ如ク、其財產ヲ徒費スルノ憂ナク、自ラ財產管理ノ事務ニ習熟ス、後見ヲ免ル、事ハ或ハ默許ニ因リ或ハ明許ニ因ル、蓋シ婚姻ニ原由スル時ハ默許ニ因リ、治安裁判官若クハ親族會議ノ評議ニ原由スル時ハ明許ニ因ルナリ、

第四百七十六條　幼者ハ婚姻ヲ爲スニ因リ當然其後見ヲ免ル（民一四四、四八五、一三八八、二二〇八、）

結婚ニ因リ後見ヲ免レシムルハ世治上ノ要件ナリ、蓋シ一面ヨリ視レハ幼年ト雖𪜈親族ノ長タル所ノ夫、他人ノ權ニ從フヘカラサレハナリ、（己レノ身體ヲ自治スルノ器能

ナキ者ナラハ、結婚シテ夫タルノ務メヲ行ヒ、或ハ引續テ父若クハ母タルノ務メヲモ行ヒ得ヘシト、判斷スヘカラサレハナリ)又他ノ一面ヨリ視レハ婦ハ、其夫ノ權ニノミナラデハ從フヘカラサレハナリ、若シ幼者タル夫婦中ノ一方ノ者、縲若クハ寡トナルトキ、依然トシテ其後見ヲ免カレテ止ムヿナシ、

第四百七十七條　幼者ハ婚姻ヲ爲サスト雖トモ滿十五歳ノ齡ニ至リシ時ハ其父又父ナキニ於テハ其母ヨリ後見ヲ免カル可キノ許シヲ受ケ得可シ

此ノ如ク幼者ヲシテ後見ヲ免レシメント爲スニハ父若クハ母ヨリ治安裁判所ノ書記役立會ノ上ニテ其裁判官ニ其旨ヲ述ヘ其裁判官之ヲ聞届クルヿノミヲ以テ足レリトス(民四八五、)

親ノ權ヲ行フ所ノ父及母ハ、互ニ其承諾ヲ得ルヲ要スルヿナク、其公生若クハ私生ノ子ノ後見ヲ免レシメ得、母ハ父ノ死去シタル時、其子ノ後見ヲ免レシムルノ權アルノミナラス、猶ホ其父ノ失踪シタルカ、治產ノ禁ヲ受ケシカ、若クハ風癲院ニ入舍シタルカノ時モ其權アリトス、何トナレハ父ナキニ於テハノ語ハ、凡ソ父ニ於テ其意ヲ表スルヿ能ハ

サル一切ノ場合ヲ包含スレハナリ、

第四百七十八條　父母ナキ幼者ハ滿十八歳ノ齡ニ至リシ時親族會議ニテ相當ト思量スルニ於テハ後見ヲ免ルヽヿヲ得可シ

此場合ニ於テハ親族會議ニハ幼者ノ後見ヲ免ルヽヿヲ許可スル決定書ヲ記シ其會議ノ上席人タル治安裁判官其決定書ニ幼者ハ其後見ヲ免カルト云ヘル語ヲ記入シタルヲ以テ其幼者後見ヲ免ルヽヿヲ得可シ、(民四〇七、四一六、四八五、訴八八三)

幼者滿十五歳ニ至レハ、其父若クハ母ヨリ後見ヲ免ルヿヲ得ルト雖トモ、親族會議ヨリ後見ノ免ヲ得ントスルニハ、滿十八歳ニ至ラサレハ之ヲ得ヘカラス、此差違ハ幼者ノ器能ヲ監定スルハ、其父若クハ母ニ如クハナク、且其父若クハ母ハ後見ヲ免レシメシ後タリトモ、仍ホ其參言ヲ以テ幼者ヲ督理シ得ルニ因テナリ、

第四百七十九條　前條ニ記スル所ノ場合ニ於テ後見人幼者ノ後見ヲ免ルヽヿヲ求ムルヿナク幼者ノ從兄弟又ハ更ニ近キ血屬及ヒ姻屬ノ親一人又ハ數人幼者ノ後見ヲ免ルヽヿトヲ相當ト思量スル時ハ此等ノ者ヨリ此事ヲ議セシムル爲メ親族會議ヲ爲サシム可キコト

ヲ治安裁判官ニ求ムルヲ得可シ其裁判官ハ此求メヲ聽ルサヽルヲ得ス（民四〇六、四七八、七三五、）

幼者ヲシテ後見ヲ免レシムル爲メ、親族會議ヲ爲サシメンヿヲ治安裁判官ニ求メ得ヘキ者ハ、本條ニ記シタル人々ニ限ルナリ、因テ幼者ハ此求メヲ爲スヲ得ス、且治安裁判官モ其職權ヲ以テ、幼者ヲシテ後見ヲ免レシメンカ爲メ、親族會議ヲ爲サシムルヿヲ得ス、

第四百八十條　後見人ノ算計書ハ管財人ノ立會ニテ後見ヲ免レタル幼者ニ之ヲ渡ス可シ此管財人ハ親族會議ニテ任スヘシ（民四〇七、四七一、訴五二七、）

凡ソ管財人ハ親族會議ニテ之ヲ任スト雖ヒ、幼者タル婦ノ管財人ハ丁年者タル夫ヲ以テ當然ニ之ニ充ツ、（第二百十三條第二千二百八條見合セ）後見人ノ算計書ヲ請取ル所ノ後見ヲ免レシ幼者ノ管財人ハ、必ス特別ノモノトス、後見人ノ算計書相對ヲ以テ渡シタルカ、若クハ裁判ニ因テ渡シタル時、一般ノ管財人其職ヲ行ヒ始メ、其參言ヲ以テ後見ヲ免レシ幼者ヲ補佐シ其管理ヲ監督ス、管財人ハ多ク常ニ前ノ後見人ヲ以テ之ニ充

ツ、管財人ノ職掌ハ後見ヲ免レシ者ノ金錢上ノ資益ヲ保護スルニアリ、要スルニ管財人ハ後見ヲ免レシ者ヲ補佐シ、後見ヲ免レシ者自ラ其事ヲ行フ、後見人ハ之ニ反シテ幼者ノ身體及財產ノ爲メニ之ヲ附ス、故ニ幼者自ラ事ヲ行フヿナク、後見人之ヲ代理シ幼者ハ其事ニ參與セサルヿ多シ、

第四百八十一條　後見ヲ免レシ幼者ハ其不動產ヲ九年ニ過キサル時間貸渡シノ契約ヲ結ヒ又ハ其入額ヲ受取リテ其受取書ヲ與ヘ其他總テ財產ヲ支配スルノミノ事ヲ爲シ得可シ但此等ノ事ヲ爲シタル後之ヲ取消サント訴ヘ出スヿヲ得可キ場合ハ丁年者ト同一タル可シ（民一〇八、三七二、三八四、三九〇、四〇五、四七一、四八〇、一三〇五、一四二九、一七一八、一九九〇、訴九一〇、）

後見ヲ免レシ幼者ノ權力ハ所爲ノ輕重ニ因リ異同アリ、蓋シ本條ニ記シタル財產管理ノ爲メノミノ事ニ付テハ、之ヲ專行シ得ルト雖ヒ、管理ノ界限ヲ越エタル處置ヲ爲スカ爲メニハ管財人ノ立會ヲ必要トシ、（第四百八十條四百八十二條九百三十五條見合セ）且至重ノ處置ニ付テハ後見人ノ爲メ定メタル法式ニ因ラサルヲ得ス、（第四百八十三條

同四條見合セ)又生存中ノ贈遺、判斷人ノ判斷ニ任スルカ如キ元來爲シ得ヘカラサル處置アリ、後見ヲ免レシ幼者ハ獨斷ニテ九年ニ過キサル、貸渡ノ契約ヲ結ヒ其入額ヲ收入シ其財產ヲ修理保全スル等、純然タル管理ノ處置ヲ爲シ得、此等ノ處置ニ付テハ普通法ニ因リ後見ヲ免レシ幼者モ丁年者ト等シク、錯誤强壓若クハ詐僞ノ原由アルニ非ラサレハ、其處置ノ取消ヲ訴フヘカラス、

第四百八十二條　後見ヲ免カレシ幼者ハ其管財人ノ立會ナクシテ不動產ニ管シタル訴訟ヲ爲シ及ヒ同上ノ訴訟ノ被告トナリテ辨護シ又ハ人ニ貸シタル金額ヲ受取リ其受取書ヲ與フルヿヲ爲ス可カラス其受取タル金額ハ管財人其用方ヲ監察ス可シ(民四八〇、五二六、八四〇、九三五、一〇三、訴四八一、四八四、)

後見ヲ免レシ幼者其管財人ト立會ノ上ハ、本條ニ述ルカ如ク不動產ノ訴訟ヲ起シ若クハ之ヲ辨護シ且又財產ノ分派ヲ求メ(第八百四條見合セ)生存中ノ贈遺ヲ受クルヿ(第九百三十五條見合セ)ヲ得、然レトモ不動產ニ關シタル權利ニ付、人ノ要スル所ヲ承諾スルカ爲メニハ、親族會議ノ許諾ヲ必要トス、(第四百六十四條四百八十四條ノ意ヲ酌量

シテ)動產ニ關スル事件ニ付テハ、訴訟ヲ起シ之ヲ辨護シ、且人ヨリ要スル所ヲ承諾スル爲メ、管財人ノ立會モ親族會議ノ許諾ヲモ要スルヿナシ、後見人ハ特ニ人ニ貸シタル金額ノ本賓ヲ請取リ、其請取書ヲ與ヘ得ルト雖トモ、後見ヲ免レシ幼者ハ其管財人ノ立會ヲ以テセサレハ、此等ノ處置ヲ爲スヲ得ス、若シ負債主ニ於テ管財人ノ立會ナク、後見ヲ免レシ幼者ニ負債ノ償還ヲ爲ストモ、其義務ヲ免カルヽヿナシトス、

後見ヲ免レシ幼者管財人ノ立會ヲ以テスル時ハ、各年ノ入額五十「フラン」ニ過キサル公債證書ヲ賣拂ヒ、又ハ佛國執行ノ株式一個ヲ賣拂フヿヲ得、

第四百八十三條　後見ヲ免レシ幼者金額ヲ借受ケントスルニハ何レノ口實ヲ以テスルトモ親族會議ニテ之ヲ許可スル決定ヲ得且初告裁判所ニテ檢事ノ說ヲ聽キタル上其親族會議ノ決定ヲ認可スルノ言渡ヲ得ルヿヲ必要トス(民四〇七、四五七、訴八三、八八五、刑四〇六、)

本條ニ記シタル「何レノ口實ヲ以テスルトモ」ノ語ニ因レハ、後見ヲ免レシ幼者獨斷ヲ以テ、財產管理ノ限內ニ在テ些々タル金額ヲ借入ルヽトモ、之ヲ以テ義務ヲ負ヒタルモノトセス、故ニ貸渡シタル者ニ於テ全ク損失ヲ來スノ恐ナキヲ免レス、

第四百八十四條　後見ヲ免レシ幼者ハ未タ後見ヲ免レサル幼者ノ爲メ定メタル所ノ法式ニ循ハスシテ其不動產ヲ賣拂ヒ又ハ人ニ贈與シ又ハ其財產支配ノ爲メノミノ外他ノ處置ヲ爲ス可カラス

又人ヨリ物ヲ買入レ又ハ其他ノ事ニ付キ此幼者義務ヲ負ヒタル時其價額ノ多キニ過クルニ於テハ之ヲ減ス可シ此事ニ付テハ裁判所ニテ幼者ノ財產及ヒ幼者ト契約シタル者ノ邪正並ニ幼者ノ費用ノ有益又ハ無益ヲ考察シテ其裁判ヲ爲ス可シ（民四五七、四八五、九〇三、一〇九五、一〇三五、一三一四、）

後見ヲ免レシ幼者ハ己レノ不動產ヲ賣拂ヒ得サルニ因リ、固ヨリ之ヲ書入質ニ爲スヲ得ス、何トナレハ書入質ト爲スニハ必ス之ヲ賣拂フノ權力アルヲ要スレハナリ、（第二千百二十四條見合セ）故ニ後見ヲ免レシ幼者其不動產ヲ書入質ト爲スニハ、第四百五十條第四百五十八條及第四百五十九條　遺物相續ヲ收領シ若クハ之ヲ拒ムトキハ、第四百六十一條、生存中ノ贈遺ヲ受クルカ爲メニハ、第九百三十五條、和解ヲ爲スカ爲メニハ、第四百六十七條ニ從ハサルヘカラス、後見人ハ不動產ヲ買入レ得ルト雖ヒ、後見ヲ免レシ

幼者ニ至テハ斯ノ如キ財產管理ノ界限ヲ越エタル處置ハ、其管財人ノ立會ヲ以テセサレハ正當ニ爲スヲ得ス、

後見ヲ免レシ幼者、其權力ノ界限ヲ過キタル處置ヲ爲シタル時、其處置已レノ損害トナルヿヲ證スルニ於テハ、其取消ノ言渡ヲ得ルヿアルヘシ、（第千三百五條見合セ）之ニ反シテ其處置其權力ノ界限ヲ過キサル時ハ、其取消ヲ訴ヘ得スト雖ヒ、人ヨリ物ヲ買入レ若クハ其他ノ處置ニ因テ契約シタル過當ノ義務ノ減少ノ言渡ヲ、裁判所ヨリ得ルヿアルヘシ、

第四百八十五條　後見ヲ免レシ幼者他人ヨリ負ヒタル義務ヲ前條ニ由リ減ス可キノ言渡ヲ受ケタル時ハ後見ヲ免レシ益ヲ失フヿアル可シ其後見ヲ免レタル益ヲ取消サントスルニハ以前後見ヲ免レタル時ト同一ノ法式ニ循フ可シ（民四七七、四八四、四八六、）

過當ノ義務ヲ契約シ其減少ノ言渡ヲ受クル時ハ、管理上ニ付其幼者ノ不能ヲ證スルニ足ルヘシト雖ヒ、之ニ因テ當然後見ヲ免レシ利益ヲ失ハシムルヿナク、父若クハ母ヨリ治安裁判官ニ其申述ヲ爲スカ、又ハ父及母ノアラサル時ハ、親族會議ノ決定ヲ以テセサ

レハ之ヲ失ハシムルヿヲ得ス、然レ𪜈後見ヲ免レシ幼者ノ婚姻ノ存立スル間ハ、決シテ後見ヲ免レシ利益ヲ失ハシムルヿヲ得ス、何トナレハ家族ノ長タル夫ヲシテ其財産管理上ニ付他人ノ指揮ヲ受ケ、其婦ヲシテ夫ニ非サル他人ノ保護ヲ被ラシメントセハ、抑婚姻ノ本旨及世治ニ戻リ爰ニ至テ弊害百出スヘケレハナリ、

第四百八十六條　後見ヲ免レシ益ヲ失ヒタル幼者ハ其日ヨリ再ヒ後見ヲ受ケ丁年ニ至ル迄ノ時間常ニ後見人ノ照管ヲ受ク可シ（民四七六、四八五、四八八、）

後見ヲ免レシ利益ヲ失ヒタル幼者ハ、再ヒ其父若クハ母若クハ尊屬親ノ後見ヲ受クト雖𪜈、其父若クハ母ハ一度後見ヲ免レシメ、其幼者ナル子ノ財産ノ入額ヲ得ルノ權ヲ放棄セシニ因リ、更ニ此權ヲ得ルヿナシ、然レ𪜈最前ノ後見人尊屬親ニ非サリシ時ハ、親族會議ニテ新ニ後見人ヲ任スヘシ、

己レノ契約シタル義務ノ減少ヲ求ムルノ權ハ、後見ヲ免レシ幼者ニノミ屬ス、而メ若シ其幼者此求メヲ爲シ、成丁ニ至ル迄再ヒ後見ヲ受クルノ恐アル時ハ、其成丁ニ至ルヲ俟テ其減少ヲ求メ得ヘシ、

第四百八十七條　後見ヲ免レシ幼者商業ヲ爲ス時ハ其商業ニ關シタル事ニ付テハ之ヲ丁年者ト同視ス可シ（民一三〇八、商二、三、六、六三八、）

幼者ハ左ノ要件ヲ具備セサレハ商業ヲ爲スヲ得ス、第一後見ヲ免レシヿ、第二滿十八歲以上ニ至リシヿ、第三商業ヲ爲スタメ特ニ親ノ權ヲ行フ所ノ父若クハ母ノ許諾、又父若クハ母ノナキ時ハ裁判所ノ認可ヲ經タル親族會議ノ許諾ヲ受ケシヿ、第四此許諾ヲ民法裁判所ノ書記局ノ簿册ニ登錄スルヿ、（商法第二十五條見合セ）商業ヲ營ム所ノ幼者ハ尋常後見ヲ免レシ幼者ニ比スレハ其權力稍大ニシテ、其商業ニ關シテハ諸種ノ契約ヲ爲シ、金額ヲ借入レ其不動産ヲ書入質ト爲スヲ得、（商法第六條見合セ）而メ縱ヒ損失ヲ受クルモ、其契約シタル義務ノ減少及取消ヲ求ムルヿヲ得ス、

○第十一卷　丁年ノ事、治産ノ禁ノ事、裁判所ヨリ任スル補佐人ノ事、（千八百三年三月二十九日決定同月八日下達）

○第一章　丁年ノ事

第四百八十八條　丁年ハ滿二十一歲ナリトス○此齡ニ至ル者ハ婚姻ノ卷ニ記シタル制禁ヲ

除クノ外總テ民法上ニ管シタル生理ノ所爲ヲ行フヿヲ得可シ（民一四八、一五一、三四六、四八九、五〇九、一三一三、）

丁年トハ二十一歳以上ノ齡ニ至リシ佛蘭西人ノ身位ナリ、丁年ハ日ヨリ日瞬時ヨリ瞬時ヲ以テ算シ、佛蘭西人ノ第二十一歳ニ至リ、其誕生ノ回期タル瞬時ヲ過クレハ直ニ丁年者トナリ、示後凡ソ生理ノ所爲ヲ自ラ行フヿノ權力ヲ得、然レトモ結婚スル爲メ男ハ滿二十五歳ニ至ル迄ハ、其父母若クハ其他ノ尊屬親ノ許諾ヲ得ルヲ要シ、人ノ養子トナル爲メニハ男女トモ滿二十五歳ニ至ル迄ハ、其父母ノ許諾ヲ得ルヲ必要トス、

人ノ身位權力ヲ理スル法律ハ人權「スタチュペルソネル」ナルニ因リ、其外國人ハ契約ヲ取結フノ權力アリヤ否ヤヲ知ルニハ、其國法ニ因ラサルヘカラス、然レトモ此規則ニハ至當ナル寛恕ヲ加ヘ、佛蘭西人ハ滿二十一歳以上ニ至リシ外國人ト契約ヲ取結ヒ、其外國人ハ其國法上ニ於テハ猶ホ幼者ナリト雖トモ、輕舉不注意ノヿナク正意ヲ以テ之ヲ取結ヒシニ於テハ、正ニ其施行ヲ求ムヲ得ト、千八百六十一年一月十六日大審院ニ於テ決定シタリ、

○第二章　治産ノ禁ノ事

治産ノ禁トハ裁判申渡若クハ法律ヲ以テ、財産ヲ管理スルノ權力ヲ稅フヿナリ、而シテ治産ノ禁ニ二種アリ、其一ヲ審判上ノ治産禁ト稱シ、專ラ此章ニ記スル所ニ係リ、常ニ白痴狂癲ノ景狀アル丁年者ノ利益ノ爲メ裁判所ヨリ之ヲ言渡ス、其二ヲ法律上ノ治産禁ト稱ス、施體加辱ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ者ニ附加シテ法律上當然之ヲ科ス、

第四百八十九條　常ニ白痴癲狂ノ景狀アル丁年者ハ間々本心ニ復スル事アリト雖トモ治産ノ禁ヲ受ク可シ（民二八、一七四、五一二、九〇一、一一二四、訴八九〇、刑二九、）

白痴トハ常ニ精神暗弱頑愚ニシテ判條考旨ヲ了得スルノ能力ナキ者ナリ、癲トハ精神錯亂シテ千變萬異彼是互ニ齟齬シタル考旨ヲ提出スル者ナリ、又狂トハ癲ノ最モ甚シキモノニシテ、自己及他人ノ爲メ危險躁擾ヲ與サシムルモノナリ、治産ノ禁ハ此等ノ景狀、平常ノ擧動中ニ顯然タルモノニ非サレハ言渡スヘカラス、故ニ邂逅一二ノ奇異躁擾ノ擧動アリトモ、以テ治産ノ禁ヲ言渡サシムルニ足ラス、

治産ノ禁ヲ言渡ス者ハ多ク丁年者ナリト雖モ、幼者ニモ之ヲ言渡シ得、幼者ノ成丁ニ至

リシ年ノ如キハ、未タ充分ノ思慮ナク、其利益ヲ損害シ財産ヲ減亡シ得ヘケレハ殊ニ然リ、又結婚シタル女ニモ之ヲ言渡シ得、此女婚姻ノ契約ノ種類ニ因テ、其財産管理ノ權ヲ專有スルトキハ、殊ニ然リ、

第四百九十條　凡ソ血屬ノ親ハ互ニ治産ノ禁ヲ受ケシムルノ求メヲ爲スヿヲ得可シ又夫婦モ互ヒニ其求メヲ爲スヿヲ得可シ（民四九一、訴八九〇、）

治産ノ禁ヲ受ケシムルノ求メヲ爲スノ權ハ、假令相續人タラントスル者ニアラストモ、總テノ血屬ノ親ニ屬ス、又此權ハ婦ニ對シテハ夫ニ屬シ、夫ニ對シテハ婦ニ屬ス、然レトモ婦ハ夫ニ恭敬ヲ盡サヽルヘカラサルニ因リ、婦ニ於テ此權ヲ行ハントセハ、豫メ裁判所ノ許可ヲ受ケサルヘカラス、本條ノ文意ノ界限明カナルニ因リ、己レ自ラ治産ノ禁ヲ受ケント求ムルヿヲ得ス、何トナレハ一人ニテ原被兩造ノ任ニ當ルヘカラサレハナリ、又姻屬ノ親ニ治産ノ禁ヲ受ケシメント求ムルヿヲ得ス、何トナレハ原告ニ於テ充分ナル資益ノ關係アルヲ證スルヿ難カルヘケレハナリ、

第四百九十一條　狂疾ノ場合ニ於テ配偶者或ハ血屬ノ親ヨリ狂者ヲシテ治産ノ禁ヲ受ケシムヘキヿヲ訴ヘ出サヽル時ハ檢事ヨリ之ヲ求ムヘキヿ又白癩癲疾ノ場合ニ於テハ此官吏ヨリ配偶者又ハ分明ナル血屬ノ親ナキ者ニ對シ治産ノ禁ヲ受ケシムヘキヿヲ求メヲ爲スヿヲ得可シ（訴八九〇、刑六四、）

世治及人ノ靜謐ヲ妨害スヘキ狂人アル時ハ、假令其血屬ノ者アリテ治産ノ禁ヲ受ケシムヘキノ求メヲ爲サヽル時ト雖モ、檢事ニ於テ之ヲ求ムルノ權利及義務アリ、之ニ反シテ常ニ風癲白痴ノ景狀アル者ト雖モ、狂人ノ所爲ヲ恣ニスルヿナキニ於テハ、其者ニ血屬ノ親及配偶者ノアラサル時ナラヂハ治産ノ禁ヲ受ケシメント求ムルヿヲ得ス、蓋シ斯ノ如キ場合ニ於テ狂人ヲ一切ノ保護外ニ置クヘカラス、且相續人ナキ時ハ遺物ヲ徵收スヘキ官府ノ利益ヲ保護スルヿヲ要スレハナリ、

第四百九十二條　凡ソ治産ノ禁ヲ受クヘキノ求メハ初告裁判所ニ之ヲ爲ス可シ（民一〇二、四九三、訴五九、六一、）

本條ニ所謂裁判所ハ、治産ノ禁ヲ受ケシメントスル者ノ住所ノ裁判所ナリ、

第四百九十三條　白癩風癲狂疾ノ諸事ハ之ヲ書面ニ詳記スヘシ○治産ノ禁ヲ受ケシム可キ

ヿヲ求ムル者ハ證人及證書ヲ出ス可シ(民四九〇、訴二五二、八九〇、)

治產ノ禁ヲ受ケシムルノ求メハ代書人ヲ經テ之ヲ爲ス、其願書中ニハ求メノ根據ト爲スヘキ諸事ヲ逐條ニ詳記ス、

第四百九十四條　裁判所ヨリ此篇ノ第十卷(幼年後見等ヲ云)第二章第四欵ニ定メタル所ノ法則ニ循ヒ集會ヲ爲シタル親族會議ニテ治產ノ禁ノ求メヲ受ケシ者ノ景狀ニ付キ其意見ヲ述フ可キヿヲ命ス可シ(民四〇七、四九五、訴八九一、)

裁判所ハ檢事ノ述フル所ヲ聞キシ上、願書中ニ詳記シタル事件ノ姓質及輕重ニ因テ、別段趣意ヲ陳セスシテ其求メヲ聽ルサス、或ハ親族會議ヲ爲スヘキヿヲ命ス、

第四百九十五條　治產ノ禁ヲ受ケシム可キノ求メヲ爲シタル者ハ親族會議ノ列ニ加ハル可カラス然ヒ其求メヲ爲シタル者之ヲ受ク可キ者ノ配偶者又ハ其子ナル時ハ親族會議ノ列ニ加ハルヿヲ得可ク唯其決議ノ時辭ヲ參ラ可カラス(民四〇七、四四二、五〇七、)

治產ノ禁ヲ受ケシムヘキ者ノ子ハ、親族會議ノ員トナルヲ得ルト雖ヒ、其求メヲ爲シタル子ハ決議ノ員ニ加ハルヘカラス、何トナレハ若シ決議ノ員ニ加ハラシメナハ、以テ自己ノ訴ヘノ裁判役トナレハナリ、婦モ親族會議ノ員トナルヲ得、又假令會議ノ員タラスヒ其意見ヲ述フルヿヲ得ト、千八百六十二年七月二十七日「モンペリエー」ノ審院ニ於テ判決シタリ(其文略之)

第四百九十六條　裁判所ニ於テ親族會議ノ意見ヲ聽キタル後裁判官會議ノ室ニ於テ被告人ヲ問糾ス可シ若シ被告人出席ヲ爲スヿ能ハサル時ハ特ニ任シタル裁判官一員書記官ト俱ニ其家ニ至リテ之ヲ問糾ス可シ何レノ場合ニ於テモ檢事ハ問糾ノ場所ニ立會フ可シ(民四九七、訴八三、八九三、)

治產ノ禁ヲ受ケシメントノ願書、及親族會議ノ意見書ハ、問糾ノ前被告者タル治產ノ禁ヲ受ケシムヘキ者ニ送達シ、以テ其辨護ノ便ニ供ス、(訴訟法第八百九十三條見合セ)爰ニ至ル迄被告人ハ治產禁ノ求メニ關係セサリシカトモ、自今被告人直ニ自ラ參與スヘシ、

第四百九十七條　一度問糾ヲ爲シタル後裁判所ニ於テ必要ナリト思量スル時ハ被告人ノ身體及ヒ財產ヲ監察ス可キ假ノ支配人ヲ任ス可シ(民四九六、五〇五、)

此假ノ支配人ハ切要ニシテ且急迫ナル處置ノミヲ爲シ、其財產モ其支配ノ抵當トシテ書入質ト爲スヿナシ、

第四百九十八條　治產ノ禁ノ求メニ付テノ裁判ハ原告被告ノ雙方ヲ呼出タル上又ハ一方ノ者呼出ヲ受ケテ猶出席セサル上公ケニ吟味ヲ爲シテ之ヲ言渡ス可シ（訴八七、一一六）

治產ノ禁ノ求メニ付テノ下調ハ、裁判官會議ノ室ニ於テ秘密ニ之ヲ爲ス、然レトモ其言渡ハ訟庭ニ於テ之ヲ爲シ、以テ其求メヲ聽ルサ、ル時ハ、被告人ノ精神ニ錯亂ナキヿヲ他人ニ知ラシメ、又之ヲ聽ルス時ハ、以後被告人ノ契約ヲ取結フノ權力ナキヿヲ知ラシム、

第四百九十九條　裁判所ニ於テ治產ノ禁ヲ受ケシム可キノ求メヲ聽ルサ、ル時ト雖トモ裁判所ヨリ其時ノ景狀ニ隨ヒ日後被告人ハ其言渡ニ因リ任シタル輔佐人ノ立會アルニ非サレハ訴訟ヲ爲シ又ハ和解ヲ爲シ又ハ金高ヲ借受ケ又ハ之ヲ受取リテ其受取書ヲ與ヘ又ハ自己ノ不動產ヲ賣拂ヒ及ヒ贈與シ或ハ書入質ト爲ス等ノ事ヲ爲ス可ラサル旨ヲ言渡スヿヲ得可シ（民五一三、二〇四五、二一二四、二一二六、訴八九七、）

治產禁ノ求メヲ吟味シ、被告人常ニ白痴癲狂ノ景狀ナシト雖トモ、暗愚ナルカ若クハ精神

錯亂シテ己レノ資益ヲ損害スヘキ處置ヲ爲サンカノ恐レアル時、裁判所ハ治產禁ヲ聽ルスカ聽ルサ、ルカノ言渡ヲ爲サス、其中庸ヲ取テ被告人ニ一ツノ補佐人ヲ附シ、大切ナル處置ヲ爲スニ當テ之ト協議セシムルヿアリ、之ヲ裁判上ノ補佐人ト稱ス、

第五百條　初告裁判所ノ言渡ヲ控訴シタル時控訴院ニテ必要ナリト思量スルニ於テハ其治產ノ禁ノ求メヲ受ケシ者ヲ再ヒ問糺シ又ハ特ニ任シタル裁判官ヲシテ其問糺ヲ爲サシム可シ（訴四四三、四七〇、八九四、）

初告裁判所ニテ治產禁ノ求メヲ裁斷スル時、其判斷ハ必ス初審ノモノトス、

第五百一條　治產ノ禁ヲ受ケシムル言渡書又ハ其輔佐人ヲ任スル言渡書ハ原告人ノ求メニ循ヒ之ヲ寫取リ其寫ヲ被告人ニ送達シ且十日內之ヲ懸帖（カケフダ）ニ記ス可シ其懸帖ハ訟庭及ヒ其裁判所管轄內ニ在ル證書人ノ役所ニ懸ク可シ（民四九九、五一三、訴八九七、）

裁判所ノ言渡ヲ得タル者ハ、書記役ヲシテ之ヲ直ニ施行スヘキ書式ニ寫取ラシメ、使吏ヲシテ治產禁ヲ受ケシメタル者ニ之ヲ送達セシメ、以テ控訴若クハ歎願書ヲ出スヘキ期限ヲ算ス、然ル上ハ假令被告人ニ於テ故障ヲ述フトモ、此言渡ヲ公告メ某ハ治產禁ヲ受ケ

シニ因リ、契約ヲ取結フノ權力ナキヿヲ他人ニ報知ス、

第五百二條　治産ノ禁ヲ受ケシムル言渡又ハ輔佐人ヲ任スルノ言渡ハ之ヲ爲シタル日ヨリ其效ヲ生ス可シ○其言渡ノ後ニ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲シタル處置又ハ輔佐人ノ立會ナクシテ爲シタル處置ハ皆其效ナシトス（民四九九、五〇一、五一三、一一二四、一三〇四、一三二二、一三三八、二〇〇三、）

本條ニハ被告人ノ治産ヲ禁シタル言渡、若クハ裁判上ノ補佐人ヲ任シタル所ノ言渡ノミノヿヲ說ケリ、之ニ反シテ治産禁ノ求メヲ斥ケタル言渡ノアリシ時ハ、更ニ治産禁ヲ言渡スカ、若クハ裁判上ノ補佐人ヲ任スルカノ言渡アリシ日ヨリナラデハ、其効ヲ生シ被告人ヲシテ權力ナキモノト爲スヲ得ス、治産ノ禁ヲ受ケシ者若クハ裁判上ノ補佐人ヲ附セラレシ者ノ爲シタル處置ハ、當然其効ナキモノトシ、其處置自己ノ損失ト爲ルヿヲ證スルニ及ハス、且又間々亂心中ニ爲シタルヿヲ證スルニ及ハス其取消ヲ求メ得、然レトモ此處置ハ元來取消トセス、只ニ取消シ得ヘキモノトス、而シテ其取消ヲ求ムルノ權ハ、本人若クハ其相續人ニ非サレハ屬スルヿナク、且其權ハ預定ノ期限内ニノミ存在スヘシ（第千三百四條見合セ）契約ヲ取結フノ權力十全ノ者、人ノ權力ノ十全ナラサルヿヲ知リ若クハ知リ得タルニ、此人ト故ラニ義務ヲ契約シタルトキハ、其契約ノ執行ヲ免レントスルニ由ナク（第千百二十五條見合セ）且五百一條ニ記シタル公告ノアラザリシヿ、又其契約ヲ取結ヒシトキ、治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ住居、治産禁ノ言渡ノアリシ地ヨリ遠隔シテ、其言渡ノアリシヿヲ知ルヲ得サリシヿヲモ陳ブベカラス、（千八百六十年八月一日大審院ノ決定）

第五百三條　治産ノ禁ヲ受クル以前ニ爲シタル處置ハ之ヲ爲シタル時既ニ治産ノ禁ヲ受クヘキノ原由アルヿ著明ナルニ於テハ亦之ヲ廢棄スルヿヲ得可シ（民五〇四）

本條ニ於テ治産禁ノ言渡アリシ以前ニ爲シタル處置ハ、之ヲ取消シ得ヘシト定メタリト雖モ、裁判上ノ輔佐人ヲ任シタル以前ニ爲シタル處置ニ、之ヲ適用スヘカラス、何トナレハ輔佐人ハ治産禁ヲ言渡スニ比スレハ、稍些々タル事件ノ爲メニ之ヲ任スレハナリ、治産禁ノ言渡後ニ爲シタル處置ハ當然其効ナシ（第五百二條見合セ）ト雖モ、治産禁ノ言渡前白痴癲狂ノ景狀明白ナル時間ニ爲シタル處置ハ、只ニ之ヲ取消シ得ヘキノミ、

故ニ裁判所ニ於テ相手方ノ正否ト、治産禁ヲ受ケシ者ノ受ケタル損害ノ多少トヲ思量シテ、其處置ヲ取消シ或ハ取消サヽルヘシ、

第五百四條　人ノ死セサル中ニ治産ノ禁ノ言渡ヲ受ケ又ハ其禁ヲ受ク可キノ求メヲ受ケタル時ニ非サレハ其者ノ記シタル證書ヲ其死後ニ至リ精神錯亂ノ事ヲ申述ヘテ廢棄セント訴ルヿヲ得ス但シ其證書上ニ精神錯亂ノ證分明ナル時ハ格別ナリトス（民四八九、九〇一、一一〇九、）

訴訟ノ繁雜ト困難トヲ豫防セントスル目的ナル、本條ノ規格ハ左ノ趣意ニ基ケリ、第一人死去シタル時ハ紛問ニ因テ確證スヘキ精神錯亂ノ證ナシ、第二數人ノ相續人アリテ死者ノ生存中ハ治産禁ヲ求ムルヿヲ敢テ爲シ得サリシモ、死去後ニ至レハ動モスレハ己等ノ爲メ損失トナル處置ヲ誹難スレハナリ、因テ治産禁ノ言渡ナク又之ヲ求メラレシヿモナク死去シタル者ノ相續人ニ附與スルニ、證書中ニ癲疾ノ證ノ顯然タラサル處置ノ取消ヲ求ムルノ權ヲ以テスルヿナシ、然レトモ裁判事例及學者ノ訓條ニ因レハ、本條ノ規格ハ生存中若クハ遺囑ノ贈遺ニ適用スルヿナシ、因テ相續人證人ヲ以テ死者其贈

遺ヲ爲セシ時、精神惛惘ナリシカ若クハ錯亂セシカヲ證スルニ於テハ其取消ヲ求メ得、千八百三十八年六月三十日ノ法律ヲ以テ、凡ソ風癲院ニ入舍セシ者ハ、假令治産ノ言渡ヲ受ケス、且其求メヲ受ケスト雖トモ、入舍中ニ爲シタル處置ハ民法第千三百四條ニ從ヒ、癲狂ノ原由アリトシテ其取消ヲ求メ得ヘシト定メタリ、

第五百五條　初告裁判所ニテ爲シタル治産ノ禁ノ言渡ヲ定期内ニ控訴院ニ訴出スルヿナキ時又ハ更ニ控訴院ニ訴出スト雖トモ同院ニ於テ初告裁判所ノ言渡ヲ可ナリト爲シタル時ハ此篇ノ第十卷（幼年後見等ノ事）ニ記スル所ノ規則ニ循ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ後見人ト後見人ノ監察者トヲ任ス可シ○以前任シタル假ノ支配人ハ其職ヲ退ク可シ但シ其支配人自ラ後見ノ職ニ任セサル時ハ後見人ニ算計ヲ爲ス可シ（民四〇五、四二〇、四七一、四九七、五〇六、訴一三五、五二七、八九五、）

治産ノ禁ヲ聽ルスノ言渡アリシ上ハ、假令之ヲ控訴スルノ間タリトモ、其言渡ヲ受ケシ者ハ契約ヲ取結フノ權力ヲ失ハシム、然レトモ控訴ノ期限ノ經過シタルカ若クハ控訴ヲ爲シタル時ハ、控訴院ニテ初告裁判所ノ言渡ヲ可トシタル上ニ非サレハ後見人ヲ附スル

ヿナシ、蓋シ控訴ノ期限中財産ハ假ノ支配人之ヲ管理スルカ故ニ、敢テ急ニ後見人ヲ附スルノ緊要ナルヿナシ、

第五百六條 夫ハ當然治産ノ禁ヲ受ケタル婦ノ後見人ナリトス（民二一三、五〇八、）

夫ニ於テ治産ノ禁ヲ受ケタル婦ノ後見ヲ爲スハ、婦ヲ保護スヘキ夫タルノ權義ナルニ因リ、縱ヒ夫婦居ヲ分ツト雖ヒ其後見ハ當然夫ニ屬ス、何トナレハ本條ノ嚴且明ナル、居ヲ分チタル夫婦ノ爲メ區別ヲ立ツルヲ得サレハナリ、

第五百七條 婦ハ其夫ノ後見ノ職ニ任スルヿヲ得可シ○此場合ニ於テハ親族會議ニテ後見ノ職ヲ行フニ付テノ規則及ヒ約定ヲ立ツ可シ但シ其婦親族會議ノ決定不正ナリト思量スル時ハ之ヲ裁判所ニ訴出スルヿヲ得可シ（民四〇七、四四二、四五〇、四九〇、五〇八、訴八八二、）

婦女ハ後見人タルノ權力ナキヿ一般ナリト雖ヒ、取除ヲ以テ母ハ幼者タル其子ノ後見人タリ、（第三百九十條見合セ）尊屬ノ親タル女ハ、其孫ノ後見人ノ任ヲ受クルヿヲ得、（第四百四十二條見合セ）又婦ハ親族ノ會議ニヨリ治産ノ禁ヲ受ケタル夫ノ後見人ノ任ヲ受クルヿヲ得、然ル時ハ其夫ノ管理セシ財産、即チ己レ固有ノ財産夫ノ財産及其通ノ財産ハ皆悉ク之ヲ管理ス、然レヒ其管理ノ事ニ付テハ、夫ニ比スレハ稍多クノ制限ヲ受ク、就中訴訟ニ付裁判所ニ出ル爲ニハ、裁判所ノ許可ヲ得ルヲ要ス、

親族會議ハ婦ニ非サル他人ヲシテ、治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ後見人ニ選任スルノ權アルニ因リ、其婦ヲ後見人ニ選任スル時ハ、管理ノ規則ヲ設クルヿアリ、親族會議ニテ決定セシ規則、自己若クハ夫ノ權利ヲ妨害スルヿアル片ハ之ヲ訴出スルヲ得ヘシ、例ヘハ婚姻ノ契約書ヲ以テ婦自ヲ其財産ヲ管理シ、且幾許ハ夫婦間ノ費用ヲ擔當スヘキヿヲ約定シタル片ハ、親族會議ニテ之ヲ變更スルヿヲ得ス、

第五百八條 治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ配偶者及ヒ尊屬卑屬ノ親ヲ除クノ外ハ何人ヲ論セス其後見ノ職ヲ十年以上行フニ及ハス十年ヲ過ル時ハ其後見人代職ノ者ヲ撰ム可キヿヲ得可シ（民四六九、）

後見人治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ本宗ノ血屬ノ親ニ非サル時ハ、十年ノ後ニ至レハ後見ノ釋放ヲ受クルヿヲ得、何トナレハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ後見ハ豫定ノ期限ナク、且幼者

ノ後見ニ比スレハ大ニ煩擾不快ノ事多ケレハナリ、

第五百九條　治産ノ禁ヲ受ケシ者ハ其身體及ヒ財産ニ付キ幼者ニ等シクシテ幼者ノ後見ノ法則ハ亦之ヲ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ後見ニ適用ス可シ（民四五〇、四六九、五一〇、）

財産ノ管理、後見人ノ權限、後見人ノ監察者ノ職務、親族會議ノ構成及職掌、幼者ノ後見ニ付テノ規則ニ關スルヿハ、全然之ヲ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ後見ニ適用ス、然レ𪜈幼者ノ權力ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ權力ト相異ナル所アリ、幼者ハ結婚スルヿヲ得（第百四十四條見合セ）其子ノ後見人タルヲ得（第三百九十條四百四十二條見合セ）十六歳ニ至レハ遺囑ノ贈遺ヲ爲スノ權アリ、（第九百四條見合セ）且己レノ爲シタル處置、己レノ損失トナル場合ニ非サレハ、之ヲ取消サント求ムルヿヲ得ス、（第千三百五條見合セ）然ルニ治産ノ禁ヲ受ケシ者ハ結婚シ後見人トナリ遺囑ヲ爲スヿヲ得ス、且己レノ爲シタル處置、縱ヒ何レノ損失ヲ來タスヿナキモ、之ヲ取消サント求ムルヿヲ得、

第五百十條　治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ入額ハ其療養ノ方ヲ厚クシ且其疾ヲ速ニ平愈セシムルノ用ニ供ス可シ○其病症ト其財産トニ從ヒ親族會議ニテ其者ヲ其家ニテ療養セシメ又ハ

養生所或ハ救恤院ニ送ル可キヿヲ定ム可シ（民四〇七、四五四、五〇七、五〇九、訴八八二、）

幼者ノ入額ハ成ルヘク丈ケ之ヲ貯蓄スヘシト雖𪜈、治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ入額ハ其療養ニ供スヘク、又其疾平愈ノ期望アラハ、入額ノミナラス本資ヲモ供スルヿヲ得ヘシ、

第五百十一條　治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ子婚姻ヲ爲スヿアル時ハ其嫁資ノ事又ハ相續ス可キ遺物ノ一部ヲ預メ引渡ス事其他婚姻契約ノ諸件ヲ親族會議ニテ定ム可シ但シ其定ムル所ハ裁判所ニテ撿事ノ述フル所ヲ聽タル上之ヲ認可スルノ言渡ヲ得タルヿヲ必要トス（民四〇七、一〇九五、一三八七、一三九八、訴八三、八八五、）

治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ幼者タル子、他ニ尊屬ノ親ナクシテ結婚セントスルニハ、其親族會議ノ許諾ノミヲ得ルヲ要スト雖𪜈、治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ財産中ヨリ、幼者若クハ丁年者タル子ノ婚姻ノ爲メ、若クハ他ノ方法ヲ以テ生立ノ道ヲ定ムル爲メ、嫁資或ハ相續スヘキ物ノ一部ヲ豫メ渡スヘキトキハ、親族會議ノ許可及裁判所ノ認可ヲ得ルヲ必要トス、

第五百十二條　治産ノ禁ヲ受ケシメシ原由ノ止ミタル時ハ其禁モ又止ム可シ但シ其禁ヲ免

スノ言渡ハ以前其禁ヲ受ケシメタル時ト同一ノ法式ヲ行ハサレハ之ヲ爲ス可カラス又其禁ヲ受ケシ者ハ其禁ヲ免スノ言渡ヲ得タル後ニ非サレハ己レノ權ヲ行フヿヲ得ス（民四八九、四九二、四九四、五一五、訴八九一、八九六、）

治產ノ禁ノ免除ヲ得ント求ムルヿハ、何レノ許可何レノ立會ヲモ要スルヿナク、多ク治產ノ禁ヲ受ケシ本人自ラ其後見人ニ對メ之ヲ爲ス、裁判所ニ於テハ治產ノ禁ヲ受ケシメタル原由ノ止ミシヤ否ヤヲ知ル爲メ、親族會議ノ意見ヲ聞キ隨テ本人ヲ問糺シ、以テ治產ノ禁ノ免除ヲ得ントノ求メヲ聽ルシ或ハ聽サヽルヘシ、

○第三章　裁判上ノ補佐人ノ事

第五百十三條　浪費ヲ爲ス者ハ裁判所ヨリ任シタル補佐人ノ立會ナクシテ訴訟ヲ爲シ又ハ金高ヲ借受ケ又ハ之ヲ受取リテ其受取書ヲ與ヘ又ハ自己ノ不動產ヲ贈與シ及ヒ賣拂ヒ或ハ書入質ト爲ス等ノ事ヲ爲ス可カラサルノ禁ヲ受ク可シ（民四九九、五〇一、五〇二、二〇四五、二一二四、二一二六、訴八九七、）

浪費者裁判上ノ補佐人、即チ代言人證書人若クハ代書人ノ如ク事務ニ熟練シタル者ノ

補佐ヲ受ケタリト雖ヒ、本條ニ記列セサル處置ハ皆悉ク獨斷シテ行フヿヲ得、故ニ自由ニ其財產ヲ管理シ婚姻ヲ爲シ遺囑ヲ爲ス權力アリ、又本條ニ記列シタル處置ニ付テハ、其補佐人ノ立會ノミヲ以テ之ヲ爲シ得、何トナレハ、後見人モ親族會議モアラサレハナリ、若シ其補佐人ノ立會ナク己レノ權限外ノ處置ヲ爲シタル時ハ、其取消ヲ求メ得ト雖ヒ、其補佐人ヲ任セサル前ニ爲シタル處置ハ縱ヒ浪費ノ僻既ニ顯然タル時ニ爲シタルモノタリヒ、之ヲ取消サント求ムルヿヲ得ス、

第五百十四條　浪費ヲ爲ス者其補佐人ノ立會ナクメ諸事ヲ行フ可カラサルノ禁ハ白癡又ハ精神錯亂ノ者ヲシテ治產ノ禁ヲ受ケシム可キ求ヲ爲スノ權アル者ヨリ之ヲ求ムルヿヲ得可シ但シ其求ヲ吟味シ且裁判スル方法モ亦治產ノ禁ノ求メト同一ナリトス

此禁ヲ免スニ付テモ亦治產ノ禁ヲ免スト同一ノ法式ニ循フ可シ（民四九〇、五一二、訴八九二、）

凡ソ浪費者ノ血屬及配偶者ハ、補佐人ヲ任スヘキヿヲ求メ得、血屬ノ親及配偶者ノアラサル時ハ檢察官モ之ヲ求メ得、（第四百九十條及四百九十一條見合セ、）

第五百十五條　治產ノ禁ノ求メニ付テノ言渡及ヒ補佐人ヲ任ス可キノ求メニ付テノ言渡ハ初告裁判所ニ於テモ又ハ控訴院ニ於テモ檢察官ノ述ル所ヲ聽タル上ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス（民四八九、四九九、五一二、訴八三、八九一、）

治產ノ禁若クハ補佐人ヲ任スヘキヿノ求メアレハ、裁判所ニ於テハ每ニ檢事ノ述フル所ヲ聞キタル上ニ非サレハ、其判決ヲ言渡スヘカラス、蓋シ人ノ身位及權力ニ關スル事件ハ世治ニ關係スレハナリ、

佛國民法註釋第一編正誤

四十四丁五行〔第二款〕ハ〔第二卷〕ノ誤

六十一丁、三行〔ヿ〕ノ下ニ〔ヲ〕ノ字ヲ脫ス

百二十丁、十行〔第〕ノ下ニ〔百〕ノ字ヲ脫ス

百廿三丁、六行〔證人〕ノ上ニ〔其〕ノ字ヲ脫ス

百三十二丁、六行〔所有者〕ノ下ニ〔トナル〕ノ三字ヲ脫ス

百三十七丁、四行〔ナラス〕ノ下ニ〔猶ホ其〕ノ三字ヲ脫ス

五行〔權ナク〕ハ〔權ヲ人ニ與エ〕ノ誤

百五十一丁、三行〔婚姻〕ハ〔婚齡〕ノ誤

百六十三丁、八行〔要ス〕ノ下ニ〔此〕ノ字ヲ脫ス

百六十六丁、八行〔親ハ〕ノ下ニ〔互ニ〕ノ二字ヲ脫ス

百九十二丁、六行〔秘密〕ハ〔秘隱〕ノ誤

二百三十六丁、八行〔訴判官〕ハ〔裁判官〕ノ誤

二百三十七丁、十一行〔前面〕ハ〔面前〕ノ倒置

二百三十九丁、五行、〔公チ〕ハ〔分チ〕ノ誤
二百四十丁、一行、〔即チ〕ハ〔又ハ〕ノ誤
五行、六行、十三行、〔覆審院〕ハ〔大審院〕ノ誤
二百六十四丁、十二行、〔子我〕ハ〔我子〕ノ倒置
二百七十七丁、二行、〔其類〕ハ〔類似〕ノ誤
二百九十二丁、九行、〔衆記〕ハ〔衆説〕ノ誤
三百二十丁、十三行、〔前後〕ハ〔前條〕ノ誤
三百二十七丁、十二行、〔且己〕ハ〔自己〕ノ誤
三百四十五丁、七行、〔此所〕ハ〔此事〕ノ誤
三百七十三丁、一行、〔一間〕ハ〔一日〕ノ誤
三百七十七丁、三行、〔ニ徒ヒ〕ハ〔ニ因リ〕ノ誤

謬誤追正終

佛國民法註釋

第二篇

財産

山崎直胤　譯

○第二編　財產及ヒ財產所有ノ種類

法律上人ハ權利ヲ人ヨリ得ベク、若クハ人ニ與フベキノ主ニメ、物ハ權利ノ目的ナリ、抑物ト云フ詞ハ概シテ之ヲ言ヘバ、凡ソ天地間ノ萬物有形無形ヲ論セズ皆其中ニ包含セリト雖ヒ、法律上ニ於テハ特ニ一箇ノ權利ノ目的ト爲シ得ベキ物ノミヲ指テ云ヒ、其權利ノ目的ト爲シ得ベキ物人ノ所有ト爲ル時ハ、之ヲ稱シテ財產ト云フ、例ヘバ一箇ノ野獸ハ天地間ノ一物ナレヒ、人之ヲ捕獲シテ己レノ所有ト爲スニ於テハ、則チ一箇ノ財產トナルガ如シ、故ニ法律ニ說ク所ノ物ハ萬物ヲ包含セルニ非ズ、唯人ノ所有トナリシ物卽チ財產ノミナリ（日月星辰大氣風力ノ如キモ皆物ナリト雖ヒ財產ニハ非ズ）

○第一卷　財產ノ區別（千八百四年一月二十五日決定同二月四日下達）

第五百十六條　財產ハ總テ不動產又ハ動產ナリトス（民五一七、五一八、五二七、五二八）

動產ハ彼此搬運シ得ベキ財產ヲ云ヒ、不動產ハ一所ニ定着シテ搬運シ得ザル財產ヲ云フ、抑財產ヲ動不動ノ二類ニ分ツコトハ、實際上ニ於テ甚タ緊要ナリトス、左ニ其例ヲ示サン、

第一動產ヲ買フ者其引渡ヲ受ケタルニ於テハ、動產ニ付テハ現ニ之ヲ占有スルヲ以テ其所有權ノ證書ヲ有スルニ等シキ効アリト看做ス可シ、トノ原則ニ因リ直ニ其動產ノ所有者トナリ、不動產ヲ買フ者ハ不動產書入役所ノ簿冊ニ其證書ヲ登記スルニ非ザレバ、他人ニ對シ其不動產ノ所有者トナルヿナシ、

第二不動產ハ書入質ト爲スヲ得、動產ハ書入質ト爲スヲ得ズ、

第三動產ノ讓渡稅ハ不動產ノ讓渡稅ニ比スレバ僅少トス、

第四動產ノ差押ヘ及ヒ賣拂ハ、不動產ノ差押ヘ及ビ之ヲ抵當トシテ奪フヿ(二千二百四條)ニ比スレバ、稍ヤ便易ノ法式ニ依ル、

第五財產共通ノ法ヲ以テ結婚シタル夫婦ノ動產ハ、其共通財產中ニ合シ、不動產ハ夫婦各之ヲ分有ス、

第六動產取戻シノ訴ハ、被告人ノ住所ノ裁判所ニ爲サヾルベカラズ、不動產取戻ノ訴ハ、其不動產所在地ノ裁判所ニ爲サヾルヘカラス、又財產ヲ分テ、第一人ノ五官ノ感覺ニ觸ルヽ(クワ、タンジ、ポシユント)有形ノ財產(ビアンコルポレール)ト、五官ノ感覺ニ觸レザル(クワ、タンジ、ノン、ポシユント)無形ノ財產(ビアンアンコルポレール)トシ、第二分ツベキ財產ト分ツベカラザル財產トス、然レヒモ有形無形ノ區別ハ、緊要ナラサルニ因リ、民法中之ヲ記載スルヿナシ(元來法律家ハ窮理家若クハ分析家ノ如ク、物ノ本體ニ就テ論スルヲ要セズ、其物ヲ目的ト爲ス所ノ權利上ニ就テ論ズベク、且縱令有形物タリヒモ其權利ハ必ズ無形ナレバ、有形無形ノ區別ハ終ニ徒法ニ屬スベシ)

○第一章　不動產

第五百十七條　財產ハ其性質ニ因テ不動產タルモノアリ又ハ其用法ニ因テ不動產タルモノアリ及ビ權利ノ中ニ其目的ニ因テ不動產ト看做スモノアリ(民五一八、五一九、五二二、五二三、五二六、二一一八、)

財產中其性質ニ因テ不動產ナルモノヽミ、眞ニ不動產ト稱スベキナレヒモ法律上ニ於テ

ハ、不動産ニ附屬シタル動産モ、其用法ニ因テ不動産ト稱シ、又不動産ヲ目的ト爲ス所ノ權利ヲモ不動産ト稱セリ、故ニ本條ニハ不動産ヲ三種ト爲セ𪜈猶ホ一種ノ不動産アリ、即チ法律上ニ於テ政府ヨリ得ベキ年金、佛國銀行(バンクドフランス)ノ株式及ビ堀割會社ノ株式ハ、之ヲ不動産ト爲スヲ許ス是ナリ、斯ノ如ク本來動産タルベキ物ヲ其所有者不動産ト爲シタルニ於テハ、法律ノ確定ニ因テノ不動産ト稱ス、

第五百十八條　土地及ビ建造物ハ其性質ニ因テ不動産トス(民五一九、五二〇、五二三、)

土地ハ不動産ナリ、建造物ハ取毀ツニアラザレバ之ヲ搬運スベカラザルニ因リ、其所在ノ土地ト等シク其性質ニ因テノ不動産トス(建造物ト雖𪜈床店假小屋等ノ如キ基礎ナキモノハ動産トス)借地人其借地ニ家屋等ヲ建築シ、其借地ヲ返還スル期限ニ至レバ、之ヲ取除クベキノ權利アリト約定シタル時ハ、其建造物ハ不動産ニシテ土地ノ附屬物ニ非ズ、而シテ全ク借地人ノ所有ナルニ因リ、債主ニ於テハ、不動産差押ヘノ方法ヲ以テ之ヲ差押フルヿヲ得、ト千八百六十二年四月七日大審院ニ於テ裁決セリ、(其文略之)

鑛山ハ其性質ニ因テノ不動産トスルヨリハ、寧ロ法律ノ確定ニ因テノ不動産ナリトス

可シ、何トナレバ千八百十年四月二十一日ノ法律第二條ニ、金、銀、白金、水銀、鉛、錫、銅、錫、亞鉛、カラミーヌ、コバルト、アルセニック、マンガチーズ、アンチモアーヌ、モリベーヌ、プロンバギーヌ、其他凡ソ金屬ヲ含ム物、硫黄、石炭、泥炭、「シユルハルー」ノ類ノ凝結シタル物ヲ鑛物トス、其第八條ニ鑛山及ビ鑛山所屬ノ建造物、機械、鑛門、坑隧其他民法第五百三十四條ニ從ヒ、地ニ附著シタル諸工作物ハ總テ之ヲ不動産トス、採鑛ノ用ニ備ヘタル牛馬器具ハ其用法ニ因テノ不動産トス、但シ牛馬ハ特ニ鑛區ノ内部ノ用ニ備ヘタルモノヽミヲ以テ採鑛ノ用ニ備ヘタル不動産ト看做スベシ、又採鑛會社ノ株式及利益ハ民法第五百二十九條ニ從ヒ動産トス、其第九條ニ採收シタル鑛物及豫備ノ需用品其他搬運スベキ物品ハ動産トス云々トアレバナリ、

第五百十九條　杙ニ附着シテ建造物ノ一部ヲ爲ス風車及ビ水車ハ亦其性質ニ因テ不動産トス(民五三一、)

風車及ビ水車ノ杙ニ附着シタルカ、若クハ建造物ノ一部ヲ爲シタル時ハ、其性質ニ因テノ不動産トス、必シモ杙ニ附着シ且建造物ノ一部ヲ爲ス二箇ノ場合ヲ備フルヲ要セズ

（本條ノ文章ニ拘泥スレバ二箇ノ場合ヲ具備セザルベカザルガ如シト雖ドモ、杙ニ附着シタルモノハ即チ土地ニ附着シタルニ因リ不動産トナリ、又建造物ノ一部ヲ爲スモノハ其建造物ト共ニ不動産トナル、故ニ本條ハ杙ニ附着シタル風車若クハ水車及建造物ノ一部ヲ爲シタル風車若クハ水車ハ云々ト云フノ義ナリトス、其所以ハ第五百三十一條ニ風車及ビ水車ハ杙ニ附着シテ家屋ノ一部ヲ爲サヾルモノニ非サレバ、動産ナリト掲載シタルヲ以テ證スベシ）

第五百二十條　根ヲ有シテ地上ニ生ジタル收納物及ビ未ダ摘取セザル樹果モ亦同上ノ不動産トス、

收納物ヲ刈取シ及ビ樹果ヲ摘取シタル時ハ未ダ他所ニ搬運セズト雖ドモ之ヲ動産トス若シ收納物ノ一部ヲ刈取シタル時ハ其一部ノミヲ動産トス（民五二一、五二七、五二八、五四八、二一〇二、訴六二六、ヨリ六三五、六八八、六八九、六九一、）

根ヲ有シテ生ジタル收納物、及ビ未ダ摘收セザル所ノ樹果ハ、土地ニ附着シタルヲ以テ不動産トス、然レドモ麥ノ一穗樹果ノ一顆ト雖ドモ、之ヲ刈摘スレバ忽チ土地ト離分シテ動

産トナリ、又盆栽ノ類ハ地ニ附着セザルヲ以テ動産トス、

土地ノ所有者未ダ刈摘セザル收納物、若クハ樹果森林ノ樹木及ビ地中ノ石ヲ其儘賣拂フトキ、此賣拂ハ動産ノ賣拂トス、蓋シ其賣拂ノ契約ハ、買主ヲシテ収納物ヲ刈リ樹果ヲ摘収シ樹木ヲ伐リ石ヲ堀リ全ク土地ト離分シテ、動産ト爲シ之ヲ所有セシムヘキヲ目的トナセバナリ、故ニ債主ニ附與スルニ、其負債主ニ屬シタル土地ノ穀物菓物ハ、通常其成熟ノ期限前六週間內ニ於テハ、動産トシテ之ヲ差押ヘ得ルノ權利ヲ以テス（訴訟法第六百二十六條）

第五百二十一條　期限ヲ定メ伐出スベキ小樹及ビ大木ハ其期ニ至リ伐リ倒シタル物ノミヲ動産トス（民五二〇、五二八、五九〇、五九一、一四〇三、）

伐出スベキ定期ハ小樹ハ四十年以內、大木ハ四十年以上六十年以內トス、然レドモ又「ホートヒユタイユ」ノ森林ノ如キ、六十年以上ヲ經過セザレバ伐ルベカラザルモノアリ、右各種ノ樹木土地ニ附着スル間ハ不動産ナリト雖ドモ、之ヲ伐出ストキハ、定期ニヨツテ伐出セシト否トヲ問ハズ、之ヲ伐倒セバ忽チ動産トナルナリ、

期限ヲ定メ伐出スベキ森林ノ入額所得權ヲ有スル者ハ、其定期ニ至ラザレバ何レノ樹木ヲモ伐出スヿヲ得ズ、之ニ反シテ定期ナキトキハ其所有者ニテ定メタル期節ニ至レバ、之ヲ伐出スヿヲ得、蓋シ此場合ニ於テ其伐出シタル樹木ハ、森林ノ果實ト看做セバナリ

（本條ハ前條ヲ參看スルトキハ緊要ナラザルガ如シト雖ヒ、豫定ノ期限ニ至レバ、土地ヨリ離分スベキ物件ナレバ、假令其期限ニ至ラザルヲ以テ離分セザルモ、動產ト看做サヾルヲ得ズトノ疑團ナキヲ保チ難シ、且往古佛國ノ或ル地方ニ於テ凡ソ根ヲ有シテ地上ニ生シタル物ハ、未ダ之ヲ伐採収獲セザルモ、其既ニ成熟シタルニ於テハ動產ト爲ス慣習アリシニ因リ、此慣習ヲ廢止センガ爲メ故ラニ明記シタルモノナリ）

第五百二十二條　小作人土地ノ所有者ヨリ其地ヲ耕ス可キ爲メ貸與ヘタル獸類ハ其價ヲ計算シタルト否トヲ問ハズ契約ニ循ヒ其獸類ヲ其土地ニ附ケ置ク間ハ之ヲ不動產ト看做ス可シ

土地ノ所有者ヨリ其小作人ニ非ザル者ニ獸類ヲ貸與ヘタル時ハ其獸類ヲ動產ナリトス（民五一七、五二四、一〇六四、一八〇〇、一八〇一、訴五九二、五九四、）

小作人トハ借賃若クハ収納物ノ一部ヲ出シテ他人ノ土地ヲ借リテ耕作スル者ヲ云、豫定ノ金穀幾許ヲ出シテ他人ノ土地ヲ小作スル者ヲ「ヘルシエー」ト稱シ、收獲物ノ豐凶ニ拘ラズ、土地ノ所有者ト小作者ト其ノ幾割ヲ分取スベキ約定ヲ以テ、他人ノ土地ヲ小作スル者ヲ「メタイエー」又ハ「コロン、パルチキユリエー」ト稱ス、

獸類ハ其性質ニ因テ固ヨリ動產トス、故ニ其用法ニ因テ不動產ト爲スヿハ左ノ二要件ヲ備フルヲ要ス、第一獸類即牛、馬、羊、山羊等ヲ土地ノ所有者ヨリ耕作ノ爲メ小作人ニ渡シ置キシヿ、第二其獸類ハ契約ノ効ニ因テ其土地ニ附ケ置キシヿナリ、而シテ其獸類ノ價ヲ算定セシト否トヲ問ハズ、蓋シ其價ヲ算定スルモ其獸類ヲ請取リタル小作人ニ所有權ヲ移スヿアラズ、只遺失等ノヿ或ハ小作人ノ危害トナルベキヿアルノミナレバナリ、小作人ニ非ザル他ノ者ニ獸類ヲ貸與フル者ハ、其獸類ヲ他人ノ土地ニ不動產トシテ附ケ置クノ意ナキヲ以テ動產トス（本條ヨリ第五百二十五條ニ至ルマデノ文ハ、甚ダ不當不明且彼是予盾スル所アルガ如シ、第一右各條ニ說ク所ノ物ハ用法ニ因テノ不動產ト稱セシヨリハ、主ニ因テ從ヲ併スベキノ不動產ト稱スルカタ、稍ヤ論理ニ適當スル

（イムミユーブルバルアクセツシヨン）

ガ如シ、蓋シ動産タルベキ物ヲ以テ不動産ト爲スハ、其物一箇ノ不動産ニ附加スル場合ニ非ザレバ絶テ無キコトナリ、故ニ隣家ノ一鳩我ガ蓄フ所ノ鳩ト共ニ來テ我鳩舍ニ馴住スル如キ、我所有ノ財産ニ天然附加スル物ハ我所有物トナル(第五百四十六條及第五百六十四條見合)ノ理ニ因テ、即我鳩トナルモノニシテ、用法ニ因ルニ非ザルコト明カナリ、何トナレバ何レノ人モ其鳩ヲ我鳩舍ニ用ヰルベキモノト爲サヾレバナリ、又第五百二十四條一項二項及末項ニ、凡ソ動産ヲ以テ用法即チ主ニ因テ從ヲ併スベキノ不動産ト爲スニハ、其所有者ニ於テ之ヲ不動産ニ附ケ置クコトヲ要スト說ケリト雖モ、爰ニ我兎場アリテ両三年來絶テ兎ナカリシニ、近傍兎場ノ兎數疋我兎場ニ來リ住シ、又爰ニ池アリ曾テ魚ヲ放チシコトナキニ、童子戯レニ數頭ノ魚ヲ放チシニヨリ、其魚漸々增殖シタリ、則チ此兎及魚ハ即チ主ニ因テ從ヲ併スベキ附加ノ不動産ニシテ曾テ我ヨリ土地ニ附置キシモノニハアラザルナリ)

第五百二十三條　家屋及ビ其他ノ不動産ニ水ヲ灌道スル水管ハ其不動産所属ノ一部ニシテ亦之ヲ不動産トス(訴五九二、)

水管ハ用法ニ因テノ不動産トナスニ非ズ、性質ニ因テノ不動産ナリト云フ說アレモ、其說ノ當否ニ拘ラズ、實際上ノ結果ニ於テハ變ヲ生ズルコトナク到底不動産ナリトス、然レモ園丁灌水ニ用ヰ搬運スベキ水管ハ動産タルコト勿論トス、

第五百二十四條　土地ノ所有者其地ヲ耕シ或ハ其地ニテ用ヰル可キカ爲メ其土地ニ備ヘタル物ハ其用法ニ因テ不動産トス故ニ

耕作ニ屬シタル獸類

農業ノ器具

小作人ニ與ヘタル種子類

鳩舍中ニアル鳩

兎場中ニアル兎

蜜蜂ノ魚

池沼中ノ魚

榨ノ木、釜、蒸溜ノ器具、桶樽ノ類

鑄造ノ器具、紙ノ製造及ヒ其他ノ製造ノ器具

藁及ヒ糞料（コヤシ）

此等ノ品物ハ其所有者土地ヲ耕シ又ハ其土地ニテ用ヰル可キガ爲メ備ヘタル時ハ其用法因テ不動產トス

如何ナル動產ト雖ヒ其所有者永ク之ヲ離分セザル方ヲ用ヰ不動產ニ附着シタル時ハ亦用法ニ因テ不動產トス（民五一七、五二二、五二五、一〇六四、訴五九二、）

本條ニ記列シタルモノハ之ヲ以テ限トナスニ非ズ、特ニ其類例ヲ示シタルノミナルハ末項ノ文意ニ於テ明カナリ、故ニ家屋及製造所又ハ土地ノ所有者ニ於テ、其土地ヲ耕ス爲メ、若クハ所用ノ爲メニ動產タル物品ヲ永久離分セザル法ヲ用ヰテ附着シタルニ於テハ、其物品ハ不動產トス、所有者ハ其物品ヲ離分シ用法ニ因テ不動產タルノ性質ヲ失ハシメ得ベシト雖ヒ、債主ニ於テハ之ヲ動產差押ヘノ目的ト爲スノ權利ナク、其不動產ト共ニナラデハ賣拂ハシムルヿヲ得ズ、以テ其不動產ニ附着シタル物品使用ノ方法ヲ欠クヿ勿ラシメントス、

耕作ノ爲メ永久備ヘ置キタル獸類ハ、土地ノ所有者ヨリ小作人ニ貸與ヘタル時ハ、用法ニ因テ不動產トナル（第五百二十二條見合）ノミナラズ、所有者自ラ其土地ヲ耕ストキモ亦不動產トナルヿヲ知ルベシ、

第五百二十五條　粘土石灰類（シックヒ）ヲ以テ動產ヲ不動產ニ附着シ又ハ其動產ヲ離分スル時ハ其動產若クハ不動產ノ一部ヲ必ズ毀壞シ或ハ損害ス可キ方ヲ以テ附着シタルニ於テハ其動產ノ所有者永ク之ヲ離分セシメザル方ヲ用ヰ不動產ニ附着シタル者ト看做ス

房室ノ玻璃版ノ格（ワク）ヲ其屋材ト連合シタル時ハ永ク之ヲ離分セシメザル方ヲ用ヰ附着シタルモノト看做ス壽額及ビ其他ノ裝飾ノ具モ亦同シ

立像ハ之ヲ移動スルニ其屋財ヲ毀壞シ或ハ損害スルヿナシト雖ヒ特ニ之ヲ入置ク爲メ壁ニ作タル凹所ニ在ル時ハ之ヲ不動產トス（民五二四、一三四九、一三五〇、一三五二、）

玻璃版ノ屋材ト連合セザル所ノモノハ、決シテ用法ニ因テ不動產トナルモノト看做サズ、然レヒ張附ヲ補フガ爲メ煖爐ノ上若クハ壁等ニ附着シタル玻璃版ハ、假令通常ノ折釘ヲ以テ取付タルモノナリヒ、永ク之ヲ離分セザルノ方ヲ用ヰテ附着シタルモノト見

認ヘキトキハ限外ナリトス、ト千八百五年五月八日大審院ニ於テ判決シタリ（其文略之）立像ハ之ヲ入置ク爲メ壁ニ作リタル凹所ニ在ルモノノミ用法ニ因テ不動產トナスニアラス、家屋ノ外柱ノ上ニ裝置シタルカ又ハ大都會ノ公園内等ニ在ルモノ、如ク、園囿内ニ土石ヲ以テ設立シタル臺上ニ裝置シタルカノトキハ、亦用法ニ因テ不動產トス、

第五百二十六條

不動產ノ入額ヲ得ルノ權

土地ノ義務ヲ得ルノ權

不動產ヲ取戻サントスル訴訟ヲ爲スノ權

此等ノ權利ハ其目的ニ因テ之ヲ不動產トス（民五一六、五二九、五七八、六二五、六三七、二一一八、）

本條ハ第五百十七條第三項ニ記スル所ノ不動產ノコトヲ揭グ、抑權利ハ形迹ナキモノナリ（故ニ本來其性質ニ於テハ動產ニモ非ズ不動產ニモ非ズ、然レトモ法律ハ權利ノ目的トヲ爲ス所ノ物ノ性質ニ從ヒ或ハ動產トシ或ハ不動產トス、第一所有權ノ枝葉タル所ノ入額（ユザーシュ）所得ノ權及使用權（ユフリユイ）例ヘハ牛馬ノ如キ動產ヲ目的ト爲ストキハ之ヲ動產トシ、土地家屋ノ如キ不動產ヲ目的ト爲ストキハ之ヲ不動產トス、住居ノ權及定期間ノ所有權表面ノ權（ドロアードヒターシヨン、ドンロアードヒデオーズ、ドロアードスユペルヒシユー）ノ如キハ其不動產ノミヲ目的ト爲スヲ以テ不動產トス

第二他ノ所有者ニ屬スル土地家屋ノ使用便利ノ爲メ、一箇ノ不動產ニ負ハシメタル土地ノ義務ハ不動產トス（第六百三十七條）

第三本條ノ第三項ニ揭グル訴訟權ノコトニ付テ簡短ナル說明ヲナスヘシ、抑訴訟ヲ爲スノ權利ハ、之ヲ大區別シテ人權ニ關スルモノト物權ニ關スルモノト、或ハ動產ニ關スルモノト不動產ニ關スルモノトノ二種トス、蓋シ原告人ニ於テ被告人ノ債主ナリト述ブルトキハ、人權ニ關スル訴訟權ナリ、原告人ニ於テ被告人ノ占有ニ係ル所ノ物ニツキ所有ノ權、入額所得ノ權、土地ノ義務ヲ得ルノ權、書入質ノ權等ヲ有スト述ブルトキハ、物權ニ關スル訴訟權ナリ、原告人ニ於テ被告人ノ占有ニ係ル所ノ物ニツキ所有ノ權、入額所得ノ權、土地ノ義務ヲ得ルノ權、書入質ノ權等ヲ有スト述フルトキハ、物權ニ關スル訴訟權ナリ、

又原告人ニ於テ一箇ノ動産ヲ得ベキ者ナリト述ブルトキハ、動産ニ關スル人權ノ訴訟權ナリ、一箇ノ不動産ヲ得ベキ者ナリト述ブルトキハ、不動産ニ關スル人權ノ訴訟ナリ、是ヲ以テ取戻サントスル物件モ動産ナルカ、若クハ不動産ナルカニ因テ、動産若クハ不動産ニ關スル物件ノ訴訟權トナルナリ、故ニ訴訟權ハ人權ニ關スルモ物件ニ關スルモ、古法ノ規則ヲ適施シテ動産ニ關スル訴訟權ハ動産ノ訴訟權トシ、不動産ニ關スル訴訟權ハ不動産ノ訴訟權トス（アクショアドモビル、モビル、モビクス、エスト、アクショアドイムモビル、エストイムモビリス）

本條ノ第三項ハ不動産ヲ取戻サントスル訴訟權、即チ不動産ニ關スル物件ノ訴訟權ノミヲ指スガ如シト雖ヒ、不動産ヲ目的ト爲ス所ノ人權ニ關スル訴訟モ亦不動産ニ關スルノ訴訟タルヿハ一般人ノ認許スル所ナリ、成典上ニ於テ、確定シタル物品ノ所有權ヲ移スヿヲ目的ト爲ス所ノ義務（ラブリガーション）ハ、之ヲ得ベキ者ニ其所有權ヲ移シ隨テ物件取戻ノ權ヲ與フルノ効アリ（第七百十一條及第千百三十八條見合）トノ原則ヲ定メシヲ以テ、不動産ニ關スル人權ノ訴訟權ハ往古ヨリ稍々少シトス、然レヒ義務ノ目的ト爲ス所ノモノ

一箇ノ家屋ヲ建築セントスルカ、若クハ一箇ノ屋敷内ニテ若干ノ坪數ヲ得ベキ權利等ノ如ク、確定シタルモノニ非ザルトキ、若クハ其目的ト爲ス所ノ不動産ノ未ダ曾テ存在セザル場合ニ於テハ、義務ヲ得ベキ者ハ不動産ニ關スル人權ノ訴訟ヲ有スルノミ、

○第二章　動産

第五百二十七條　財産ハ其性質ニ因テ動産ト爲ス物アリ又ハ法律上ニ定メタル所ニ因リ動産ト爲ス物アリ（民五一六、五二八、五二九、五三〇、二一一九、二二七九、）

不動産ニハ大別シタル三種類アリト雖ヒ、動産ニ至リテハ二種類アルノミ、又一箇ノ動産一箇ノ不動産ノ附屬トナルトキハ、用法ニ因テノ不動産タルノ性質ヲ得ト雖ヒ、一箇ノ不動産ハ決メ一箇ノ動産ノ附屬トナルヿナシ、故ニ用法ニ因テノ動産タルモノアルヿナシ、

第五百二十八條　鳥獸類ノ如ク自カラ運行ヲ爲ス可キト無生物ノ如ク他力ニ因テ運行ヲ爲ス可キトヲ問ハズ此地ヨリ彼地ニ搬運スルヿヲ得可キ物ハ其性質ニ因テ動産トス（民五二二、五二三、五二七、九四八、）

有機生物無機生物ヲ區別スルモ實際上何レノ便益ヲモ生ズルヿナシ、

第五百二十九條　人ヨリ金高又ハ動產ヲ得可キ契約及ビ之ヲ得可キ訴訟ヲ爲スノ權又ハ錢糧貿易、工作ノ會社ニ加ハリタル株數及ビ利益ハ其會社ニテ其興作ニ關シタル不動產ヲ所有シタル時ト雖モ法律上ニ定メタル所ニ因リ之ヲ動產トス但シ其株數及ビ利益ハ其會社ノ存續スル時間ノミ會社中ノ各人ニ付テ之ヲ動產トス、

官府及ビ人民ヨリ得ベキ無期ノ年金及ビ畢生間ノ年金モ亦法律上ニ定メタル所ニ因リ之ヲ動產ナリトス（民五二七、五三〇、一九〇九、一一〇〇、一九六八、一九六九、商二〇、二三、二九、三四、三五、三八、）

法律上ニ定ムル所ニ因テノ動產、即チ權利ノ目的ニ因テノ動產トハ、動產ヲ目的トナシタル權利ナリ、

本條中ノ文詞解明ヲ要スルモノアリ左ニ之ヲ開陳セン

第一人ヨリ金高又ハ動產ヲ得ベキ契約（オブリガーション）及ビ之ヲ得ベキ訴訟ヲ爲スノ權トハ、第一「オブリガーション」トハ即義務ノ謂ニシテ甲ノ者ヲシテ乙ノ者ニ對シ

テ、或ル物ヲ與ヘ若クハ或ル事ヲ爲シ若クハ爲サヾラシムル所ノ權利ノ關係ニシテ一箇ノ契約ヨリ生ズ、又時トシテハ契約ナクシテ生ズルヿアリ、即チ罪犯ヨリ生ズル所ノモノ是ナリ、而シテ義務ナルモノ之ヲ得ベキ者ヨリハ「クレアンス」ト稱シ之ヲ行フベキ者ヨリハ「デット」ト稱ス、第二「アクション」（訴訟ヲ爲スノ權）ト云フ詞此ニハ、一箇ノ人其權利ヲ公證シ、且之ヲ執行スベキノ方法ヲ得ベキ爲メ裁判所ニ向テ爲ス所ノ請願ヲ指スニ用ヰル、

第二會社ニ加ハリタル株數及ビ利益トアルハ一箇ノ會社中株式ヲ有スル者ト利益ヲ有スル者トハ、別種ノ社員ナリ、蓋シ株主（アクション子ール）ハ其株式トシテ出シタル所ノ金高ニ付テナラデハ、會社ノ損益ヲ受クルヿナク、且其株式ノ記名アルト、記名ナク誰人タリヒ之ヲ所持スル者ヲ以テ株主ト認ムベキトニヨリ其株式證書ヲ人ニ渡シタルノミヲ以テ、之ヲ讓渡スヿヲ得、又ハ會社ノ簿冊ニ讓渡ノヿヲ登記シタルヲ以テ讓渡ヲ爲シ得ト雖モ、利益者ハ之ニ反メ其出シタル金高ニ拘ラズ、會社ノ損益ヲ負擔スベキ者トス、何トナレバ利益者（アンプレセー）ハ會社一切ノ約定ヲ自ラ擔當スベク、其名其人共ニ會社ノ十全ナル一部ト爲シ、

其利益ヲ人ニ讓渡シ以テ社員タルヿヲ免カルヽヿヲ得ザレバナリ、然レドモ株式モ利益モ等ク動産ニシテ、株主モ利益者モ會社ノ存續セル間利潤ノ分割ヲ得ベキノ權利アルノミ、又會社ハ裁判上一箇ノ無形人トシ、其社員ノ有金及ビ借金(アクチーフ パッシーフ)ヲ有シ、其買入タル所ノ不動産ハ特ニ其社ニ屬シ、社員ハ之ヲ共有スル權アルヿナシ、然レドモ會社解散ニ至ルトキハ、多少動不動ノ財産ヲ遺スヿ恰モ一般人民ノ遺物ニ同ジク、其遺産ハ社員ノ共有物トナル、故ニ鑛山ハ千八百十年ノ法ヲ以テ不動産ト爲セドモ、會社ニ於テ之ヲ開採スルトキハ、其株式若クハ利益ハ動産トシ、之ヲ人ニ讓渡サントスルトキハ、動産讓渡ノ稅額ヲ徵收ス云々、ト千八百六十年二月六日大審院ニ於テ判決シタリ(其文略之)

第三無期若クハ畢生間ノ年金トハ、第一年金(「ランント」ト云ヒハ年金ノ元金ト云フ義ニシテ本條ノ年金ハ「アレラーシユ」ト云フ)トハ、甲ノ者乙ノ者ヨリ貨幣若クハ食料ヲ定期間請取ベキ權利ニシテ、其請取ル所ノモノハ無形物タル年金ノ元資ノ利息ナリ、蓋シ年金ノ元資ハ決シテ其償還ヲ要ムルヿヲ得ズ、期限ノ來リシ年金ノミ之ヲ要ムルヿヲ

得、抑年金ハ生存中ノ贈遺若クハ遺囑ノ贈遺ニ因リ無償ノ方法(チートル グラチユイ)ヲ以テ設定スルヿヲ得、又動産ノ資本ヲ投遺シ若クハ一箇ノ不動産ヲ投遺シ、有償ノ方法(チートル オチルー)ヲ以テ之ヲ設定スルヿヲ得、蓋法ニ於テ年金ハ不動産ヲ投遺シテ設定セシモノヲ土地ヨリ生ズル年金(ランントホンシエール)ト稱シ、其投遺セシ元資ハ之ヲ償還スルヿヲ得ズ、且其年金ヲ不動産トナシ、其不動産ノ投遺ヲ受ケ年金ヲ出ス者ニ於テ、其不動産ヲ算還スルニ非ザレバ、年金ヲ出スノ義務ヲ免カルヽヿヲ得ザリシガ、方今ニ至テハ年金ヲ動産トシ其元資ヲ算還シ得ベキモノトス、第二年金ヲ有スル者自ラ若クハ其子孫其他ノ相續人ニ於テ年金ヲ出ス者元資ヲ算還シテ以テ買戻スニ至ル迄、契約ノ定期ニ受納ヲ要ムルヿヲ得ルトキハ之ヲ無期ト稱ス、之ニ反シ契約ニ於テ受納ヲ要ムルノ權利ヲ指定メタル人ノ死去ト共ニ消滅スルモノヲ畢生間ノ年金ト稱ス、

第四官府及人民ヨリ得ベキ年金云々、有償ノ方法ヲ以テ人民相互ニ契約シテ年金ヲ設定セシヿ在昔許多ナリキ、蓋シ敎法上ニ於テ有利ノ貸借ヲ爲スヿハ之ヲ禁ゼシト雖ドモ、年金ノ方法ヲ以テスルヿヲバ許シタレバナリ、然レドモ人民相互ノ年金ノ契約ハ現今至

少ニシテ、官府ヨリ得ベキ年金ノ數ハ甚ダ許多ナリ、蓋シ官府ヨリ得ベキ年金ノ證書ハ容易ニ之ヲ賣拂ヒ以テ要用トスル貨幣ヲ得ルヿ自由ナレバナリ

第五百三十條（千三百四年三月二十一日決定同月三十一日下達）不動產ヲ買入レシ償ノ爲メ與フ可キ無期ノ年金又ハ償ノ有無ヲ問ハズ不動產ノ讓渡ヲ得タルニ代ヘテ出ス可キ無期ノ年金ハ之ヲ出ス可キ者之ヲ得ベキ者ヨリ其權利ヲ買戻スヿヲ得ベシ、然レモ其年金ヲ得可キ者ハ其權利賣渡ノ契約ノ箇條ヲ定ムルヿヲ得可シ

其年金ヲ得可キ者ハ三十年ヨリ多カラザル期限ノ後ニ非ザレバ其權利賣渡ヲ肯ゼザルノ契約ヲ爲スヿヲ得可シ此定期ニ背キタル契約ハ之ヲ取消ス可シ（民二八四、一六五四、一六五五、一九一一、一九一二、二一〇三、二一〇八、訴六三六ヨリ六五五、）

有償ノ方法ヲ以テ設定シタル年金ハ即チ賣買ノ性質アリ、蓋シ無形物タル年金ヲ賣ル者ハ即チ年金ノ元資ヨリ生ズル利得ノ年金ヲ拂フヿヲ契約シ、其年金ノ償トシテ動產若クハ不動產ノ元資ヲ他ノ一方ノ者ヨリ受取ル者ナリ、其賣拂ヒタル所ノ年金ヲ買戻スヿハ、之ニ因テ將來年金ヲ拂フヿノ義務ヲ消滅セシム、又其買戻ヲ爲スニ付テモ其受

取シ所ノ元資タル物件ヲ算還スルヿナク、又別段ニ約定シタルヿナキニ於テハ年金償額ノ二十倍ヲ一時ニ拂フベキモノトス、

一箇ノ不動產ヲ出シ又ハ動產ヲ出シテ設定シタル年金ハ、其ニ動產ニシテ且其期ト定メタルトキハ等ク之ヲ買戻シ得ベシト雖モ、其兩年金ノ間ニハ著キ差違アリ、蓋シ不動產ヲ出シテ設定シタル年金ハ、三十年間其買戻ヲ禁ズルヿヲ得ルニ因リ、年金ヲ得ベキ者ニテ買戻シノ契約ヲ爲ストキハ、例ヘバ毎年四千「フラン」ノ年金ヲ受取ル者ナレバ、十二萬「フラン」ノ價額ヲ出サヾレハ、之ヲ買戻スヿヲ得セシメズト約定スルヿヲ得、且年金ニ付テハ其元資トシテ與ヘタル不動產ニ付先取特權ヲ有シ、期限來リテ得ベキ年金アルニ之ヲ出スベキ者ヨリ之ヲ出サヾルトキハ、其年金ノ契約ノ取消ヲ要メ得、動產ヲ出シテ設定シタル年金ニ付テハ、十年間ナラデハ買戻ヲ禁ズルヿヲ得ズ（第千九百十一條見合セ）且之ヲ買戻ストキ年金ヲ得ベキ、者最初出シタル元資ヨリ多クノ金額ヲ受取ルベキ契約ヲ爲スヿヲ得ズ、又受取ルベキ年金ノ保證ニ於テモ甚ダ微弱ナリトス、蓋シ年金ヲ出スベキ者ニ於テ、其受取リタル動產ヲ消費シタルニ於テハ既ニ右ノ特權ヲ消滅ス

レバナリ（第二千百二條見合セ）

（末項ニ三十年ノ定期ニ背キタル契約ハ取消トストアレ𪜈、三十年ヨリ永キ期限ヲ約定シタル時其契約ヲ全ク取消スニハ非ズ、只ダ三十年迄ニ減縮スルノミ）

第五百三十一條　小艇、渡舟、船舶、船ニ在ル風車及ビ水車、浴舟其他杙ニ附着シテ家屋ノ一部ヲ爲スニ非ザル諸般ノ器具類ハ之ヲ動産トス然レ𪜈此等ノ物件ハ重大ノ物タルニ因リ訴訟法ニ記スル所ノ如ク債主之ヲ抵償（カタニトル）トシテ差押ルニハ別段ノ法式ヲ用ヰル可シ（民五一九、五二八、二一二〇、訴六二〇、商一九〇、一九七、ヨリ二一五、）

第五百十條ニ於テハ杙ニ附着シ、若クハ家屋ノ一部ヲ爲ス水車及風車ヲ不動産トナシ、本條ニハ杙ニ附着セズ又家屋ノ一部ヲ爲サヾル水車及風車ヲ動産トナセルナリ、

本條ニ記シタル動産賣拂ノ爲メ用ヰルベキ法式ハ、訴訟法第六百二十條及商法第百九十七條以下ニ詳記セリ、

第五百三十二條　建造物ヲ毀チテ得タル物件及ビ新タニ建造物ヲ營理ス可キ爲メ集メタル物件ハ營理ノ爲メ工丁ノ未ダ用ヰザル間之ヲ動産トス（民五二八、）

建造物ヲ搆成セシ所ノ材石モ之ヲ毀チテ離分スレハ、忽チ動産トナルト雖𪜈、家屋等ノ牆壁ノ虧缺シタルニヨリ出ル石等ハ、其所有者ニテ其虧缺ヲ補理スル爲メ、之ヲ使用スルノ意アリト看做スベキ間ハ、不動産トナシタルニ因リ、動産抵償ノ方法ヲ以テ差押フルヿヲ得ズ、

新ニ建造物ヲ營理スベキ爲メ採集シタル石等ハ、之ヲ使用シテ營理スベキ建造物ノ一部ヲ爲スニ因テ不動産トナルナリ、葡萄ノ架ト爲スベキ爲メ備ヘタル木材ハ、之ヲ葡萄園ニ搆置シタル後ニ非ザレバ不動産トナルヿ無ク、又一度園中ニ搆置シタル架材ハ之ヲ拔取ルト雖𪜈、再ビ搆置センガ爲メ園中ニ蓄ハヘ置クトキハ、依然不動産トス、

第五百三十三條　「ミユーブル」ト云ヘル語ハ相對スル語ナク且添辭ヲ用ヰルヿナク之ヲ法律又ハ人事ニ付キ用ヰル時ハ金銀、寶石、貸高、書籍、賞牌（メダイユ）、學藝及ビ製造ノ器具、亞麻布、車馬、兵器（アルム）、穀類、酒類、枯草其他人獸ノ飲食料ヲ指シ言フヿナシ（民四五二、商六三二）

「ミユーブル」ト云フ詞ハ種々ノ意味アリテ、或ハ不動産ニ非ザル所ノ一切ノ物件ヲ包括シ、或ハ本條ニ記スル狹キ意義アリ、或ハ又（ミユブル、ミユブラン）ノミヲ指シテ言フ

「アリ」「ミユブル」ト云フ詞ヲ單一ニ用ヰルトキハ、之ヲ用ヰシ者ノ意ヲ酌量シテ其意義ヲ定ムベシ、例ヘバ爰ニ遺贈者アリテ、其「ミユーブル」ヲ甲ニ贈遺シ、其不動産ヲ乙ニ贈遺ス、然ルトキハ甲ニ爲シタル贈遺ハ、不動産ニ非ザル一切ノ物件ヲ包括シタルモノトナスベシ、何トナレバ、遺贈者ハ、財産ノ全部ヲ贈遺セントノ意ナリシ「明白ナレバナリ(第五百三十條ヨリ第五百三十六條ニ至ルマデハ、之ヲ成典中ニ記載スル「全ク無用ナルガ如シ、何トナレバ其説ク所ハ法ニアラズシテ文法ナレバナリ、蓋シ立法者ハ文法ヲ定ムルヲ要セズ成典ハ辭典ニ非バレバナリ)

第五百三十四條「ミユーブル、ミユーブラン」ト云ヘル語ハ毛氈、臥牀、椅子、鏡、自鳴鐘、卓子、陶器及ビ房室ニテ使用スル類ノ物及ビ裝飾ト爲スル物ノミヲ云フ

房室ノ家具ノ一部タル畫額及ビ立像ハ「ミユーブル、ミユーブラン」ノ中ニ算入ス然レトモ展畫ノ房室又ハ其他ノ房室内ニ集メタル畫額ハ其中ニ算入セス陶器ノ類モ亦同シ但シ房室ノ裝飾ノ一部タル物ノミヲ「ミユーブル、ミユーブラン」ノ中ニ算入ス

「ミユブル、ミユーブラン」ハ「ミユブル」ヨリ猶狹キ意義ナリ、故ニ此詞ヲ單一ニ用ヰル

トキハ、房室ノ使用其他裝飾ニ備フル所ノ「ミユーブル」ノミヲ包括ス、

第五百三十五條「ピヤンミユブル」及ヒ「モビリエール」或ハ「エツフエーモビリエール」ト云ヘル語ハ前數條(第五百廿七條以下ヲ云フ)ニ記スル所ニ循ヒ動産ト爲ス可キ物ヲ總括シテ云フ

什具ノ備ハリシ家屋ヲ賣拂ヒ又ハ贈與スト謂フ時ハ「ミユーブル、ミユーブラン」ノミヲ包括ス(民五二七、五二八)

「ピアン、ミユーブル」若クハ「ピアン、モビリエー」若クハ「エツヘー、モビリエー」ト云ヘル語ハ、甚ダ廣キ意義アリテ、有形無形一切ノ「ミユブル」ヲ包括ス、然レトモ之ヲ用ヰシ者若クハ遺贈者ノ意ニ因テハ、稍ヤ狹キ意義ト爲シ得、又家什ノ備ハリシ家屋ト云ヘル語ハ、常ニ狹キ意味ヲ有スベキモノトシテ、家具ト爲シタル物ノ外他ノ動産ヲ包含スルヿナシ、

第五百三十六條　家屋ヲ其内ニ在ル諸品物ト共ニ賣拂ヒ又ハ贈與スト謂フト雖モ金銀又ハ其屋内ニアル、貸高ノ證券及其他ノ權利ヲ得可キ證券ヲ算入スルヿナシ但シ其他ノ「エツ

フエー、モビリエール」ハ皆之ヲ算入ス（民五三五、）

家屋ヲ其内ニ在ル諸物品ト共ニト云フ語ハ、賣買交換生存中若クハ遺贈ノ贈遺ニ付、多ク之ヲ用ヰ、其意義ハ動産（ビアン、ミユブル）ト云ヘル詞ヨリ稍ヤ廣クシテ、金銀及貸金穀ノ證書株式證書ヲ除（メーヅン、ミユブル）ト云ヘル詞ヨリ稍ヤ廣クシテ、金銀及貸金穀ノ證書株式證書ヲ除クノ外、其家屋内ニ在ル一切ノ「エツフエー、モビリエール」ヲ包括ス、

○第三章　財産ト之ヲ所有スル者トノ關係

第五百三十七條　何人ニ限ラズ法律上ニ定メタル規則ヲ循守スルニ於テハ己レニ屬スル財産ヲ自由ニ爲スヿヲ得（民二五、二一七、二一八、四五〇、四五一、四八〇、四八一、四九九、五〇九、五一三、五四四、五五五、一四二一、一四二二、一四四九、一五三八、一五五四、一五五四、一五七六、一五九五、一五九六、商五ヨリ七、四四三、）

私ノ所有ニ屬セザル財産ハ其財産ノミニ限リタル規則ト法式トニ循ハズシテ之ヲ支配シ及ビ賣拂フ可カラズ（民一七一二、二〇四五、二二二七、訴四九、六九、八三、四八一、一〇三二、）

契約ヲ取結ブヿヲ得ベキ權力全キ者ハ、法律及規則ヲ循守スルノ單一ナル要件ニ從フニ於テハ、其財産ヲ自由ニ處置スルヿヲ得、私ノ所有ニ非ザル財産トハ無形人ノ所有ニ係ル財産ニシテ、其管理人若クハ代理人之ヲ支配シ、其財産ノ爲メ特別ニ設ケタル例規ヲ循守スルニ非ザレバ、之ヲ讓與若クハ賣拂フヿヲ得ズ、

第五百三十八條　政府ニテ擔當スベキ所ノ道路、巷徑、市街舟楫ヲ通ズ可キ河川、渠、汀、洲、港口、碇泊場及ビ其他私ノ所有ト爲ス可カラザル佛國西領地ノ部分ハ國有ト看做ス（民五四〇、五五六、五五七、七一四、二二二六、）

政府ニテ擔當スベキ道路トハ、巴里府ヨリ國境若クハ港口ニ達スル所ノ、國道及軍事ノ爲メ設ケタル道路ナリ、鐵道ノ大線路モ亦政府ニテ擔當スベキ道路トセザルヲ得ズ、何トナレバ鐵道ヲ建築シ、運輸ヲ營業スル所ノ會社ハ、決シテ其鐵道所有權ヲ有スルニ非ズ、特ニ豫定期限内其所用ノ權ヲ有スルノミニシテ、畢竟其鐵道ヲ建築修繕スルハ、其所用ノ要約トシ官府ヨリ命ジタル義務ヲ行フニ過ギザレバナリ、州道郡道邑道ノ如キハ、其定ムル所ノ區分等級ニ從テ或ハ州ノ擔當スル所トシ、或ハ邑ノ擔當スル所トス（官

有地ト國有地トヲ混同スベカラズ、官有地ハ賣却若クハ期滿得權ノ法ニ因テ私有スルヿヲ得ベキニヨリ、到底無形人タル官府ノ私有地ト云フガ如シト雖ヒ、國有地ハ其性質ヲ變ズルニ非レバ之ヲ賣拂フヿヲ得ズ、又人民ニ於テ幾百年ノ間之ヲ占有スヒ、期滿得權ノ法ニ因テ私有ト爲スヿヲ得ザルモノニシテ、本條ニ揭グル所ノモノノ如キ是ナリ、）博識ナル「メルラン」ノ說ニ因リ、凡ソ水流ヲ三等ニ分チ筏ヲ浮フベキ河川ヲ一等トシ舟筏ヲ浮ブベカラザル河川ヲ二等トシ、最小ノ川ヲ三等トシ、一等ハ國道ニ准シ、二等ハ邑道ニ准シ、三等ハ其水流ノ經過スル兩邊ノ地ノ所有者ノ爲メノミニ便益トナルトキハ、其所有者ニ屬スベシトノ趣意ヲ以テ、千八百六十二年四月七日「ボルドー」審院ニ於テ判決セリ（其文略之）

汀ハ海岸ニ打寄セシ所ノ土地、洲ハ海水（若クハ河流）ノ轉遷ニ因テ自然ニ生ズル所ノ土地ナリ、而シテ汀洲ハ本ト國有ナリシガ、千八百七年九月十六日ノ法律ヲ以テ官有ト爲シタリ、故ニ人民ニ於テ期滿得權ノ法ニ因リ之ヲ私有ト爲スヿヲ得、

第五百三十九條　所有者ナキ財產及ビ遺物相續人ナキ財產又ハ相續人ノ皆拋棄シタル財產ハ國有ナリトス（民三三、五四一、五六〇、七一三、七一五、ヨリ七一七、七二二、七六八、二二七、）

本條ニ所謂所有者ナキ財產、及遺囑ヲモ爲スヿナク、死去シタル者ノ遺物ニ付テハ直ニ其主ヲ生ズ、此主ハ國ニ非ズシテ官府ナリ、官府ハ右ノ財產ニ付凡ソ人民ノ所有權ヲ得ルト同ク、其所有權ヲ得ヘキニ因リ、亦人民ト同ク期滿得權ノ法ニ從フベキモノトス（第二千二百七十七條見合セ）

野獸野鳥魚類ハ其所有者ナシト雖ヒ、本條ニ因リ官府ノ所屬ト爲スベカラズ、是等ノ物ハ之ヲ第一ニ捕獲セシ者ノ所有トス、

第五百四十條　城砦ノ門、壁、壕、塹、壘等ハ亦國有ノ一部トス（民五三八、七一四、二二二六、）

第五百三十八條ニ記列シタル物件ト同ク、本條ニ記スル物件ハ、人民ノ私有ト爲スベカラザルニ因リ國有トナス、

第五百四十一條　既ニ戰鬪ノ用ニ供ゼザル城砦中ノ地及ビ壘ハ亦國有トス但シ官ヨリ正當ニ之ヲ賣拂ヒタル時又ハ其占有者期滿得免ノ權ヲ得タル時ハ格別ナリトス（民五三九、五

六〇、二二七、）

本條ニ記スル所ノ財産ハ、國有ノ所屬タルヿ止ミシ上ハ、本條ノ第二項ニ記スルガ如ク官有ニ歸ス、故ニ、人民ノ私有ト爲スヿヲ得、又人民私有財産ト同ク、期滿得權ノ法ニ從ハシムルヿヲ得ト爲スノ權アルモノナリ、

第五百四十二條　邑ノ財産トハ一邑又ハ數邑ノ住民相共ニ之ヲ所有ト爲シ又ハ其産物ヲ所得ト爲スノ權アルモノヲ云フ（民五三七、九一〇、一七一二、二二二七、）

邑ト同ク州及官廨ノ公ケノ建造物ハ、無形人タルヲ以テ財産ヲ所有シ得、邑ハ第一各人民ノ所用ニ係リ一箇人民ノ私有ト爲スヲ得ベカラズ、且期滿得權ノ法ニ從ハザル所ノ財産ヲ所有シ得、即チ道路、寺室、公園、會場等是ナリ、第二邑内住民ニテ入額ヲ所得ト爲ス所ノ財産ヲ所有シ得、即チ各人家畜ヲ放テ食セシムル所ノ牧場等是ナリ、第三共有ノ財産ニシテ其入額ヲ所得ト爲スヿ、一般人民ト同一ナル所ノ財産ヲ所有シ得、

第五百四十三條　人ハ財産上ニ付キ其所有ノ權ヲ有スルアリ入額ヲ所得ト爲スノ權ヲ有スルアリ又土地ノ義務ノミヲ得可キノ權ヲ有スルアリ（民五四四、五四五、五七八、五七九、

六二五、六二五、六三七、六三七、二〇七二、二〇九、四、九五、）

權利ヲ分テ人權物權トス、人權トハ義務ヲ得ベキ權利ニシテ之ヲ人權ト稱スルハ、蓋シ義務ヲ得ベキ權利アル者ヨリ豫知シ、若シクハ特ニ定メタル人即チ義務ヲ盡スベキ者、若クハ其財産ノ全部、若クハ別段指定メザル財産ノ一部ノ相續人、ニ對シテナラデハ其權利ヲ執行セント求ムルヿヲ得ザレバナリ、物權トハ物件上ニ付テノ權利ナリ、此權利ハ頗ル廣ク其權利ヲ有スル者ニ於テ、其權利ノ執行ヲ求ムベキ人ヲ豫知スルヿナシ、故ニ己レノ權利ヲ侵シタル者アルニ於テハ、之ニ對シテ訴訟ヲ爲スベキノミ、

物權ハ第一所有權、第二入額所得ノ權、但シ所用權及住居ノ權ハ入額所得ノ權中ニ包括ス、第三土地ノ義務ヲ得ベキ權是ナリ、

○第二卷　所有ノ權（千八百四年一月二十七日決定二月六日下達）

所有權（プロプリエテー）ト云ヘル詞ト、占有（ポッセッション）ト云フ詞トハ同意ニ非ズ決シテ混同スベカラズ、所有權トハ、一箇ノ人ト、其財産ノ一部ヲ爲シタル一箇ノ物トノ間ニ生ズル所ノ審判上ノ關係ニシテ、占有ハ決シテ一箇ノ權利トナルヿナク、假令

期滿得權ノ効ヲ生ゼシムルガ爲メ必用ナル諸性質ヲ備フルトキト雖ドモ、唯物件ヲ押ヘ置クノ事實アルノミ、凡物件ノ所有者ハ之ヲ保持スルヿ（「ポッセッション」ヲ有スルヿ）常ナリト雖ドモ、所有權ハ甲者ニ屬シ、占有ハ乙者ニ屬スルヿ寡ナカラズ、故ニ其物件ヲ其所有者ノ手ニ入レントセバ、之ヲ押ヘ置ク者ニ對シテ物件取戻ノ訴ト稱スル所ノ訴ヲ爲サヾルベカラズ、

第五百四十四條　財產所有ノ權トハ法律及ビ規則ニ禁止スル用法ヲ爲スノ外十分隨意ノ方法ニ財產ノ益ヲ得及ビ財產ヲ處分スルノ權ナリ（民五三七、五四三、五四五、五四六、六三六、六四三、六四四、六四五、六四九、六五一、六五五、六八六、六八七、九一三、九一四、森六三、一一九、一二四、一三三、一四七、二一九、）

所有權「プロプリエテー」ト云フ詞ハ或ル物件上ニ付人ノ權利ヲ指スニ用ヰ、或權ハ其、利ノ目的タル所ノ物件ヲ指スニ用ヰルナリ、本條ニ因レバ所有者即チ所有權アル者ハ財產ノ益ヲ得ルノ權利ト財產ヲ處分スルノ權利トヲ有ス、然ルニ財產ノ益ヲ得ルノ權利ト云フノ意義ハ、只ニ其物件ヨリ生ズル所ノ利益ヲ收入スベキノミナラズ、其物件ヲ

使用スベキノ權利ヲ包含スルナリ、使用ノ權ト云フ詞ハ、家屋ニ付テ用ヰルトキハ、之ヲ住居ノ權（アビタシヨン）ト稱ス、故ニ所有者ハ相異ナル數人ニ屬シ得ベキ所ノ別アル三箇ノ權利ヲ有ス、即チ使用ノ權、得益ノ權、名義ノミノ所有權是ナリ、而シテ使用ノ權ト得益ノ權トヲ同一ノ人ニ併セ、所有ノ權ノミヲ分離スルトキハ、第三卷ニ所謂入額所得ノ權（ユシユフリユイ）トナルナリ、前段ニ所謂所有權ト云フ詞ハ、元ト羅甸語ノ「アビスユス」ト云ヘル詞ヨリ來レルモノニテ、人其所有スル物件ヲ以テ、道理ニ背キタル不良ノ用ニ供シ得ベシト云フノ意味アルヿナク、所有者ハ其所有スル物件ニ付テハ之ヲ處分スルヿ、即チ之ヲ賣拂ヒ贈與シテ其物件ニ付テ有スル所ノ、一切ノ權利ヲ人ニ移スヿヲ得ト云フノ意味ナリ、而シテ所有者ノ權利ハ法律及規則ヲ以テ之ヲ制限シタリ故ニ所有者タリトモ其家屋ヲ燒失シ火藥骨牌（カルタ）ヲ製造シ、政府ノ特許ナク所有地內ニ在ル鑛物ヲ開發スルヿヲ許サズ、

第五百四十五條　公ケノ利益ノ爲メニシテ且預メ相當ノ償ヲ得タル上ニ非ザレバ何人ニ限ラズ其財產所有ノ權ヲ奪ハルヽヿナカル可シ（民五四四、六四三、六六〇、六六一、六八二、）

一般ノ資益ハ私ノ資益ニ先タヽザルヲ得ズ、故ニ公同ノ便益ニ係ルヲ以テ、鎮道、國道、州道、諸種ノ里道、市街ノ廣場ヲ開築シ、若クハ道幅ヲ廣ムル爲メ、人民ノ私有ニ屬スル不動產ヲ沒收スルヿ屢ナリ、然レ𪜈成ルベク丈ケ一般ノ資益ト私ノ資益トヲ調和セシムル爲メ、本條ニ於テ財產ヲ沒收セラレタル所有者ハ、其沒收ヲ受クルノ前預メ相當ノ償ヲ受クベキヿト確定シタリ、公同便益ノ爲メ不動產沒收ノ法ハ、即チ千八百十年三月八日、千八百三十三年七月七日、及千八百四十一年五月三日ノ法律是ナリ、此法律ニ從ヒ土木ノ事業ハ其大小輕重ニ從ヒ、皇帝若クハ州長之ヲ布告シ、民事裁判所ニ於テ沒收ノ言渡ヲ爲ス、償額ノヿニ付官民ノ雙方ニ於テ協議相整ハザルトキハ、不動產所有者ヲ以テ編成シタル鑑定人（陪審トモ譯ス）之ヲ定ム、但シ償金ハ必ズ土木ノ事業ニ着手ノ前ニ拂フカ、若クハ預リ役所ニ預ケ置クカヲ要ス、大小ノ道路ヲ開修スル所ノ者ハ、其接近ノ土地ヨリ必用ノ土砂ヲ堀取ルノ權アリ、此場合ニ於テ其土地ノ所有者ハ其償金ヲ得ベキノ權アリ、其金額ハ協議ヲ以テ定メ、或ハ監定人二人ノ申述ブル所ニ因テ之ヲ定ム、其監定人ハ土地ノ所有者ト州長トニ於テ各一人ヲ撰任ス、又必要トスルトキハ州長ヨ

リ更ニ一人ヲ撰任シ合セテ三人トス、

第五百四十六條　動產不動產ヲ問ハズ財產所有ノ權アル時ハ天然又ハ人工ニ因テ其財產ヨリ生ズル物及ビ其財產ニ附加スル物ヲモ亦所有スルノ權アリ

此權ヲ名ケテ主ニ因テ從ヲ併スルノ權ト云フ（民五四七、ヨリ五七七、七一二、一〇一八、一〇一九、一六一四、六一五、二一一八、二一三三、二二〇四、）

附加スル物水勢ニ因リテ、河川ノ岸ニ漸々積累シタル地ノ如ク、人工ヲ加フルヿナキモノヲ自然ニ附加スル物ト謂ヒ、又他人私ニ其材ヲ以テ我所有地ニ土木ヲ造營セシガ如キ、人ノ勞力ヨリ成ルモノヲ、人工ニ因テ附加シタル物ト謂フ、

○第一章　財產ヨリ生スル物ニ付主ニ因テ從ヲ併スルノ權

第五百四十七條

天然又ハ人工ニ因リ地ヨリ生ズル利益

法律上ニテ財產ヨリ得可キ利益

蓄殖シタル獸類

此等ノ物ハ主ニ因テ從ヲ併スルノ權ニ因リ其財産ノ所有者ニ屬ス（民五四六、五四八、五八三、五八四、）

蓄殖シタル動物及ビ之ヨリ得ベキ産物卽毛、乳、蜜ノ如キヲ以テ天然ノ利益トス、第五百八十三條及ビ第五百八十四條ニ天然人工及ビ法律上ノ利益ノ義ヲ解セリ、

第五百四十八條　財産ヨリ生シタル利益ハ其所有者他人ノ爲シタル勞動、耕耘種子ノ費用ヲ償ハザレバ己レノ所有ト爲ス可ラス（民五八五、二一〇二、）

爰ニ土地アリ、其所有者ニ非ザル者之ニ耕耘ノ勞動及種子ノ費用ヲ施セリ、然ルトキ其所有者ハ其利益ヲ收入スルノ權利アリ、然レトモ何レノ人モ他人ノ損失ヲ以テ己レヲ富マスベカラスト云フ原則ニ因リ、其耕耘ノ勞動及ビ種子ヲ施シタル者、假令有心故造ニ出タルモ所有者ヨリ其費用ノ償ヲ出サヾルベカラズ、若シ其者其土地ノ占有人タルトキハ、其費用ノ償ヲ受クル迄ハ、其土地ヲ押ヘ置ノ權アリト雖モ、其占有者ニ非ザルトキハ、決メ其利益上ニ付先取ノ特權ヲ有スルヿナシ、何トナレバ第二千百二條ニ於テ種子及ビ收納ノ費用ノ爲メ、他人ニ拂フベキ金額ハ、收納物ノ代價上ニ付、先取ノ特權アリト定

ムル所ハ、土地ノ貸主ニ於テ、其貸渡シタル土地ノ收獲中ヨリ受クベキ所ノ、貸地料ノ仕拂ヲ求ムルトキ、種子及勞動ヲ費シタル所ノ者ト相爭フトキノ場合ニ非ザレバ、之ヲ適用スベカラザレバナリ、

第五百四十九條　財産ノ占有者ハ正實ニ之ヲ有シタル時ノミ其財産ノ利益ヲ己レノ所得ト爲スヿヲ得若シ不正實ニ之ヲ有シタル時ハ其財産ト共ニ其財産ヨリ生シタル利益ヲ其眞ノ所有者ノ要メニ應シ還與スベキモノトス（民一三八、五五〇、一三七八、二二二八、二二二九、二二六八、二二七九、訴一二九、五二六、五二七、）

前條ニハ未ダ收納セザル利益ノヿヲ掲ゲ、本條ニ於テハ財産ノ占有者ニテ收納シタル果物ノヿヲ掲グ、蓋シ財産ノ占有者トハ、其物件ノ所有者ニアラズシテ、其主タルノ精神ヲ以テ之ヲ現有スル者ナリ、而メ其利益ヲ所得ト爲シ得ベキヤ否ヤニ就テハ、其正實ナリシヤ否ヤヲ區別セザルベカラズ（正實ト云ヘル語ノ義解ハ次條ニ詳ナリ）正實ナル占有者ハ、天然及ビ人工ノ利益共ニ之ヲ採獲スレバ直ニ之ヲ所得ト爲スヿヲ得ベシト雖モ、不正實ナル占有者ハ決シテ其利益ヲ所得ト爲スヿヲ得ズ、其採獲シタル利益其既

ニ糜用セシ物件ノ代價、及其採獲ヲ怠リシ物品ノ見積代價ヲ、其物件ノ所有者ニ還與スベキモノトス、

所有者ハ占有者ヨリ、其占有ノ物件ヲ正意ヲ以テ買受ケシ者ニ對シ、其採獲シタル利益ノ還與ヲ求メ得ズト雖ドモ、其不正意ヲ以テ賣拂ヒシ者ニ對シテハ之ヲ求メ得ト、千八百六十四年二月九日大審院ニ於テ判決セリ（其文略之）

第五百五十條　人ヨリ財產ノ讓渡ヲ得シ證書ノ不良ナルヲ知ラズシテ其財產ヲ讓受ケ之ヲ己レノ有ト爲シタル時ハ正實ニ之ヲ占有セシモノトス

其證書ノ不良ナルヿヲ知リタル後猶ホ之ヲ有スル時ハ正實ニ占有シタルノ名義ヲ失フ可シ（民五四九、五五五、二二六五、二二六六、）

本條ハ第二千二百六十五條ニ於テ、他人所屬ノ不動產ノ占有者、正當ノ名義ニシテ且正意ヲ以テ、之ヲ占有セシヿハ十年若クハ二十年ヲ以テ、期滿得權ニ因テ其所有權ヲ得ト、揭ゲシ所ト大ニ相似タルガ如シ、蓋シ證書（チートル）ト云詞ハ多クハ一箇ノ證書ヲ指スニ用サレ共、此所ニテハ占有ノ事由ヲ指スニ用サルナリ、物件ヲ渡シタル者其物件上

ニ付自ラ有セシ一切ノ權利ヲ讓渡サント欲セシヿハ、之ヲ讓受ケシ者ハ正當ノ名義ナリトス、例ヘバ賣拂交換贈遺ノ如キハ皆正當ノ名義トス、正當ノ名義ニ相反シタル者ヲ「チートルプレケール」（所有權ヲ讓渡スト否トハ物件ヲ渡ス者ノ隨意トスト謂フノ義）ト謂フ、例ヘバ物件ノ預リ人若クハ其名代人又ハ抵當トシテ物件ヲ預リタル債主ノ如キハ「チートルセフレケール」ニ因テ物件ヲ占有スルノミ、又正意トハ此所ニテハ占有者ニ於テ、全ク所有權ヲ有セシ者ヨリ物件ヲ受取タリト誤信シテ占有シタルヿハ、即チ正意ヲ以テ占有シタルモノトス、正當ノ名義アル占有者ハ、正意ナルモノト思料ス、故ニ占有者不正意ナリト述ル所ノ者ハ、其證據ヲ出サヾルベカラス、

右ノ原則ハ物件所有權ノ期滿得權ニ關スト雖ドモ、亦物件ノ利益ノヿニ付テモ適用スベキモノトス、然レドモ二箇ノ相違アリ、第一名義即チ證書ニ疵瑕アリシヿ、例ヘバ遺贈ノ其法式ニ背クガ如キハ、其遺贈ノ證書アルニ因テ、決メ十年ヲ以テ期滿得權ヲ得ルヿナシト雖ドモ、其證書ノ疵瑕アルヲ知ラザルヿハ、其贈遺ヲ受ケシ物件ノ利益ヲ採収スレバ、直チニ之ヲ所得ト爲スヲ得、第二不正意ナル占有者ノ相續人ハ十年ヲ以テ所有權ノ期

滿得權ヲ得ルヿヲ得ズト雖ドモ、其相續人正意ナルニ於テハ其採収シタル利益ハ之ヲ所得ト爲スヲ得、

○第二章　財產ニ附加シ且合同スル物ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スルノ權

第五百五十一條　凡ソ財產ニ附加シ且合同シタル物ハ次ニ記スル所ノ規則ニ循ヒ其財產ノ所有者ニ屬ス（民五四六、五五二、ヨリ五七七、）

本章ハ第一不動產ニ付主ニ因テ從ヲ併スルヿ、第二動產ニ付主ニ因テ從ヲ併スルヿヲ揭グ、

○第一款　不動產ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スルノ權

第五百五十二條　土地ヲ所有ト爲ス時ハ亦自カラ其地ノ上下ヲ所有スルノ權アリ

其地ノ所有者ハ此篇ノ第四卷（土地ノ權義）ニ記スル所ヲ除クノ外其地上ニ自己ノ欲スル所ノ植附及ビ造營ヲ爲スヿヲ得

又其所有者ハ鑛礦ノ法律並ニ規則及ビ取締ノ法律並ニ規則ニ定メタル所ヲ除クノ外其地下ニ己レノ欲スル所ノ造營及ビ窖穴等ヲ造リ且其窖穴ヨリ生ズ可キ物ヲ堀取ルヿヲ得

（民六四一、六七一、六七四、六七八、六七九、六八六）

一箇ノ土地ヲ購求スル者ハ固ヨリ完全ナル所有權、即チ地上地下ノ所有權ヲ得ント欲スルナルベシ、然レドモ地上地下ノ所有權ハ、各別ナルモノナリト思量スルヿアリ、然ルトキハ地上ノ所有者ハ其地上ヲ耕耘シ、植付及ビ造營ヲ爲シ、且窖井等ヲ造リ得ベシト雖ドモ、坑ヲ鑿チテ地下ノ物件ヲ堀取ルヿハ、地下ノ所有者ニ歸スベシ、此ノ如ク地上地下ノ所有權ヲ分別スルヿハ、鑛礦ヲ開採スルノ場合ニ非ザレハアルヿナキガ如シ、鑛礦開採ノ免許ヲ得シ者モ決シテ其開坑ノ空間ノ所有權ヲ得ルヿナシ、又土地ノ所有者其土地ニ屬スル石塊ヲ人ニ賣渡ストキハ、地上地下ノ分別ヲ立ルヿナシ、只ニ其人ヲシテ之ヲ堀出シ、其地中ヨリ分離セシ物ヲ所得ト爲スベキ動產上ノ權利ヲ得セシムルノミトス、土地ノ所有者ノ權利ハ、法律ノ規格ニ因リ他人ニ得セシメタル、土地ノ義務ニ因テ之ヲ制限ス、例ヘバ所有地ノ境界線ニ高樹ヲ植付ルヿヲ許サヾルノ類ナリ（第六百七十一條見合セ）

千八百十年四月二十一日頒布ノ坑法ヲ以テ、土地所有者ノ權利ヲ制限シタリ、往昔土地

ノ所有者ハ、其土地内ニ存在スル鑛礦ニ付所有權ヲ有シタリシガ、此法ノ頒布以降ハ、金、銀、銅、錫、鉛、石炭、等ハ官府ノ所屬トシ、其開坑ヲ善良ナラシメンガ爲メ、必要ナル諸件ヲ備フル者ニ非ザレバ開坑免許ヲ與フルヿナシ、其免許ハ皇帝參議院ノ意見ヲ聞キシ後、土地ノ所有者若シクハ他人ニ之ヲ附與ス、但シ土地所有者ニ非ザル者開坑免許ヲ受ケシトキハ、土地ノ所有者ニ賠償ヲ爲スベキヲ要ス、開坑免許ヲ受ケタル鑛礦ハ、地下ノ所有權ニ屬シ、地上ノ所有權ト異ナル、法律ノ確定ニ因テノ不動產トシ、以テ書入質ト爲スヿヲ得、

第五百五十三條　地上又ハ地下ニ在ル諸般ノ造營、植附及ビ土功ハ別段ノ証アル時ノ外其地ノ所有者自己ノ費用ヲ以テ之ヲ爲シ其者ニ屬スルモノト看做ス可シ但シ他人其地ノ建造物ノ下ニ在ル窖隧又ハ其建造物ノ一部ニ付キ期滿得權ノ時ハ格別ナリトス（民五五二、五五四、六六四、六九〇、六九一、一三五〇、一三五二、二二二八、二二二九、二二六二、二二六五、二二六六、）

一箇ノ土地内ニ存在スル諸工事ハ、其土地ノ所有者私費ヲ以テ之ヲ爲シタリトノ思料

ハ、凡ソ物件固有ノ体ヲ變更スルノ權ハ、所有者ノミニアリト云フ原則ニ根據セシモノナリ、然ルモ此思料ハ反對ノ證アルニ於テハ消滅ス、故ニ所有者ニ非ザル者己レノ物品ト費用トヲ以テ、工事ヲ經營シタルノ證ヲ立ツモ、決シテ其工事ノ所有者タルヿヲ得ズ、只其工事ニ付テ相當ノ賠償ヲ得ルノ權アルノミ、蓋シ其工事ハ畢竟其土地ノ一部ヲ爲シ其土地ノ附屬物ト爲セバナリ、

他人ノ建造物ノ在ル地下ニ窖坑ヲ占有スル者モ、公ケニ之ヲ占有シタル時ニ非ザレバ、期滿得權ニ因テ其所有權ヲ得ルヿナシトス（第二千二百二十九條見合セ）

（建造物ノ一部トハ、例ヘバ他人ノ地上ニ下水樋ヲ定期間設ケ置キシガ如キ事等ナリ、然ルトキハ土地ノ權義（セルヒチユード）ノ名義ヲ以テスルヿナク、所有權ノ名義ヲ以テ之ヲ占有ス、何トナレバ下水樋ノ如キハ土地ノ緊要ナル一部ヲ爲シタル有形物ナルニヨリ、之ヲ土地ノ權義ニ屬スルトキハ、其土地ニ附從シタル無形物トナリ、其土地ノ一部ヲ爲サヾレバナリ）

第五百五十四條　土地ノ所有者己レニ屬セザル品物ヲ用ヰ造營植附及ビ土功ヲ爲シタル時ハ其品物ノ價ヲ拂フ可ク且別段ノ道理アル時ハ損失ノ償ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受ク可シ然

ニ其品物ノ所有者ハ其品物ヲ轉移スルノ權ナシ(民一一四九、訴一二六、一二八、五二三五二四、)

土地ノ所有者他人ノ品物ヲ以テ造營ヲ爲シ、他人ノ樹木ヲ以テ植付ヲ爲シタルトキハ、直ニ其所有者トナリ、此品物及ビ樹木ノ本主ニ於テ恣ニ之ヲ轉移スルヿヲ得ズ、何トナレバ造營及ビ植付ハ土地ニ附屬スベク、且恣ニ之ヲ轉移シ得セシムルトキハ、僅々タル利益ヲ保護センガ爲メニ、所有者ニ大ナル損害ヲ蒙ラシムベケレバナリ、故ニ本主ニ於テハ賠償ヲ要ムベキ人權ノ訴訟權ナラデハ有スルヿナシトス、其賠償ノ高ハ其本主ニ蒙ラシメタル損害ヲ監定シテ定ムベク、亦審司ハ土地ノ所有者ノ正實ナルヤ否ヤヲモ併セテ參考スベシ、(本條ニ記シタル品物ノ所有者其品物ヲ轉移スルノ權ナシトノ規格ハ、既ニ羅馬ノ十二銅表ニ揭載シ、以テ恣ニ家屋ヲ取毀ヲ其遺址ヲ荒廢シテ、市街ノ形狀ヲ損ゼシメザランヿヲ專ラ豫防セントシタリシガ、佛國ニ於テハ既ニ前項ニ陳スルガ如ク、自然法ノ惡ヲ以テ惡ニ酬イル勿レトノ趣意ニ根據シ品物ノ所有者ハ賠償ヲ要ムルノ權アリテ、新ニ品物ヲ購求スルノ方法アルニ因リ、無益ニ土地ノ所有者ニ大ナル損害

ヲ蒙ラシムルヿ勿ラシメタリ)本條ノ品物トハ原語ニテハ(マテリオウ)ト云ヒ、特ニ工事ノ用材ノミヲ云フニ因リ、一箇ノ立像ノ所有者ハ、他人之ヲ以テ家屋ノ外面ニ立像裝置ノ爲メ作リタル凹所ニ裝置スルヿアリトモ、之ヲ移轉セント要ムルヿヲ得ベシ、又樹木ニ至テハ羅馬律ノ如ク、其既ニ根ヲ生ゼシヤ否ヤニ因テ區別セザルベカラズ其既ニ根ヲ生シタルトキハ之ヲ轉移セント要ムルヿヲ得ズ、只其償ヲ要メ得ベキノミ、何トナレバ既ニ土地ノ附屬物トナレバナリ、又未ダ根ヲ生ゼザルトキハ、之ヲ轉移セント要ムルヿヲ得、何トナレバ未ダ土地ノ一部トナラズ、且之ヲ轉移スルモ、土地ニモ樹木ニモ害ヲ生ズルヿナケレバナリ

第五百五十五條　土地ノ所有者ニ非ザル人己レノ品物ヲ以テ其地ニ植附、造營及ビ土功ヲ爲シタル時ハ其土地ノ所有者其植附造營及ビ土功ヲ己レニ保有シ又ハ此諸般ノ工作ヲ爲シタル者ヲシテ强テ之ヲ轉移セシムルノ權アリ

土地ノ所有者其植附、造營、土功ヲ廢毀セシメントスル時ハ其償ヲ出スニ及バズ其植附、造營土功ヲ爲シタル者ヲシテ其費用ヲ以テ之ヲ廢毀セシムルヲ得可ク且別段ノ道理アル

時ハ其植附、造營土功ヲ爲シタル者其土地ノ所有者ノ受ケタル損失ノ償ヲ出ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

若シ土地ノ所有者其植附、造營、土功ヲ己レニ保有セント欲スル時ハ其植附造營、土功ニ因リ地價ノ幾許ヲ增シタルヲ問ハズ唯其植附、造營、土功ヲ爲スニ用ヰタル品物ノ價ト其工作ノ費用ノ償トヲ出ス可シ

土地ヲ有スルノ權ヲ失フト雖ヒ眞實ニ之ヲ占有セシニ因リ其地ヨリ生ジタル利益ヲ其眞ノ所有者ニ還スニ及バザル者其植附、造營、土功ヲ爲シタル時ハ其土地ノ眞ノ所有者其植附造營、土功ヲ廢毀セシムルヿヲ得ズ但シ其者ハ、其植附、造營、土功ヲ爲シタル者ニ其用ヰタル物品ノ價ト工作ノ費用トヲ償ヒ又ハ其植附、造營、土功ニ因リ地價ノ增シタル額ヲ償フヿ自由ナリトス（民五四九、五五〇、五九九、八六七、一一四九、一六七三、一九四八、訴一二六、一二八、五二三、五二四、）

本條ハ人アリ己レノ品物ヲ以テ、他人ノ土地ニ造營土功植付ヲ爲シタルトキ、其人ノ權利如何ノ事ヲ說ケルナリ、而シテ其造營土功若クハ植付ヲ爲シタル者ハ、正實ニ其土地ヲ占

有シタル者ナルト、否ラザルトノ分別ヲ爲サヾルベカラズ、第一若シ造營者土地ヲ占有セザルカ、若クハ不正實ニ之ヲ占有シタル時ハ、土地ノ所有者隨意ニ造營者ノ工事ニ用ヰシ品物ノ價及ビ工料ヲ償ヒテ、其工事ヲ保有シ若クハ之ヲ廢毀セシメ、之ニ因テ生ジタル損害ヲ强テ償ハシムルヿヲ得、第二若シ造營者正實ニ土地ヲ占有シタル時ハ、土地ノ所有者ニ於テ强テ其工事ヲ廢毀セシムルヿヲ得ズ、造營者ニ品物ノ償及ビ工料ヲ償フカ、若クハ其工事ニ因テ其土地ノ價ヲ增シタル丈ケノ金額ヲ拂フカヲ撰定セザルベカラズ、此撰定ノ權ヲ行フニ付テハ、決シテ他人ノ損失ヲ以テ己レヲ富マスルヿナカルベシ、抑不正實ナル造營者ノ爲シタル工事ハ、正實ナル造營者ノ爲シタル工事ヲ處分スルヨリ、土地ノ所有者ノ爲メニハ稍ヤ便益ナルヿアリ、何トナレバ之ヲ保有スルト否ヤトハ全ク己レノ隨意ニシテ、造營者ヲシテ自費ヲ以テ其工事ヲ轉移シ、且損害ノ償ヲ拂ハシムルヿヲ得レバナリ、然レヒ又土地ノ所有者ノ便宜ニヨリテ、不正實ノ占有者ヲモ正實ノ占有者トシテ、造營土功若クハ植付ニ因テ、土地ニ附與シタル增價ノミヲ拂フヿヲ爲シ得ベキヿハ、諸法律家及ビ裁判事例ニ於テ一般聽ス所トナレリ、

正實ナル占有者ハ、己レノ受クベキ賠償ノ仕拂ヲ受取ル迄ハ、其土地ヲ押ヘ置クノ權アリト雖ヒ、不正實ナル占有者ハ之ヲ押ヘ置クノ權ナシ、ト千八百六十年七月十日「グレノーブル」上等審院ニ於テ判決シタリ（其文畧之）

（本條ニハ土地ノ所有者ニ非ザル者、己レノ品物ヲ以テ爲シタル工事ノ一ノミヲ說ケリト雖ヒ、若シ其品物其工事ヲ爲シタル者ノ所有ニ非ザリシトキハ如何センヤト云フニ、造營者ト土地ノ所有者トノ關係上ニ於テハ更ニ異ナルヿナク、土地ノ所有者ハ造營者ノ正實ナルト不正實ナルトニ因リ、或ハ造營ヲ轉移セシメ、或ハ經費ノ高ヲ償ヒ、若クハ土地ノ增價ノミヲ償フノ權アリトス、又造營者ト品物ノ所有者トノ關係ニ至テハ、其品物ニ付造營者ノ正實ナリシヤ否ヤヲ區別セザルベカラズ、然レヒモ又造營者ト品物ノ所有者トノ關係ハ、到底動產ノ遺失物若クハ賊物等ニ付特別ナル規則（第二千二百七十九條及ビ第二千二百八十條見合セ）ニ據ラザルベカラズ、要スルニ工事ニ用サシ品物ハ、假令賊物ニ係ルヒモ、土地ノ所有者ノ權利ハ依然トシテ變更スルヿナク、土地ニ附屬シタル物ハ即チ主ニ因テ從ヲ併スルノ權ヲ以テ、己レノ所有ト爲スヿヲ得、故ニ本條ノ己レ

ノ品物ヲ以テノ文ノ下ニ、若クハ他人ノ品物ヲ以テノ一語ヲ增補シテ可ナラン）

第五百五十六條　河川ノ傍側ニ知覺スルヲ得ズシテ次第ニ增成セシ地ヲ名ケ漸積ノ地ト云フ

漸積ノ地ハ河川ノ舟筏ノ通ズルト否トヲ問ハズ其傍側ニ在ル土地ヲ所有スル者ニ屬ス可シ但シ舟筏ヲ通ズ可キ河川ノ傍側ニ於テハ規則ニ循ヒ沿岸ノ小徑又ハ舟艇ヲ牽クノ路ヲ餘ス可シ（民五五七、五五八、五九六、六五〇、）

漸々積累シテ土地ヲ增加シタルトキハ其所有者ニ於テ何レノ賠償ヲ出スニ及バス、何トナレバ其漸積シタル土砂ノ分子ハ、元ト誰ノ所屬ナリシヤ知リ得ベキニ非ザレバナリ、然レヒモ舟筏ヲ通ズベキ河川ニ於テハ、沿岸ニ小徑若クハ挽船路ヲ餘サヾルベカラズ、千六百七十二年ノ勅令ニ因レバ、挽船路ハ其幅員二十四尺、小徑ハ四尺ヲ要シ、且挽船路ノ在ル所ノ岸ニ於テハ、岸角ヨリ三十尺、小徑ノ在ル岸ニ於テハ十尺、以內ニ樹木ヲ植エ又ハ生墻ヲ造ルヿヲ禁ジタリ、

第五百五十七條　知覺スルヲ得ズシテ流水次第ニ彼岸ヲ侵シ此岸ヲ退キ乾涸セシ地ヲ遺シ

留ムル時ハ亦前條ニ記スル所ニ等シク其乾涸セシ地ヲ其傍側ノ地ノ所有者ニ屬ス可シ但シ其對岸ノ地ノ所有者ハ其失ヒシ地ヲ取還ス可キノ求ヲ爲スヿヲ得ズ

海水ノ退キテ遺シ留メタル乾涸ノ地ニ付テハ同上ノ權ナシトス（民五三八、五五六、五五六、五六〇、五六三、）

河川ノ沿岸ノ土地ノ所有者ハ、工事ヲ爲シテ其地ノ水害ヲ豫防スルヿヲ得ト雖ヒ、水流ノ進路ヲ轉遷セシメンカ爲メノ工事ヲ爲スヿヲ得ズ、

海水ノ退キテ遺シ留メタル乾涸ノ地ハ、國有ニアラズ（第五百三十八條見合）官有トス、

第五百五十八條　湖地ニ付テハ漸積ノ地ヲ所有ト爲ス可カラズ故ニ湖地ノ所有者ハ水量ノ減シタル時ト雖ヒ其滿チタル時覆フ所ノ地ヲ所有スルノ權ヲ失フヿナシ

又湖池ノ所有者ハ其水ノ異常ニ溢流スル時覆ヒタル傍側ノ地ヲ所有ト爲スノ權ナシ（民五五六、刑四五七、）

湖池モ水ノ集合シタル所タルヿハ、川海ト異ナルヿナシト雖ヒ、湖ハ地勢ニ因テ生ジ、池ハ人工ニ因テ成リ、其區域不易ニシテ川海ノ變遷スルト同ジカラザルモノアリ、

第五百五十九條　舟筏ノ通ズルト否トヲ問ハス河川ノ水若シ遽ニ漲流シテ其傍側ノ地ノ分明ニ知リ得可キ一部ヲ裁割シ之ヲ下流又ハ對岸ノ地ニ移去シタル時ハ其裁割ヲ受シ地ノ所有者猶ホ其移去シタル地ヲ所有セント訴フルヿヲ得可シ然ヒ其訴ハ一年間ニ爲ス可クシテ此定期ノ後ハ之ヲ爲スヿヲ許サズ但シ裁割セシ地ヲ其連合シタル土地ノ所有者未ダ己レノ所有ト爲サヾル時ハ格別ナリトス（民二二二七、二二六四、）

本條ハ第五百五十六條ノ沿岸ノ土地ノ所有者ハ、知ラズ識ラズ、漸々積累シタル土地ヲ直ニ所有ト爲スノ場合ト異ニシテ、本條ニ於テハ分明ニ知リ得ベキ廣大ノ一部ヲ裁割シ、之ヲ他ノ地ニ積累セシ場合ニシテ、其裁割セラレシ地ノ所有者ニ於テ一年間ハ、動產ニ關スル物權ノ訴訟權ニ因テ、其返還ヲ要ムルヿヲ得、且畢竟天災ナルニ因リ、其裁割セラレテ他ノ地ニ累積シタル土砂等ヲ取拂ヒ、且損害ノ償ヲ出スニ及バス、然レヒ一年內ニハ必ズ其返還ヲ要ムルヤ否ヤヲ決心セザルベカラズ、何トナレバ他ノ地ノ所有者ナシテ、永ク其地ヲ不耘ニ置カシムルヿヲ得ザレバナリ、

第五百六十條　舟筏ヲ通ズ可キ河川中ニ生シタル島嶼洲渚ハ官ニ屬ス可シ但シ別段ノ證書

アル時又ハ期滿得權ノ者アル時ハ格別ナリトス（民五三八、五六一、五六二、二二二七、）

舟筏ヲ通スベキ川敷ハ其水流ト同ク國有トス、故ニ之ヲ賣買讓與スベカラズ、且若干年間之ヲ占有スルモ、期滿得權ノ法ニ依テ其所有權ヲ得ルヿナシ（第二千二百二十六條見合セ、）

第五百六十一條　舟筏ヲ通ズ可カラザル河川中ニ生ジタル島嶼洲渚ハ其生ジタル沿傍ノ土地ノ所有者ニ屬ス可シ若シ其島嶼洲渚沿傍ノ一方ニ偏ラサル時ハ其河川ノ中央ヲ畫スル線ヲ分チ之ヲ兩方ノ地ノ所有者ニ屬ス可シ（民五三八、五五七、五六〇、五六三、六四一、ヨリ六四四、）

舟筏ヲ通スベカラザル川渠中ニ生ジタル島嶼洲渚ニ付、沿側ノ土地ノ所有者ノ權利ヲ定メンガ爲メ、本條ニ於テハ川渠敷ノ中央ニ一線アルモノト假定シ、各所有者ハ其島嶼洲渚アル川渠ノ岸上ニ臨ミシ所有地ノ幅ニ應ジタル部分ヲ、其中央線ニ至ル迄所得ト爲サシム、

舟筏ヲ通ズベカラザル川敷ハ、國有タルヤ又ハ沿側ノ土地ノ所有者ノ所屬ナルヤノ論

說紛々タリト雖モ、之ヲ國有ト爲スノ說最モ取ルベキ者ノ如シ、蓋シ此說ハ舊法ノ規格ト立法議院ノ論辨、及ビ第五百六十三條ノ川敷ヲ去タル部分ハ、其新タニ水流ノ浸入ヲ受ケ、以テ川敷トナリタル地ノ所有者ハ、河側地ノ所有者ニ賠償ヲ出スヿナク、之ヲ所有ト爲スト云フニ根據ス、故ニ公益ノ爲メ沒收ヲ受ケタル、河側ノ地ノ所有者ニ給スベキ償額ヲ定ムルニ當テ、川敷ノ廣狹ヲ酌量スルヿナシト、千八百六十年二月二十七日「レンヌ」上等審院ニ於テ判決シタリ、

第五百六十二條　若シ河川ノ新タニ支流ヲ生ジ沿傍ノ地ヲ裁割シテ之ヲ環繞シ島ト爲シタル時ハ、其島舟筏ヲ通ス可キ河川中ニ生ジタル時ト雖モ猶ホ其地ノ所有者ニ屬ス可シ（民五三八、五六〇、五六一、）

川渠ノ支流ノ爲メ繞圍セラルヽト雖モ、其土地性質ハ依然トシテ變ズルヿナシ、故ニ所有者ノ權利モ之ヲ保續スベキハ固ヨリトス、

第五百六十三條　舟筏ヲ通ズルト否トヲ問ハズ河川其從來ノ川路ヲ去テ新ニ川路ヲ爲ス時ハ新タニ川水ノ浸入セシ地ノ所有者其償トシテ各々其失ヒシ地ノ割合ヲ以テ從來川路ノ地

ヲ所有ト爲ス可シ

羅馬律ニ於テ、河川從來ノ線路ヲ去リシ時、其舊川路ノ地ハ、河川沿側ノ地ノ所有者ノ所屬トナセリ、然レドモ本條ニ依レバ、補償トシテ新タニ河水ノ浸入セシ地ノ所有者ニ歸ス、此規格ハ羅馬律ニ比スレバ、實際上稍ヤ其益少ナキガ如シト雖ドモ、畢竟情義ニ基キ設ケタルモノナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ河川沿側ノ地ノ所有者ニ於テ、川敷ノ所有權ナキヿ自ラ明カナリ、然ルヲ若シ之ヲ所有權アルモノトセバ、河川ノ浸入ヲ受ケシ者、他人ノ所有權ノアル從來ノ川敷ヲ所有ト爲スヿヲ得ベク、本條ハ終ニ不正不理ノモノタルベシ、

第五百六十四條　鳩兎魚ノ從來棲息シタルニ非ザル鳩舍兎場池沼ニ移棲セシ時ハ詐計ヲ以テ誘導シタルノ外之ヲ其移棲セシ鳩舍兎場池沼ノ所有者ニ屬ス（民五二四、一三八二、二二六八、刑三八八、四五二、四五三、）

鳩舍、兎場、沼、ノ所有者ハ、他人ノ鳩兎魚ノ來集スル者ヲ所得トナス、何トナレバ一度來集スレバ最早彼我ノ所屬ヲ識別スルヿ能ハザレバナリ、然レドモ詐計ヲ以テ誘導シタ

ル時ハ、即チ故意ヲ以テ此動物ノ故ノ所有者ニ損失ヲ蒙ラシメタルニ因リ、之ヲ補償スベキモノトス

○第二款　動產ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スルノ權

第五百六十五條　所有者二人ニ屬シタル二箇ノ動產ニ關スル主ニ因テ從ヲ併スルノ權ハ全ク天然ノ情義ニ順フ可シ然レドモ次ノ規則ハ其時ノ摸樣ニ從ヒ法律ニ明文ナキ場合ニ於テ裁判官ノ心得ノ爲メ之ヲ用ヰル可シ（民五二八、五二九、五四六、五五一、五六六、五六七、七一二、）

此款ハ、第一、二箇ノ品物相連合スト雖ドモ、各其固有ノ性質ヲ保有シ、常ニ之ヲ分離シ得ベキモノ、ヿヲ說キ（第五百六十六條ヨリ第五百六十九條ニ至ル）第二、他人所屬ノ品物ヲ用ヰテ、新ニ一種ノ物ヲ造リシモノ、ヿヲ說キ（第五百七十條ヨリ第五百七十二條ニ至ル）第三、數人ニ所屬ノ數箇ノ品物ヲ相互ニ混合セシモノ、ヿヲ說ケリ（第五百七十三條ヨリ第五百七十四條ニ至ル）

以下數條ニ記列シタル場合ニ於テ、裁判官ハ其數條ノ規格ニ問擬スベキモノトス、又法

律ニ明文ナキ場合ニ於テハ、其明文アル場合ヲ參考シ、且天然ノ情義ヲ酌量スベキヲ要ス、然レドモ雙方ノ承諾ヲ以テ前項ニ記シタル三箇ノ場合ニ立至ル時、其權利ハ其雙方ノ目的ニ從テ之ヲ定メザルヲ得ズ、動產ニ付テハ現ニ之ヲ有スルヲ以テ其所有ノ權ノ證書ヲ有スルニ等シキ効アリト看做ス（第二千二百七十九條見合セ）トノ原則ハ、動產ニ付主ニ因テ從ヲ併スルノ權ニ付テノ規則ヲ適施スルノ障碍トナルヿ屢ナルヿニ注意セザルベカラズ、

第五百六十六條　所有者ノ殊ナル二箇ノ品物ヲ互ニ連合シテ一物ト爲ス時ハ之ヲ離分シテ猶各々全存シ得可シト雖ドモ其主品ノ所有者附品ノ所有者ニ其價ヲ償ヒテ其全部ヲ所有ト爲スヿヲ得可シ（民五六五、五六七、五六八、五七六、）

爰ニ二箇ノ品物相連合シテ一物ヲ爲スノ例ヲ示サンニ、甲所有ノ鈕扣ヲ以テ、乙ノ衣服ニ裝附シタリ、此時衣服ト鈕扣トノ二箇ノ品物ハ、之ヲ離分シテ各保存シ得ベキモノナリ、然レドモ其鈕扣即チ衣服ニ鈕扣ノ裝付シタル全部ハ、其之ヲ離分シ得ルト否トヲ問ハズ、主タル品ノ所主者即チ衣服ノ所有者ニ屬スルナリ、

第五百六十七條　使用、裝飾、補成ノ爲メ他物ヲ附添シタル元品ヲ以テ主品トス（民五六六、五六八、）

例ヘバ軍帽形ノ帽子ノ前庇ハ、畢竟帽子ノ裝飾且、補成ノ爲メナレバ、帽子ノ附屬品トナスガ如シ（衣服ノ裏ノ表ニ於ケルモ亦然リ）

第五百六十八條　然ドモ附品ノ價主品ノ價ヨリ大ニ貴クシテ且其附品ノ所有者之ヲ附添シタルヿヲ知ラザリシ時ハ其連合セシ主品ヲヤヽ毀損スルヿアリト雖モ附品ノ所有者之ヲ離分シテ己レニ還サシム可キノ要メヲ爲スヿヲ得可シ（民五六六、五六七、八一五、）

例ヘバ一箇ノ金剛石ヲ以テ、一箇ノ杖ノ裝飾ニ用ヰタル時、其金剛石ノ所有者ハ、杖ノ所有者タルヿヲ得ベシ、故ニ其全部ヲ所有トセント求メ、若クハ杖ヨリ其金剛石ヲ離分シテ、己レニ還スベキヿヲ求メ得ベキガ如シ、

第五百六十九條　若シ連合シテ全部ヲ爲シタル二箇ノ品物中ニ何レヲ主品ト爲シ何レヲ附品ト爲ス可キヿノ分明ナラザル時ハ價ノ貴キ物ヲ以テ主品ト看做シ又其價ノ槩ヲ均シキ時ハ形ノ大ナル物ヲ以テ其主品ト看做ス可シ（民五六六、五六七、五七三、）

本條ノ註釋ハ既ニ第五百六十五條ニ詳ナリ因テ略ス、

第五百七十條　若シ工丁及ビ其他ノ人己レニ屬セザル品物ヲ用ヰ新ナル物ヲ造リシ時ハ其品物ノ舊ニ復スルヲ得可キト否トヲ問ハズ其品物ノ所有者工價ヲ償ヒ之ヲ己レノ所有ト爲スヿヲ要ムルノ權アリ（民五七一、五七二、五七六、）

羅馬律ニ於テハ、人己レノ所有ニアラザル元品ヲ用ヰ、新ニ一物ヲ造リタル時、若シ其元品ヲ舊ニ復シ得ベキ時ハ、其元品ハ其元品ノ所有者ニ屬シ、其元品ヲ舊ニ復シ得ザル時ハ、其物ノ製造人ニ屬シタリシガ、本條ハ此區別ヲ廢シ、其元品ハ舊ニ復シ得ベキト否ヤトヲ問ハズ、概シテ其元品ノ所有者ノ所有ト定メタリ、然レヒ何人タリヒ他人ノ損失ヲ以テ己レヲ富マスベカラズトノ原則ニ據リ、製造人ニ工價ヲ償フベキヲ要ス、

第五百七十一條　然ヒ工價ノ額許多ニシテ其用ヰタル品物ノ價ヨリモ大ニ貴キ時ハ其工價ヲ以テ主ト爲シ工丁ヨリ其品物ノ所有者ニ其品物ノ價額ヲ償ヒ新造ノ品物ヲ以テ己レノ所有ト爲スノ權アリ（民五七〇、）

例ヘバ彫刻人一箇ノ立像ヲ彫刻スル爲メ、己レノ所有ニ非ザル大理石ノ一塊ヲ使用シ

タル時ハ、其彫刻人ヲ其立像ノ所有者トナスヿヲ得ベキガ如シ、

第五百七十二條　己レニ屬スル品物ト己レニ屬セサル品物トヲ併用シテ新タナル品物ヲ造リ其二箇ノ品物全ク其本質ヲ失フヿナシト雖モ離分スル時ハ必ズ之ヲ損ズ可キニ於テハ其所有者二人ニテ共ニ其新造ノ品物ヲ所有ス可シ但シ其一人ハ己レニ屬スル品物ノミニ付テノ權ヲ有シ又一人ハ己レニ屬スル品物ト其工價トニ付テノ權ヲ有ス可シ（民五七三、五七四、八一五、八一六、一六八六、一六八七、）

新ニ製造シタル物品ノ工價、其元品ノ價ヨリ許多ナル時ハ、其物品ハ共有トナサズ製造人ノ所有ニ歸スベシ、

第五百七十三條　所有者數人ニ屬スル數箇ノ品物ヲ混合シテ一箇ノ品物ヲ造リ其數箇ノ品物中ニ主品ト看做ス可キ物ナクシテ且之ヲ離分スルヲ得ベキ時ハ其數人中ニテ己レニ屬スル品物ノ混合セシヲ知ラザル者ヨリ之ヲ離分セント要ムルヿヲ得ベシ（民五七四、五七五、八一五、八一六、一六八六、一六八七、）

例ヘハ甲所有ノ葡萄酒ト乙所有ノ葡萄酒トヲ一樽ニ混入シタル時ハ、其葡萄酒ハ即チ

數人ニ屬スル數箇ノ品物ノ混合シタルナリ、

（第五百六十五條ノ註釋中ニ既ニ陳述セシ如ク、本條及ヒ次條ハ、數箇ノ物品ヲ互ニ混合セシモノヽヿヲ掲ゲタルナリ、數箇ノ物品ヲ相互ニ混合セシモノハ、二箇ノ物品ノ相接合シタルモノ、（第五百六條見合セ）及ビ他人所屬ノ物品ヲ用ヰ、新ニ一種ノ物品ヲ造リシモノ（第五百七十條見合セ）ト自ラ殊異アリ、第一混合ハ接合ノ如ク新ニ他ノ物品ヲ製造センガ爲メニ附合スルニ非ズ、其品物ノ全部ヲ混和シタルモノニシテ、金銀銅錫ヲ合シテ溶解シ、又ハ甲乙二人ノ麥ヲ混同シタル類ノ如キ是ナリ、第二混合ハ只數人ニ屬シタル物品ヲ集合シタルノミニテ、他人ノ品物ヲ用ヰ新ニ一物ヲ造リ工夫ヲ費ヤシ製作ヲ加ヘタルガ如キニ非ズ、例ヘバ己レノ金ト他人ノ銀トヲ溶解シ、一箇ノ立像ヲ鑄造シタルガ如キハ則チ他人ニ屬スル品物ヲ以テ、新ニ一物ヲ造リタルモノトシ、又其溶解シタル金銀ヲ棒金ト爲シタルトキハ、則チ混合トナスノ類ナリ）

第五百七十四條　然レトモ所有者數人中ノ一人ニ屬スル品物ノ分量及ビ價額他ノ所有者ニ屬スル品物ニ數倍シタル時ハ其品物ヲ所有スル者他ノ品物ノ所有者ニ其價額ヲ償ヒ其混合

シテ造リタル品物ヲ己レノ所有ト爲サントヿヲ得可シ（民五六七、五六八、五七三、）

一箇ノ品物ノ價、他ノ品物ノ價ヨリ寡キヿ若干ナル時ハ、其多キ品物ノ附屬ト看做サルヽナリ、

第五百七十五條　數箇ノ品物ヲ以テ新タニ造リタル物ヲ其所有者數人ニテ相共ニ所有ト爲ス時ハ其數人ノ利益ノ爲メ之ヲ競賣ス可シ（民五七二、五七三、一六八六、一六八七、）

競賣ハ數人共有ノ現物ヲ分派スヘカラザル時、其代價ヲ以テ分派スル爲メ、最モ公平ナル眞法トス（第千六百八十六條見合セ）

第五百七十六條　品物ノ所有者ニ知ラシムルヿナク他人其品物ヲ用ヰテ他種ノ品物ヲ造リシニ時其所有者ハ其新タナル品物ヲ所有セントヿヲ得可ク又ハ其舊物ト同種同形同量同尺同質ノ物ヲ取戻サントシ又ハ其價額ヲ取戻サントヿヲ得可シ（民五六六、五七〇、）

本條ノ規格ハ實ニ公平至當ト爲スベシ、主タル品物ノ所有者其品物ヲ以テ、他人ノ新ニ造リタル一種ノ物品ヲ所有セントヿヲ要ムルトキハ其他人ノ元品ノ價及工價ヲ償ハサルベカ

ラズ然ルトモ亦其物品意ニ適セザルヿアルベシ、然ルトキハ固ヨリ自己ノ過失ナキニ因リ、己レノ隨意ニ、其舊物ト同種ノ物、若クハ其同種ノ物ヲ購求スル爲メ、必用ナル價ヲ要メ得ベキヿトナスナリ、

第五百七十七條　新タニ品物ヲ製造スルニ他人ニ屬スル品物ヲ其所有者ニ知ラシメズシテ用サタル者其所有者ニ損失ノ償ヲ爲ス可キ道理アル時ハ之ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ此規則ト其他別段ノ道理アル時ハ恣ニ他人ノ品物ヲ用サタル者犯罪ノ推糺ヲ受ク可キヿト相觸ルヽヿナカル可シ

本條ニ所謂犯罪ノ推糺トハ、盜賊若クハ背信ノ者ニ對メ爲スベキ、輕重罪犯ノ推糺ヲ云、

○第三卷　入額ヲ所得ト爲スノ權使用ノ權住居ノ權（千八百四年一月三十日決定二月九日下達）

第五百四十三條ニ於テ、人ハ財產上ニ付其所有權ヲ有スルアリ、入額所得權ヲ有スルアリ、又ハ土地ノ義務ノミヲ得可キノ權ヲ有スルアリ、ト定メ前卷ニ於テ其所有權ノヿヲ說キ、此卷ニ於テ入額ヲ所得ト爲スノ權ノヿヲ說キ、次卷ニ土地ノ義務ノヿヲ說ケリ、

入額ヲ所得ト爲スノ權、使用ノ權、及ビ住居ノ權ヲ總稱シテ「シユイサンス」（第五百四十三條ニ入額ヲ所得ト爲スノ權ト譯スル者）ト云フ、

○第一章　入額ヲ所得ト爲スノ權

第五百七十八條　入額ヲ所得ト爲スノ權トハ他人ノ所有スル物件ノ性質ヲ保存シテ所有者ニ等シク其物件ノ入額ヲ得可キノ權ヲ云フ（民五四三、五四四、五七九、五八〇、）

本條ニ於テ入額ヲ所得ト爲スノ權（ユジユフリユイ）ノ字義ヲ解明スト雖モ、猶之ヲ詳說スルヿ必要トナスベシ、

第一「ユジユフリユイ」ト云フ詞ハ、羅甸語ノ「ユシユス」及ビ「アリユクチユス」ト云ヘル詞ヨリ來ル者ニシテ、一箇ノ物件ヲ使用スル權、及ビ其利益ヲ收ルノ權ヲ指スニ用サ、此二箇ノ權ヲ有スル者ヲ「ユジユフリユイチエー」ト謂ヒ、他ニ入額所得ノ權ヲ有スル者アル所ノ物件ノ主ヲ「ニユプロプリエテール」（名義ノミノ所有者）ト謂フ、

第二入額ヲ所得ト爲スノ權、之ヲ有スル者ニ就テ論ズルトキハ、全ク其人限リニシテ且一時ノ者トス、何トナレバ此權ハ之ヲ有スル者死去スレバ、直ニ消滅シテ名義ノミノ所有

權ニ合併スレバナリ、若シ此權ヲ永世相續人ニ讓與シ得ベキモノトセバ、名義ノミノ所有者ハ全ク無益ナルノミナラズ、多少出費ヲ爲スベキ權ヲ有スルノ外ナカルベシ、又入額ヲ所得ト爲スノ權ヲ、其物件上ニ就テ論ズルトキハ、所有權ノ一部分タル一箇ノ物權ナリトス、其動產若クハ不動產ヲ目的ト爲スニ從ヒ、動產ノ物權トナリ、又ハ不動產ノ物權トナルナリ、

第三入額ヲ所得ト爲スノ權ハ、他ニ所有權ヲ有スル者アル所ノ物件ニ付生ズルノ權ナリ、既ニ羅馬律ニ於テモ入額ヲ所得ト爲スノ權ハ他人ノ物ニ就テナラデハアルヿナシト謂ヘリ（チミニ、レス、スユアセルビー）一箇ノ物件ノ十全ナル所有權ヲ有スル所ノ者ハ、其物件ヲ使用シ、且其利益ヲ收ルノ權アルハ固ヨリナリ、然レトモ之ヲ以テ入額ヲ所得ト爲スノ權トハ爲サヾルナリ何トナレバ所有權ノ一部分ニアラザレバナリ

第四入額ヲ所得ト爲スノ權トハ、所有者ト等シク物件ノ入額ヲ所得ト爲スノ權ナリ、然レトモ家長ノ其家族ニ於ケルガ如ク、懇切ニ其物件ヲ使用スルヲ要ス、所有者ハ之ト殊ニ己レノ隨意ニ使用スルヲ得、且入額ヲ所得ト爲スノ權アル者ノ如ク、其管理ノ方法ヲ

他ニ具狀スルニ及バス、

第五入額ヲ所得ト爲スノ權アル者ハ、物件ノ性質即チ其物件ノ形狀所用ノ方法等ヲ保存スルノ責アリトス、故ニ牧場ヲ變シテ林ト爲シ、若クハ田園ト爲スヿヲ得ズ、

本條ノ義解ハ、之ヲ入額ヲ所得ト爲ス可キ物件中、其物件ヲ耗盡セザレバ、所用ニ供シ難キ所ノ「カシーユジユフリユイ」（第五百八十七條見合セ）ニ適用セントスルトキハ、其當ヲ得ザルガ如シ、

入額ヲ所得ト爲スノ權ハ、人ニ直接ニ所益アル所ノ者ナルニ因リ、一箇ノ人權ノ如シト雖ヒ、其物件ニ就テハ、所有者ト等シク、何レノ人ニ對シテモ、其權利ノアルヿヲ申立テ得ルニ因リ、一箇ノ物權トナルナリ、土地ノ義務ニ付テハ、一物他ノ一物ノ用トナリ、即チ一箇ノ土地他ノ一箇ノ土地ノ用トナルナリ（第六百三十七條見合セ）之ニ因テ、往昔學者ハ入額ヲ所得ト爲スノ權及ヒ使用ノ權ヲ人ノ「セルビチユド」ト稱シ、土地ノ義務ヲ物ノ「セルビチユード」ト稱シタリシガ、佛國ノ法律ニ於テハ、人ヨリ人ニ對シテノ「セルビチユード」即チ奴隸ヲ廢シタルニ因リ、入額ヲ所得ト爲スノ權及ヒ使用ノ權ヲ指シ

テ人ノ「セルビチユド」ト云ヒ、人チシテ不當ノ考ヲ來タシ、殘忍ナル奴隷法ヲ追想セシメザランコトヲ欲シタリ、

第五百七十九條　入額ヲ所得ト爲スノ權ハ法律上ニテ之ヲ定ムルコトアリ又ハ各人ノ意ニ因テ之ヲ定ムルコトアリ（民三八四、七五四、八九三、八九九、九四九、一四〇一、一五三〇、一五三三、一五四九、一五六二、二二二八、二二六二、二三六五、）

法律上ニテ定メタル入額ヲ所得ト爲スノ權二ツアリ、第一親ノ權ヲ行フ所ノ父若クハ母ハ、滿十八歳ニ至ラザル其子ノ財産ノ入額ヲ所得ト爲ス、（第三百八十四條見合セ）第二父母中ノ後ニ生存スル者ハ、其子ノ遺物中他ノ族ノ傍系ノ親ノ相續スベキ半ノ三分一ノ入額ヲ所得ト爲ス（第七百五十四條見合セ）

各人ノ意ニ因テ定メタル入額所得ノ權トハ、所有者ニ於テ賣拂若クハ交換シタル如キ有償又ハ生存中及ビ遺囑ノ贈遺ノ如ク、無償ニテ約定シタル所ノ者ヲ云、凡ソ婚姻ノ契約書ヲ以テ定メタル入額所得ノ權ハ、縱令法律上財産共通ノ場合ニ於テ共通財産ノ爲メ、又ハ夫ノ爲ナリトモ、皆各人ノ意ニ因テ定メタルモノナリトス、

不動産ノ期滿得權ハ十年若クハ二十年若クハ三十年（第二千二百六十二條第二千二百六十五條見合セ）動産ノ期滿得權ハ現ニ之ヲ有スルコトノミ（第二千二百七十九條見合セ）ニ因テモ亦定メ得ベキコトハ一般人ノ許容スル所ナリ

（千八百五十五年三月二十三日ノ法律ヲ以テ遺囑ヲ除クノ外、凡ソ不動産ニ付入額ヲ所得ト爲スノ證書ハ、之ヲ他人ニ對シテ有効ノ者ト爲スニハ、其不動産所在ノ都ノ不動産書入役所ノ簿冊ニ登記スルヲ要ス、土地ノ義務ニ付テモ亦然リト爲セリ）

第五百八十條　入額ヲ所得ト爲スノ權ハ或ハ別段ノ約定ナク或ハ期限ヲ定メ或ハ別段ノ約定ヲ以テ之ヲ定ムルコトアリ（民九〇〇、一一六八、一一六九、一一八一、一一八三、一一八五、一一八六、）

入額ヲ所得ト爲スノ權ヲ成立スル所ノ證書ニ、何レノ期限モ何レノ要件ヲモ記載スルコトナキトキハ、別段ノ約定ナク定メタル者トシ、直ニ其効ヲ生ジ、其權ヲ有スル者ノ死去ニ至テ止ム、豫定ノ期限ニ始リ豫定ノ期限ニ終ルベキトキハ、期限ヲ定メタル者トス、又其權ノ有無ハ未必ノ事件ノ來ルヤ否ヤニ關係スルトキハ、別段ナル約定ヲ以テ定メタル

者トス、

第五百八十一條　同上ノ權ハ動產及ヒ不動產ノ各種ニ付キ之ヲ定ムルヿヲ得（民五一七、五一八、五二六、五二七、五二八、五八七、五八九、

入額ヲ所得ト爲スノ權ハ、動產若クハ不動產ノ有形若クハ無形、一部若クハ全部、其物件ノ性質ヲ保存スベキ者、若クハ耗盡スベキ物件ニ付之ヲ定ムルヿヲ得、然レトモ此終リノ場合即チ耗盡スベキ物件ノヿニ付テハ、第五百八十七條ニ明文アリト雖トモ、之ヲ以テ一般ノ入額ヲ所得ト爲スノ權（ユジュフリュイ）ト爲スハ穩當ナラズ、其權ニ准ジタル者（カジーユジュフリュイ）ト爲シテ可ナリ、

○第一款　入額ヲ所得ト爲ス者ノ權

第五百八十二條　入額ヲ所得ト爲ス者ハ其物件ヨリ生ズ可キ天然ノ利益、人工ノ利益、法律上ノ利益ヲ得ルノ權アリ（民五八三、五八四、）

入額ヲ所得ト爲ス者ハ、其物件ヲ使用スルノ權アルニ因リ、其物件ヨリ生ズル果實、其他其物件ヨリ定期ニ生ズル物件ヲ得、然レトモ定期ニ生ゼサル物件ハ、果實ノ性質ナキニ

因リ、之ヲ名義ノミノ所有者ニ屬ス（地中ヨリ發見スル所ノ財寶及ヒ入額ヲ所得ト爲スノ權ヲ與ヘシ時、未ダ開採セザリシ坑區ヨリ採収セシ物件、又ハ定期ニ伐出スベキモノト爲サヾリシ大木等ヲ云）

第五百八十三條　天然ノ利益トハ土地ヨリ自然ニ生ズル利益ナリ動物ヨリ生ズル物件及ヒ增殖シタル動物モ亦天然ノ利益ナリトス

土地ノ人工ノ利益トハ土地ニ耕作ヲ爲シテ得タル所ノ利益ナリ（民五四七、五四八、五八五、五九〇、ヨリ五九四、五九八、一四〇三、）

山林ノ樹木、牧場ノ草、動物ノ毛、及ヒ動物ノ增殖シタル者ノ如キ天然ノ利益ト收納物及ヒ葡萄ノ收獲ノ如キ人工ノ利益トノ區別ハ、實際上格別ノ便益ナシ、何トナレバ此二種ノ利益ハ、皆之ヲ採集シタルニ因テ所得ト爲セバナリ（第五百八十五條見合セ）

第五百八十四條　法律上ノ利益トハ家屋ノ貸賃、貸金ノ利息、年金ノ額等ナリ

土地ノ貸賃モ亦法律上ノ利益中ニ算入ス可シ（民五八六、五八八、一一五三、一七〇九、一九〇五、一九〇九、一九八〇、二二七七、訴四〇四、）

本條ニ說ク所ノ利益ヲ法律上ノ利益ト云フ所以ハ、天然及ビ人工ノ利益ノ如ク物件ヨリ生ズルモノニアラズ、法律ヲ以テ制可シタル約定ニ原因スレバナリ、

土地ノ貸賃モ法律上ノ利益中ニ算入シタルニ因リ、入額ヲ所得ト爲スノ權アル者、土地ヲ貸シテ未ダ收納ヲ終ヘサル內ニ死去シタルトキ、其相續人ハ其入額ヲ所得ト爲スノ權ノ繼續シタル時間ノ割合ニ應ジテ、其貸賃ノ一部ヲ得ルノ權アリトス、舊慣ニ於テハ土地ノ賃貸ハ人工ノ利益中ニ算入シタリ、故ニ入額ヲ所得ト爲ス者ハ、其利益即チ其土地ノ收納物ヲ地ヨリ離分セシ時ニ會セザレハ、當然貸賃ヲ所得ト爲スノ權ナカリシナリ、

第五百八十五條　入額所得ノ權ヲ得タル時草木ノ枝根ニ附着シタル天然及ビ人工ノ利益トナル可キ物ハ其權ヲ得タル者ニ屬ス可シ又其權ノ終リシ時其枝根ニ附著シタル天然及ビ人工ノ利益トナル可キ物ハ土地ノ所有者ニ屬ス可シ但シ雙方ノ者ハ其勞動及ビ種子ニ付キ互ニ償ヲ得ント要ム可カラズ又入額所得ノ權ヲ得タル時及ビ其權ノ終リシ時其土地ノ收納物ノ一部ヲ得可キ借主アル時ハ其借主其枝根ニ附着セシ物ノ一部ヲ得可キ權ノ差支トナルヿナカル可シ（民五四八、五八三、五九五、一四〇三、一五七一、一七四三、）

草木ノ枝ニ附着シタル利益トハ、例ヘハ未ダ採摘セサル馬鈴薯ノ如キヲ云ヒ、根ニ附着シタル利益トハ、例ヘバ未ダ刈取ラザル麥ノ如キヲ云フ、入額ヲ所得ト爲ス者ハ其權ヲ得ルノ時、枝根ニ附着シタル利益ヲ採集スルノ權アリ、然レヒ之ヲ木若クハ地ヨリ離分スルニアラザレバ、其權ヲ得ルヿナシトス、又入額ヲ所得ト爲ス者其權ノ終ル時ハ、枝根ニ附着シタル利益ヲ得ルノ權ナシトス、立法者計算ノ判決シ難キ入額ヲ所得ト爲ス者ト、名義ノミノ所有者トノ計算上ニ付テ互ニ僥倖ノヿナク、公平ナラシメンヿヲ欲シ、勞動種子其他ノ費用ハ、相互ニ其償ヲ得ント要ムルヿヲ許サズ、然レヒ此規格ハ毫モ他人ノ既ニ得タル權利ヲ妨害スルヿナシ、就中其利益ヲ分配スベキノ約定ヲ以テ小作スル者ノ權利ヲ妨害スルヿナシトス、

入額ヲ所得ト爲ス者、慣習ニ反シテ未ダ成熟セザル果物ヲ採摘シ、其成熟ノ期ニ至ラザル前ニ死去セシトキハ、所有者ニ損失ノ賠償ヲ出サヾルベカラズ、若又收納物ノ賣拂ヒヲ收納セザル前ニ死去スルトキハ、其賣拂ハ取消トナリ、其收納物ハ所有者ニ屬ス、

第五百八十六條　法律上ノ利益ハ日毎ニ之ヲ得ルモノナリト看做シ入額ヲ所得ト爲ス者其

權ヲ有スル時間ニ准シ其利益ヲ得可シ○此規則ハ家屋ノ貸賃土地ノ貸賃及ビ其他法律上ノ利益ニ通シ用ヰル可シ(民五八四、五八八、一一五三、一七〇九、一九〇五、一九〇九、一九八〇、)

現ニ採收シタルニ因テ得ル所ノ天然若クハ人工ノ利益ト雖ヒ、法律上ノ利益ハ、日割ヲ以テ之ヲ得ベシ、然レ𪜈入額ヲ所得ト爲ス者ノ爲ニ、之ヲ得ベキ權ヲ定ムルモノニシテ、必シモ日毎ニ之ヲ得ト云フニハアラズ、約定ノ期限アルモノハ、其期限ニ至テ之ヲ要ムルヿトス、若シ此期限前ニ入額ヲ所得ト爲ス者死去スル𪜈ハ、其期限ニ至リ其相續人借主若クハ小作人ニ對シテ、入額ヲ所得ト爲スノ權ノ繼續シタル日數ニ應シテ、法律上ノ利益ノ一部ヲ要ムルノ權アリ、

第五百八十七條　入額ヲ所得ト爲ス可キ物件中ニ金銀、穀物、飲料ノ如ク之ヲ用ヰル時ハ必ス耗盡ス可キ物アル時ハ其權ヲ得タル者之ヲ用ヰルヿヲ得ベシト雖𪜈、其權ノ終リニ至リテ其耗盡シタル物ト同量同品同位ノ物又ハ其評價シタル價ヲ償還スベシ(民五八二、六一七、六一八、一五三二、一八九二、一九〇二、一九〇三、)

耗費セザレバ使用スルヿ能ハザル物(クワオ、イン、アビエスユ、コンシスクント)ヲ「ホンヂーブル」ノ物ト云フ「ホンヂーブル」ノ物トハ雙方ノ分明ナル意思、若クハ思料スベキ意思ニ從ヒ、此物ト彼物トヲ代用シ得ベキ物ヲ云フ、(クワリユム、アルテラ、アルテリユス、ウイス、ホンジチユル)本條ノ入額所得權ヲ、第五百七十八條ニ義解シタル入額所得權ト同視スルハ穩當ナラズ、宜シク「カジー、ユジユフリユイ」ト稱スベシ、「カジーユジユフリユイ」ノ權アル者ハ、使用ノ權アルノミナラズ、隨意ニ其物件ヲ處分スルノ權アリ、然ラザレバ其入額ヲ所得ト爲スノ權モ終ニ徒權ニ屬スベシ、又其者ノ義務ハ入額所得權ノ終リタル𪜈、最初請取タル物件ノ有形ニテ返還スベシト云ニアラズ、其請取タル𪜈ノ價ト現價ト如何樣ノ差違アリ𪜈、必ズ同品同量同位ノ物ヲ返還スルニアリ、然レ𪜈初メ事物ヲ評價シタル𪜈ハ其評價ノ高ヲ償還スルニアリトス、

第五百八十八條　畢生間ノ年金ヲ得可キ元資ニ付キ入額所得ノ權ヲ得タル者ハ其權ノ終リニ至ル迄其年金ヲ全ク己レノ所得トス可シ(民五八二、五八四、一五六八、一九六八、一九六九、)

畢生間ノ年金ハ、其之ヲ請取ルベキ者ノ死去ニ因テ消滅ス（本文年金ヲ得ベキ元資ト譯スル者ハ、原詞「ラント」ト云ヒ、通常年金即チ「アレラージュ」ト云フ詞ト同ジク用ヰ來リシニ因リ）「ラント」即チ年金ニ付入額ヲ所得ト爲ス者ハ、年金ノ息銀ノミヲ得ベキヤ又ハ入額ヲ所得ト爲ス權ノアル間ハ、期限ノ來リシ年金ヲ得ベキヤノ問題ニ付頗ル紜議アリシガ、本條ヲ以テ明ニ之ヲ裁斷シタリ、故ニ入額所得者ハ權ノ終リニ至テ猶ホ年金ヲ得ルノ權ノ存在スルトキ、此權ヲ其所有者ニ返還スベキノミニテ、若シ年金ヲ得ルノ權入額ヲ所得ト爲スノ權ヨリ先ニ消盡シタルトキハ、何レモ返還スベキ者ナシ、本條ノ規格ハ入額所得ノ權ヲ人ニ讓與シタルトキニモ等シク適用スベキナリ、

第五百八十九條　入額ヲ所得ト爲ス可キ物件中麻布類及ヒ「ミユーブル」、「ミユーブラン」ノ如ク直ニ耗盡スルヿナシト雖ヒ使用スルニ因リ漸ニ損敗ス可キ物アル時ハ其權ヲ得タル者其品物ヲ其當然ノ用法ニ用ヰルヿヲ得可ク且其權ノ終リニ至リ其時ノ儘ヲ以テ之ヲ還スヿヲ得可シ但シ惡意又ハ過失ニ因リ之ヲ損敗セシメタル時ハ格別ナリトス（民四五三、五九五、六三一、九五〇、一三八二、一五六六、）

使用スルニ因リ漸々損敗スベキ物件ニ付入額ヲ所得ト爲ス者ハ、殆ド所有者ト同一ノ權利ヲ有シ、其物件天災ニ因テ損失シタルヿヲ證スルハキハ、何レノ者ヲモ償還スルニ及バズ、且其物件ハ其時ノ儘ヲ以テ還スベキヿヲ要スル故、初メ請取タル所ノ新製全備、ノ代リニ損敗シタル麻布、十全ナル「ミユーブル」ミユーブラン」ノ代ニ破壞ノ殘物ヲ還スヿアルベシ、然レヒ詐僞若クハ過失ニ因テ損敗シタルトキハ、其責ニ任ゼザルベカラズ若又不足ノ物品天災ニ因テ消失シタル證ナキニ於テハ、之ヲ賣却若クハ讓與シタル物ト思料シ、以テ其賠償ヲ爲サシム、

第五百九十條　土地ノ利益ヲ所得ト爲ス可キ物件中ニ時々伐出ス可キ小樹アル時ハ其入額ヲ得ベキ者其所有者ノ定メタル方法及ビ習慣ニ從ヒ其伐出ス可キ樹木ノ順序及ビ分量ヲ定ム可シ但シ入額ヲ得可キ者其權ヲ有スル時間時々伐出ス可キ小樹若クハ大木若クハ時々伐出シノ時大木ト爲スタメ殘シ置キタル小樹ヲ其權ノ終ル迄ニ於テ伐出スヿナキ時トハ雖ヒ其者及ビ其遺物相續人ニ其所有者ヨリ別段償還ヲ爲スニ及バズ

土地ノ入額ヲ得可キ者培樹場ヲ損傷セズシテ其場中ヨリ移搬スルヲ得可キ小樹ヲ己レニ

得ントスルニハ必ズ其移搬シタル小樹ニ換ヘテ他樹ヲ植ルニ付キ其地ノ習慣ニ從フ可シ（民五九一、ヨリ五九四、一四〇三、一五七一、）

小樹大木ノ義解ハ既ニ第五百二十一條ニ詳悉セリ、所有者ノ定メタル方法トハ、伐出シ順序ノ規則ナリ、例ヘバ面積三十「エクタール」ノ森林アリ、其伐出ノ期ヲ十五回トシ、毎期二「エクタール」ノ樹木ヲ伐出スベシト定ム、故ニ二年毎ニ三十年ヲ經タル樹木ヲ伐出スベキモノトス、而シテ入額ヲ所得ト爲スノ權アル者、此順序ニ從ハズシテ伐出ヲ爲ストキハ、入額ヲ所得ト爲ス權ノ終リニ至リ、不規則ナル伐出ショリ生ズル損害ヲ所有者ニ賠償スベキモノトス、然レドモ入額ヲ所得ト爲スノ權アル者ニテ、其權ノアル間ニ伐出シヲ爲サヾルニ因リ受ケタル損害ハ、決メ所有者ニ向テ其賠償ヲ要求スルヿヲ得ズ、但シ財産共通法ニ因リ夫婦及共通ノ財産ヲ管理スル所ノ夫ニ於テ自己若クハ婦ノ固有財産タル所ノ森林ノ伐出シヲ爲スヿヲ怠リシトキハ、其森林ノ所有者ヨリ、夫婦固有財産ノ入額ヲ所得ト爲ス權アル、共通財産ニ損害ノ償ヲ出サヾルベカラス、（第千四百三條見合）蓋シ夫婦固有ノ財産ト共通財産ノ三管中ノ一管ノ損害ヲ以テ他ノ一管ヲ富マ

スベキヿハ、總テ此三管ヲ管理スル所ノ夫ノ存意ニノミ在ラシムルヿヲ得ザレバナリ、

第五百九十一條　又土地ノ所有者期限ヲ定メ伐出サントシタル大木ハ定リシ地ノ一部ニ生ジタルモノヲ伐ル可キト其地ノ全部ニ於テ樹木ノ區別ヲ爲サズ其定數ヲ伐出ス可キトヲ問ハズ土地ノ入額ヲ得可キ者其所有者ノ定メタル期限ト其習慣トニ從ヒテ常ニ之ヲ己レノ所得ト爲スヿヲ得可シ（民五九〇、五九二、五九三、）

大木ハ規則ニ從テ伐出スベキモノト爲シタル時ニ非ザレバ、之ヲ果實即チ土地ノ入額ト看做スヿナシ、其規則ハ或ハ預定ノ期限ニ、預メ定リタル地面ノ一部分中ノ一切ノ樹木ヲ伐出スベシト爲シタルモノト、或ハ毎年森林ノ全部中ヨリ、定數ノ樹木ヲ伐出スベシト爲シタルモノアリテ、森林ノ種類ニ因テ異同アリ、

第五百九十二條　其他ノ大木ハ土地ノ入額ヲ得ル者之ヲ己レノ所得ト爲ス可カラズ唯其者ノ擔當ス可キ修復ノ爲メ意外ノ事ニ因テ倒仆シ或ハ摧折シタル大木ヲ用ヰルヿヲ得可シ但シ修復ノ爲メ必要ナル時ハ故サラニ其樹木ヲ伐倒スヿヲモ爲シ得可シト雖モ其者ハ土地ノ所有者ニ其必要ナルノ證ヲ立テザルヲ得ズ（民五九〇、五九一、五九四、）

規則ニ從テ伐出スベキモノト爲サヾル大木ハ、土地ノ果實即チ入額ト看做サス、土地全体ノ一部ト看做スナリ、故ニ入額ヲ所得ト爲ス者之ヲ伐出シテ己レノ所得ト爲スノ權ナシ、入額ヲ所得ト爲スノ權アル物件中ノ屋舍補繕ノ爲メニハ、意外ノ事ニ因テ倒偃シ若クハ摧折シタル樹木ヲ取用スルヿヲ得ベキノミナラズ、必用ノ樹木ヲ斬伐スルヿヲ得、蓋シ土地ノ所有者ニ於テモ、必ズ斯ノ如キ處分ヲ爲スベシト思想スレバナリ、但シ入額ヲ所得ト爲ス者ニ於テ其枝葉等ヲ所得ト爲スヲ得ズ、此等ハ總テ土地ノ所有者ニ屬ス

第百五百九十三條　土地ノ入額ヲ所得ト爲ス者ハ森林中ニテ葡萄架ニ用サル可キ木ヲ取用シ及ビ樹木ヨリ歲々即チ定期ニ生スル物ヲ採収スルヿヲ得但シ此等ノ諸件ヲ爲スニ付キテハ其地ノ習慣ト所有者ノ慣例トニ循フ可シ（民五九〇、）

森林ノ入額ヲ所得ト爲ス者ハ、其入額ヲ所得ト爲ス物件中ノ葡萄架ノ用材ヲ、其森林中ヨリ取用スルヿヲ得、然レ𪜈其森林ノ樹木、例ヘバ三年毎ニ葡萄架ノ爲メ伐出スベキモノトシタル時ハ、入額ヲ所得ト爲ス者ニ於テ其伐出ヲ爲シ、之ヲ賣拂フヿノ權利アルベ

シ、樹木ヨリ定期ニ生ズル物トハ、木ノ實及毎年伐除スベキ下タ枝等ナリ、

第五百九十四條　菓樹ノ枯槁シ又ハ意外ノ事ニ因テ倒偃シ及ビ摧折シタル時ハ土地ノ入額ヲ得ル者之ニ代ヘテ同種ノ菓樹ヲ植ルニ於テハ其枯槁又ハ倒折セシ菓樹ヲ己レノ所有トト爲スヿヲ得可シ（民五九二、六〇一、）

入額ヲ所得ト爲ス者ハ、意外ノ事ニ因テ倒偃若クハ摧折シテ乾枯スル所ノ菓樹ヲ所得ト爲スト雖𪜈、之ニ代ヘテ同種ノ菓樹ヲ植付ルヿヲ要ス、

第五百九十五條　入額ヲ所得ト爲ス者ハ其權ヲ自カラ保有シ又ハ償ヲ得テ他人ニ貸與ヘ又ハ其權ヲ賣拂ヒ又ハ償ヲ得ズシテ他人ニ讓與フルヿヲ得可シ○若シ其權ヲ償ヲ得テ他人ニ貸與フル時ハ其約定ヲ改メ結ブ可キ期限及ビ約定ノ存續ス可キ時間ニ付キ第三篇第五卷（婚姻ノ契約及ビ夫婦雙方ノ權）ニ記スル如ク夫其婦ノ財產ヲ取扱フヿニ付キ定メタル規則ニ循フ可シ（民五八四、六三四、一四二九、一四三〇、一七一一、）

入額ヲ所得ト爲ス者、有償（チートルヲ子ルー、チートルダラナユイ）若クハ無償ニシテ其權ヲ他人ニ讓渡スヿヲ得ト云ト雖𪜈、實ハ其權ノ行用即チ入額ヲ採収スルノ權力ヲ讓渡スノミニシテ、入額所得權ヲ全ク讓渡

スニ非ズ、何トナレバ入額所得ノ權ハ、必ズ其人限リノモノニシテ、之ヲ他人ニ讓與スベカラザルモノナレバナリ、故ニ入額所得權ハ、假令之ヲ他人ニ讓與シタルモ、其讓與ヲ受ケタル者、其讓與ヲ爲シタル本人ノ名義ヲ以テスルニ非ザレバ、之ヲ保續スベカラザルモノニシテ、本人ノ死去シテ入額所得ノ權消滅スルトキハ、讓與ヲ受タル者ノ權モ亦從テ消滅ス、入額所得者ハ其權ヲ有スル所ノ財產ヲ、九年ノ期限間人ニ賃貸スルヿヲ得、(第千四百二十九條見合セ)又土地ト家屋トニ因テ、當時約定期限ニ至ラザル二年前若クハ三年前ニ、更ニ延期ノ約定ヲ取結ブヿヲ得、(第千四百三十條見合セ)蓋シ立法者斯ノ如クシテ以テ一般ノ資益ノ爲メ、入額所得者ノ權利ト、名義ノミノ所有者ノ權利トヲ調和セントト欲シタリ、

第五百九十六條　土地ノ入額ヲ所得ト爲ス者ハ土地ノ漸積ニ因リ增殖シタル部分ノ入額ヲモ亦所得ト爲ス可シ(民五五六、五五七、五六三、)

土地ノ漸積ニ因リ生ジタル增殖ノ事ハ、第五百六十條及ヒ第五百六十三條ニ詳ナリ、

第五百九十七條　土地ノ入額ヲ所得ト爲ス者ハ人ニ土地ノ義務ヲ行ハシム可キノ權及ビ其

他所有者ノ得可キ權ノ利益ヲ得可シ但シ其權ノ利益ヲ得ルノ方法モ亦所有者ニ等シトス(民五七八、五九八、六一四、六三七、六三八、七〇六、)

入額ヲ所得ト爲ス者ハ、土地ノ義務ヲ行ハシムベキノ權利アルベキノミナラズ、之ヲ行ハシメザルニ因リ、其義務ヲシテ期滿得免ニ至ラシメザルガ爲メ、之ヲ行フベキノ義務アリトス、又入額ヲ所得ト爲ス者ハ、其權ノアル土地內ニ於テ獸獵及ビ漁獵ヲ爲スノ權アリ、

(小作人ハ其小作スル所ノ土地、例ヘバ兎場ノ如ク獸獵ヲ以テ入額所得ヲ目的ト爲シタル時ノ外、尋常ノ土地ニ付テハ、其所有者ヨリ特許ヲ受クルニアラザレバ、獸獵若クハ漁獵ノ權利ナク、其權利ハ固ヨリ所有者ノ保有スル所トス、)

第五百九十八條　又土地ノ入額ヲ所得ト爲ス者ハ其權ヲ得タル時穿開シタル金鑛及ビ石礦ヲ所有者ニ等シク己レノ益ト爲スヿヲ得可シ然レモ官許ヲ得ルニ非ザレバ穿開ス可カラザル金鑛及ビ石礦ニ付テハ皇帝ノ允許ヲ得タル後ニ非ザレバ之ヲ己レノ益ト爲スヿヲ得ズ其者權ヲ得タル時尙ホ未ダ穿開セザル金鑛及ビ石礦又ハ未ダ堀出サヾル泥炭又ハ其權

ヲ有スル時間ニ見出ス可キ財貨ハ、己レノ益ト爲スノ權ナシ

入額所得ノ權アル者ハ、石礦區及ビ泥炭區ノ入額ヲ所得ト爲スノ權アリヤト云フニ、其權ノ生ジタルトキ既ニ石礦區及ビ泥炭區ノ穿開シタルトキハ、其入額ヲ所得ト爲スベシト雖モ、若シ其權ノ生ジタルヨリ後ニ其穿開ヲ爲シタルトキハ、其入額ヲ所得ト爲スヲ得ズ、本條ニ依レバ金屬ノ鑛區ニ就テモ、同一ノ區別ヲ爲シタリト雖モ、千八百十年四月二十七日ノ法律頒布以來ハ、此區別ニ拘ルヿナシ、蓋シ此法ニ依レバ、金屬ノ鑛區ノ穿開ハ、皇帝ヨリ其地ノ所有者、若クハ所有者ニアラザル者ニ之ヲ特許シ、其鑛區ハ土地ニ屬セザル一種ノ不動產トシ、之ヲ書入質ト爲スヿヲ得ベキモノトス、故ニ土地ノ入額所得ノ權ヲ得タリトモ、之ニ因テ直ニ採鑛ヲ爲シ始メタル鑛區ノ產物ヲ得ルノ權ナシ、然レモ土地ノ入額所得者ハ、鑛區穿開ノ特許ヲ得シ者ヨリ、土地ノ所有者ニ爲ス所ノ賠償ヲ得ルノ權アリ、

土地ヨリ發見スル所ノ財貨ハ、財產ノ果實ニアラズ、蓋シ果實トハ物ヨリ生ジ且再ビ生ズル所ノ定理アルモノナリ（フリユチユス、エスト、キサードキサード、エサス、レー、ナシーエレナシー、リレー）故ニ入額所得者直ニ其財貨ヲ得ルノ權ナシ、唯ダ其發見人タルヲ以テ其財貨ノ半ヲ得ルノ權アルノミ（第七百十六條見合セ）

第五百九十九條　所有者ハ自己ノ所爲ニ因リ又ハ其他如何ナル方法ヲ用ヰルヲ問ハズ入額ヲ得可キ者ノ權利ヲ害ス可カラズ

又入額ヲ得可キ者ハ其權ヲ有スル時間物件ヲ良好ニ爲シ其價增加シタリト雖モ其權ノ終リシ時其償ヲ求ム可カラズ（アメリオラーション）

然レモ入額ヲ得可キ者及ビ其遺物相續人ハ其備ヘ置キタル、鏡、壽額及ビ其他ノ裝飾物ヲ移轉スルヿヲ得可シ但シ此諸品ヲ備ヘ置キタル場所ハ之ヲ其以前ノ形狀ニ復ス可シ（民五五五、六〇〇、六〇七、七〇一、七〇二、一三八三、一二三六、）

名義ノミノ所有者ハ、財產ヲ人ニ賃貸スル者ノ如ク、必シモ物件ヲ使用シ、入額ヲ所得ト爲サシムルノ方法ヲ與フルヲ要セズ、唯ダ入額所得者ニ於テ其物件ヲ使用シ入額ヲ所得ト爲スヿノ妨害ヲ爲サヾヲ要ス、若シ何レス方法ヲ以テナリモ、其妨害ヲ爲ストキハ、自己ノ義務ヲ侵ス者トシ、損害補償ノ言渡ヲ受クルヿアルベシ、

本條ノ第二項ニ入額所得者、其入額ヲ所得ト爲ス物件ヲ良好ニ爲シ、其價ヲ增加シタリト雖ヒ、其權ノ終リシ時、所有者ニ向テ其價ヲ求ム可カラズト云フヨリ、入額所得者諸建築ヲ爲シタルモ、亦物件ヲ良好ニ爲シタルモノト爲スベキヤト云フニ、羅馬法及ビ佛國ノ舊法ニ於テハ、入額所得者ト名義ノミノ所有者トノ間ニ生ズベキ、多クノ爭論ヲ預防スルノ目的ヲ以テ之ヲ然リトセリ、本條モ亦此法ニ依ルモノヽ如シ、

己レノ爲シタル建築ノ爲メ、何レノ價ヲモ求メ得ザル入額所得者ハ、故意ヲ以テ人ノ財產ヲ占有シタル者ヨリモ、稍ヤ苛酷ニ取扱ハル（第五百五十五條見合セ）何トナレバ入額所得者ハ、名義ノミノ所有者ノ名代人ニモアラズ、又事務ノ代理人ニモアラズ、其權ノ終リシトキハ、其爲シタル建築ヲ保有スベカラザルヿヲ知リ、全ク自己ノ使用ノタメ築造シ、且占有者ノ如ク怠慢ナル所有者ト利益ヲ爭フベキヿナケレバナリ、

入額所得者ハ、其備ヘ付タル品物及ビ裝飾物ヲ移轉スルヿヲ得、蓋シ入額所得權ハ永久ノモノナラザルニ因リ、此等ノ物件モ永久ノ爲メ備ヘ付タルモノト看做スベカラザレバナリ、

○第二款　入額ヲ所得ト爲ス者ノ義務

第六百條　入額ヲ所得ト爲ス者ハ物件ヲ其景狀ノ儘ニテ受取ル可シ然レトモ其所有者ノ面前又ハ其面前ニ非ズト雖トモ法律ニ循ヒ其所有者ヲ呼出シタル後動產ノ目錄及ビ不動產ノ摸樣書ヲ記シタル後ニアラザレバ其入額ヲ所得ト爲スヿヲ得ズ（民六二六、一四〇一五、一四四二、一五〇四、一七二〇、一七三一、訴九四二、九四三、）

入額所得權ノ賣渡讓與若クハ贈遺ヲ受ケシ者ハ、即チ所有權ノ一部ヲ得、其入額ヲ所得ト爲ス物件ヲ現狀ノ儘ニテ請取ベキモノトス、但シ借主ト違ヒ（第千七百二十條見合）入額所得者ハ、其物件ノ所有者ニ其物件ヲ修理シ、完備セル上ニテ請取ベシト要ムルヿヲ得ズ、其權利ヲ行フガ爲メ、必要若クハ有益トナルベキ費用及ビ修理ハ、自ラ之ヲ爲サヾルヲ得ズ、又入額所得者ハ其權ノ終リニ至テ、其物件ヲ返還スベキヲ要スルニ因リ、其權ヲ行ヒ始メザル前、名義ノミノ所有者ノ面前ニ於テ、動產ノ目錄及ビ不動產ノ摸樣書ヲ記成スルヲ要ス、若シ之ヲ記セズシテ入額ヲ所得ト爲シタルトキハ、不動產ハ修理完備ナリシモノト看做スベシ、且又所有者ハ證憑證人等ヲ以テ某ノ動產ノ存在セシヿヲ

證シ得ベシ、然レトモ目錄及ビ摸樣書ヲ記セズシテ入額ヲ所得ト爲ス者モ、其入額ヲ得ルノ權利ヲ失フヿナシトス、不動產ノ摸樣書及ビ動產目錄ハ、入額ヲ所得ト爲ス者ノ費用ヲ以テ記成ス、然レトモ入額ヲ所得ト爲ス權ヲ得ルノ證書中ニ、入額所得者ニ於テ此費用ヲ擔當スベカラザル旨ヲ記シタルトキハ、名義ノミノ所有者ニテ其費用ヲ擔當スベシ、又其證書中ニ假令動產目錄モ不動產ノ摸樣書モ記スルニ及バザル旨ヲ記載スルヿアリトモ、之ヲ記セザルベカラズ、而シテ其費用ハ名義ノミノ所有者ニテ擔當スベシ、

第六百一條　入額ヲ所得ト爲ス者ハ其權ヲ得ルノ證書ニ因リ別段所有者ノ許シヲ得タルニ非ザレバ其物件ヲ毀損セザルノ保證ヲ立ツ可シ然レトモ父母法律ニ循ヒ其子ノ財產ノ入額ヲ所得ト爲ス時又ハ物件ノ所有者後ニ其入額ヲ得可キノ約束ヲ以テ之ヲ賣リ又ハ贈リタル時ハ保證ヲ立ツルニ及バズ（民三八四、六〇二、六〇三、六二六、九四九、一五五〇、二〇一八、二〇一九、二〇四〇、二〇四一、訴五一七、五一八、）

保證（カウシヨウシ）ナル詞ハ、其狹キ意味ニ於テハ、償還ノ力アル一箇ノ他人ヲ契約中ニ連加スルヿヲ指スニ用ヰ、其廣キ意味ニ於テハ、凡ソ保安ノ抵當ト爲スベキ物件ヲ包含

ス、

故ニ保證人ヲ得ザル入額所得者ハ、動產ヲ抵當トシ不動產ヲ書入トシ、若クハ十分ノ金額ヲ預ケテ、以テ保證人ニ代フルヿヲ得、保證ヲ立ルノ義務ハ、動產ノ目錄ヲ記シ、不動產ノ摸樣書ヲ作ルベキ義務ノ如ク、世治上ニ於テ必要トセズ、故ニ入額ヲ所得ト爲スノ權ヲ定ムルノ證書ヲ以テ之ヲ免除スルヿヲ許ス、

又立法者自ラ左ノ者ハ保證ヲ立ルニ及バザルヿトセリ、父母中ニテ法律上幼年ナル子ノ財產ノ入額ヲ所得ト爲ス所ノ者、蓋シ父母ノ其子ニ對シテ愛情ノ切ナル、善良ナル財產管理ノ保證ト思考スレバナリ、但シ父母中ノ後ニ生存シ其子ノ後見ヲ爲ス所ノ者ノ財產ハ、法律上書入質トス、第二名義ノミノ所有權ヲ賣拂ヒシ者、若クハ贈與セシ者、蓋シ別段ノ契約ナキニ於テハ保證ヲ立ルニ及バスト思慮セシモノト看做セバナリ、然レトモ入額所得ノ權ヲ買受ケシ者及ビ贈與ヲ受ケシ者ハ、通規ニ從ヒ保證ヲ立ルヲ要スベキモノトス、

第六百二條　入額ヲ所得ト爲ス者其保證ヲ立ルヿ能ハザル時ハ其不動產ヲ償ヲ得テ他人ニ

貸與ヘ若クハ他人ニ附托シ又ハ其金高ハ息銀ヲ得可キ爲メ之ヲ使用シ又其商品ハ之ヲ賣拂ヒ其賣拂ニ因リ得タル所ノ金高モ亦息銀ヲ得可キ爲メ使用ス可シ

此等ノ金高ノ利息及ビ不動產ノ貸賃ハ入額ヲ所得ト爲ス者ニ屬ス可シ（民五八五、五八六、一七〇九、一九〇五、一九〇六、一九五五、一九五六、二〇四一、訴六一七、六一八、九四五、九四六、）

本條ハ情義ヲ酌量シ、信憑ナク（クレジット）且無力ナル入額所得者ノ條利ト、名義ノミノ所有者ノ權利トヲ適宜ニ調和シタルモノナリ、蓋シ入額所得者ハ其入額ヲ得ルノ權ヲ失フヿナク、又名義ノミノ所有者モ、入額ヲ所得ト爲ス者ノ無力ナルニ因テ、其權利ヲ失ハシムルヿナカラシメタルナリ、不動產ヲ他人ニ附托シタルトキハ、其附托ヲ受ケ其不動產ヲ管理スル所ノ者ハ給料ヲ受クベシ、而シテ此給料ハ其不動產ノ入額中ヨリ支給スベクシテ、到底入額ヲ所得ト爲ス者ノ擔當ニ歸ス、

第六百三條　入額ヲ所得ト爲ス者其保證ヲ立ルヿ能ハザル時ハ其所有者動產中ニテ使用スルニ因リ損敗ス可キ物件ヲ賣拂ヒ其賣拂ニ因リ得タル所ノ金高ヲ商品ノ代金ニ等ク息銀

ヲ得可キ爲メ使用スルヿヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ入額ヲ得可キ者其權ヲ有スル時間其金高ノ息銀ヲ得ベシ○然レモ入額ヲ得可キ者自カラ誓ヲ爲シテ證ヲ立テ己レノ用サルニ必要ナル動產ノ一部ヲ殘シ置ク可キヿヲ求ムル時ハ裁判官其情狀ニヨリ之ヲ允許スルヿヲ得可シ但シ入額ヲ得可キ者ハ其權ノ終リニ至リ其物件ヲ還ス可シ（民六〇二、）

入額ヲ所得ト爲ス者ニテ保證ヲ立ルヿ能ハザルトキハ、唯ニ高品（第六百二條見合）ノミナラズ、亞麻布、衣服、家什ノ如キ使用スルニ因リ、損敗スベキ動產ヲモ亦賣拂ヒヲ得、然レモ入額ヲ所得ト爲ス者其權ノ終ニ至リ返還スベキノ誓ヲ述ベ、自己ノ使用ノ爲メ必要ナル動產ノ一部ヲ殘シ置クベキヿヲ請求シ得（入額ヲ所得ト爲ス者保證ヲ立ルヿ能ハザルトキ、所有者ニテ賣拂ハンヿヲ要メ得ベキモノハ、唯ニ使用ニ因テ損敗スベキ物件ノミナラズ、凡ソ他ノ物件ト雖モ入額ヲ所得ト爲ス者ニテ、之ヲ典賣隱匿スルノ恐レナキヲ保チ難キニ因リ、之ヲ賣拂ヒ若クハ入額ヲ所得ト爲ス物件中ヨリ除去シテ他人ニ附托センヿヲ要メ得ベシ、例ヘバ入額ヲ所得ト爲ス物件中、寶石畫像其他ノ物件ニテ所有者ノ大ニ貴重スル所ノモノアルトキハ、固ヨリ强テ之ヲ賣拂ハシムベキヿヲ得ズ、然

レハ亦保證ナキニ強テ之ヲ入額ヲ所得ト爲ス者ノ手ニ殘シ置カシムルヿヲ得ズ、故ニ相當ノ保證ナキトキハ此等ノ物件ハ、入額ヲ所得ト爲ス物件中ヨリ除去スルヲ得ベク、又之ニ因テ入額ヲ所得ト爲ス者ニ損害ヲ被ラシムルヿナカルベシ、何トナレバ此等ノ物件ハ奢侈物ニシテ、之ヨリ利益ヲ得ベカラザレバナリ、然レトモ若シ保證アリテ之ヲ人ニ賃貸等ヲ爲シ其利益ヲ得ベキヿアルトキハ、所有者ニテ其賃貸ヲ爲スヿヲ拒ミ得ズ、又其得ル所ノ貸料ハ入額所得者ニ屬スベシ）

第六百四條　入額ヲ所得ト爲ス者ハ其保證ヲ立ツルヿヲ遲延スルト雖トモ其入額ヲ得可キノ權ヲ得タルヨリ以來得可キ所ノ利金ヲ失フヿナシ（民一〇一四、）

第千十四條ニ依レバ、遺囑者ノ財產中ニテ別段指定メタル品物ノミノ贈遺ヲ受ケシ者ハ、其品物ノ引渡ヲ求メタル日ヨリナラデハ、其贈遺トシテ受ケタル品物ノ利益ヲ得ルノ權ナシ、然レトモ學者多クハ本條ニ據テ、右ノ規則ハ入額ヲ所得ト爲ス權ノ贈遺ヲ受ケシ者ニ適行スベカラズトセリ、蓋シ入額所得ノ權ハ他人ニ讓與スベカラズ、且其人限リノモノタルニ因テナリ、故ニ入額ヲ所得ト爲ス權ノ贈遺ヲ受ケシ者ハ、其權ノ生シタル

日ヨリ其贈遺トシテ受ケタル物件ノ入額ヲ得ルノ權利アリ、

第六百五條　家屋ノ入額ヲ所得ト爲ス者ハ其小補理（ティレ）ノミヲ爲ス可シ」修復ハ所有者之ヲ爲ス可シ但シ入額ヲ得ル者其權ヲ得タル後必要ナル小補理ヲ爲スニ怠リシニ因リ修復ヲ爲ス可キニ至リシ時ハ入額ヲ得可キ者其修復ヲ爲ス可シ（民六〇六、六〇七、六〇八、六一八、六三五、一四〇九、一七五四、一七五五、）

小補理ハ入額ヲ以テ擔當スベキモノトス、故ニ入額所得者其權ノ存在中ハ之ヲ爲スヲ要ス、然レトモ其權ノ生シタルトキノ景狀ノ儘ニテ物件ヲ受取ルベキニ因リ、（第六百條見合）其以前既ニ破損シタル物件ヲ補理シ、其物件ヲシテ更ニ良好ナラシムルヲ要セズ、時々要スル所ノ修復ハ其入額ヲ所得ト爲ス者ノ過誤ニ因テ生ジタル修覆ノ外ハ、皆名義ノミノ所有者ノ擔當トス、然レトモ必シモ此修覆ヲ爲スヲ要セズ、之ヲ爲スハ自己ノ隨意トス、何トナレバ名義ノミノ所有者ノ義務ハ、入額所得者ニ其入額ヲ得セシムベキノ方法ヲ與フルニアラズ、唯タ其入額ヲ得ベキヿニ妨害ヲ爲サヾルニアリトスレバナリ、名義ノミノ所有者此修覆ヲ爲シタルトキハ、入額所得者ニ向テ之カ爲メ費用セシ金額ノ

利息ヲ要求スルヿヲ得、入額所得者此修覆ヲ爲シタル片ハ、其權ノ終リニ至リ名義ノミノ所有者ニ向テ、此修覆ヲ爲セシニ因テ增加シタル價値ノ償還ヲ要求シ得、故ニ入額所得者ハ修覆ヲ爲スノ前豫メ其不動産ノ摸樣書ヲ作リ、修覆ノ必要ナルヿ及ビ其修覆費ノ概算ヲ確證スルヿノ利益アルベシ(千八百六十五年二月九日「ツールーズ」上等審院ノ判決ノ旨趣ニ據ル、(其文畧之)

第六百六條　修復トハ屋壁及ビ天井ヲ修理シ梁樣及ビ屋蓋ノ全部ヲ改造スル事並ニ壕堤、牆壁、屋内ノ壁ノ全部ヲ改造スル事ヲ云フ其他ノ修理ハ皆小補理ナリトス(民六〇五、)

家屋ヲ支持スル壁、即チ家屋ノ礎上ヨリ屋蓋ノ下ニ至リ、屋蓋及ビ煙突ヲ支持スル所ノ屋壁及ビ天井ノ修理ハ、假令其一部ノミノ補理ト雖ヒ修復トス、梁樣屋蓋壕堤屋内ノ壁及ビ牆壁ニ至リテハ其全部ヲ改造スル片ナラデハ修復トナサズ、

第六百七條　歳月ヲ經タルニ因リ自カラ崩潰シタル建造物及ビ意外ノ事ニ因リ損敗シタル建造物ハ其所有者及ビ其入額ヲ得可キ者共ニ之ヲ改造スルニ及バズ(民五九九、六〇〇、六一七、六二三、六二四、一三〇二、一三〇三、一七三三、一七三五、)

一個ノ建造物歳月ヲ經タルニ因リ自カラ崩潰シ、若クハ抗拒スベカラザル災害ニ因テ崩潰シタル片、之ヲ再築スルノ義務ハ、名義ノミノ所有者ニ負ハシムベキニモアラズ、何トナレバ修復サヘモ之ヲ入額所得者ノ擔當ト爲サズレバナリ、(第六百六條見合セ)但シ其小補理ニテ足レル片ハ入額所得者ノ擔當トス、然レ𪜈其崩潰シタル物件ニ付入額所得ノ權ヲ放棄スルニ於テハ、小補理ト雖ヒ之ヲ爲スヿヲ免カレ得、

第六百八條　土地ノ入額ヲ所得ト爲ス者之ヲ得ル時間ハ其入額ヲ所得ト爲ス物件中ヨリ毎歳官ニ納ムベキ金高即チ税金其他習慣ニ因リ其入額中ヨリ償フ可キヿノ定リタル費用ヲ拂フ可シ(民六三五、)

本條ニ揭グル所ノ税金トハ、地税窓戸税里道ノ修繕費ノ如キ通常ノ租税賦金ヲ總稱シテ云フ、此等ノ賦税ハ入額所得者其權ヲ有スル時間ノ割合ニ應ジテ之ヲ擔當スベキモノトス、

第六百九條　財産ノ入額ヲ所得ト爲ス時間ニ其財産所有ノ權ニ付キ官ニ納ム可キ金高ハ其

所有者ト其入額ヲ所得ト爲ス者トニテ左ノ如クノ之ヲ引受クル可シ

所有者ハ其金高ヲ拂ヒ入額ヲ所得ト爲ス者ハ其利息ヲ所有者ニ算計ス可シ

若シ入額ヲ所得ト爲ス者其金高ヲ出シタル時ハ其入額所得ノ權ノ終リシ時其元金ヲ取還ス可シ（民六一二、）

財產所有權ニ負ハシメタル所ノ官ニ納ムベキ金高トハ例ヘバ外敵侵入ノ時ニ當テ課スベキ臨時ノ賦金等ヲ云フ、此賦金ハ名義ノミノ所有者ト入額ヲ所得ト爲ス者トニ相當ニ分賦ス、蓋シ之ニ因テ元資ノ一部ヲ減少スルヲ以テ入額モ亦減少セザルベカラズ

若シ名義ノミノ所有者ニテ之ヲ出スヿ能ハズ、且入額所得者ニ於テモ之ヲ立替置カザルトキハ、其所有權ノアル財產ノ一部ヲ賣拂ヒ以テ其上納ニ充ツベシ、（第六百十二條第四項）

第六百十條　遺囑ヲ爲ス者ヨリ人ニ畢生間ノ年金又ハ養料ヲ贈遺トシテ與ヘタル時ハ其遺物入額ノ全部ヲ得可キ權ヲ遺囑ノ贈遺トシテ得タル者其年金又ハ養料ノ全額ヲ償フ可シ

又其遺物入額ノ一部ヲ得可キノ權ヲ贈遺トシテ得タル者ハ其入額ノ割合ヲ以テ其年金又

ハ養料ヲ償フ可シ但シ此等ノ者ハ遺物所有ノ權ヲ相續シタル者ヨリ其金高ヲ償還セシムルヿヲ得ス（民六〇八、八七一、九一七、九一八、一〇〇三、一〇〇九、一〇一〇、一〇一二、一〇一三、一〇一三、一〇一五、一〇一七、一〇一八、）

遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ニ三種ノ別アリ、第一遺囑ヲ爲ス者ノ總テノ財產ヲ收入スベキ所ノ財產全部ノ遺囑贈遺ヲ受クル者、（第千三條見合セ）第二財產中ノ別段指定メザル一部ノ遺囑贈遺ヲ受クル者、（第千十條見合セ）第三財產中ノ別段指定メタル品物ノ遺囑贈遺ヲ受クル者、（第千十條第二項）乃チ財產全部ノ入額ヲ所得ト爲スノ遺囑贈遺ヲ受クル者、及ビ財產中ノ別段指定メザル一部ノ財產ノ入額ヲ所得ト爲スノ遺囑贈遺ヲ受クル者ハ、財產ノ名義ノミノ所有權ニ付、何レノ權利ヲモ有スルヿナキニ因リ、事實ニ於テハ一種ノ財產中ノ別段指定メタル品物ノ遺囑贈遺ヲ受クルニ殊ナラズ、而シテ財產中ノ別段指定メタル品物ノ遺囑贈遺ヲ受クル者ハ、其品物ノ所有者タリシ者ノ負債若クハ利息若クハ年金ヲ擔當セザルヿ通則ナリトス、（第八百七十一條見合）之ニ反メ財產全部ノ入額ヲ所得ト爲ス權ノ遺囑贈遺ヲ受クル者ハ、年金及ビ負債ノ利息ヲ擔當

セザルベカラズ、財産中ノ別段指定メザル一部ノ入額ヲ所得ト爲ス權ノ遺囑贈遺ヲ受クル者モ、亦其入額ヲ所得ト爲ス財産ノ割合ニ應シテ、年金及ビ負債ノ利息ヲ拂フベキモノトス、蓋シ此等ノモノハ元資ヲ以テ償却セズ、入額ヲ以テ償却スベキモノトスレバナリ、故ニ此二種ノ遺囑贈遺ヲ受クル者、年金等ヲ拂ヒタリトモ名義ノミノ所有者ニ向テ其ノ追償ヲ要ムルノ權ナシ、

財産全部ノ入額ヲ所得ト爲ス權ノ遺囑贈遺ヲ受クル者、若クハ生存中ノ贈遺ヲ受クル者ハ、其權ヲ行ヒ始ムル前ニ、其財産中動産ノ目錄ヲ作ルヲ要ス、而レトモ此法式ヲ踐行スルヿヲ怠リシトキ其罰責ニヨリ其贈遺ノ利益ヲ失フヿナシ、蓋シ何レノ法章ニモ斯ノ如キ罰則ナケレバナリ、又死者ノ負債モ之ヲ擔當スルニ及バズ、何トナレバ財産ノ全部ノ贈遺ヲ受クル者ト其性質相殊ナレバナリ、止ダニ名義ノミノ所有者、若クハ債主ヨリ速ニ目錄ヲ作ルヿノ督促ヲ受ケ得ベキノミ、若シ故ナク之ヲ遲延スルトキハ損害補償ノ責アリトス、ト巴里上等裁院ニ判決シタリ、(其文略之)

第六百十一條　遺囑者ノ不動産中ニテ別段指定メタル物ノミノ入額所得ノ權ヲ贈遺トシテ

得タル者ハ其不動産ヲ書入質ト爲タル債ヲ償フニ及バズ若シ其者已ムヿヲ得ズシテ其債ヲ償ヒタル時ハ其不動産所有ノ權ヲ相續シタル者ヨリ之ヲ取還スヿヲ得可シ但シ第千二十條ニ記スル所ハ格別ナリトス(民八七一、八七四、一〇一四、一〇一五、一〇二四、一二五一、二一六六、二一六六、二一七八、)

別段指定メタル一個ノ不動産ノ遺囑贈遺ヲ受ケシ者、若クハ其入額所得ノ權ノ遺囑贈遺ヲ受ケシ者ハ、其遺物ノ負債ヲ擔當スルニ及バズ、(八百七十一條見合セ)然レトモ一個ノ不動産ニ付書入質ノ權ヲ有スル所ノ債主ハ其不動産如何ナル者ノ所有ニ歸ストモ其不動産ヲ以テ其負債ノ償還ニ充ツヿヲ訴出シ得、(第二千百十四條見合セ)因テ不動産中別段指定メタルモノ、入額所得ノ權ノ遺囑贈遺ヲ受ケシ者、其書入質トナリシ不動産ノ占有者タルトキハ、之ニ對シテモ亦訴出スルヲ得、然レトモ入額所得權ノ遺囑ヲ受ケシ者ハ、其不動産ヲ抵償トシテ差押ヘラルヽヿヲ免カルヽガ爲メ、其負債ヲ償却シタル後、其償却シタル金高並ビニ其利息ヲ名義ノミノ所有者ニ向テ追償ヲ要ムルノ權アリ、

第千二十條ニ記スル所ハ格別ナリト爲スノ目的ハ、遺囑者ニ於テ其相續人、若クハ遺産

全部ノ贈遺ヲ受クル者ヲシテ、別段指定メタル一物ノ遺贈贈遺ヲ受ケタル者ニ、其ノ一物ノ書入質ヲ受戻シタル上引渡サシムベキヿヲ得セシムルニアリ、

第六百十二條　遺贈者ノ財産入額ノ全部ヲ得可キノ權ヲ贈遺トシテ得タル者又ハ其一部ノミヲ得可キノ權ヲ得タル者ト其財産所有ノ權ヲ相續シタル者ト共ニ遺物ニ屬シタル負債ヲ償フ可キ方法左ノ如シ

同上ノ者ハ先ヅ入額ヲ得可キ不動産ノ價ヲ算計シ其價ノ割合ヲ以テ各〻擔當ス可キ負債ノ高ヲ定ム可シ

不動産ノ入額所得ノ權ヲ得タル者其不動産ノ價ノ割合ヲ以テ擔當ス可キ負債ノ高ヲ拂フ時ハ其入額所得ノ權ノ終リニ至リ利息ヲ得ルヿナク其元金ノ償還ヲ得可シ

若シ又其入額所得ノ權ヲ得タル者其不動産ニ付テノ負債ヲ拂ハザル時ハ其不動産所有ノ權ヲ相續シタル者其負債ノ高ヲ拂ヒ入額ヲ得ル者ヲシテ其權ヲ有スル時間ノ利息ヲ算計セシメ又ハ其不動産ニ屬シタル負債ノ高ニ至ル迄其不動産ノ一部ヲ賣拂フヿヲ爲シ得可シ（民六〇九、六一〇、八七一、一〇〇九、一〇一二、一〇一七、）

何レノ約定モナク遺物ヲ相續スル者ハ、其遺物ヲ以テ擔當スベキ總テノ負債ヲ償却スルヲ要ス、其相續人數人アルトキハ、各其相續シタル財産ノ割合ニ准シテ其負債ヲ償却ス、（第八百七十條八百七十一條見合セ）本條ニ依レバ入額ノ全部ノ遺贈贈遺ヲ受ケシ者、若クハ財産中別段指定メザル一部ノ遺贈贈遺ヲ受ケシ者、其遺物ノ擔當スベキ負債ノ利息償却ノヿニ付テモ同一ノ規則ヲ適施シ得、而シテ若シ債主ニテ其得ベキ債ノ元金ノ償還ヲ要求スルトキ、入額ヲ所得ト爲ス者ニ於テ之ヲ拂フトキハ、其權ノ終リニ至リ名義ノミノ所有者ニ向テ利息ナク、其立替拂ヒシ金高ノ追償ヲ要メ得、名義ノミノ所有者ニ於テ之ヲ拂フトキハ、入額所得者ニ向テ其權ノアル時間出スベキ其利息ヲ要求スルヿヲ得、若シ入額所得者ニ於テモ、名義ノミノ所有者ニ於テモ、之ヲ拂ハザルトキハ、入額ヲ所得ト爲スベキ財産中右負債ノ償却ニ必要ナル金高ヲ得ルニ至ル迄ノモノヲ賣拂フ、然ルトキハ名義ノミノ所有者ハ、其賣拂ヒタル財産ニ付其權ヲ失フニ因リ其負債ヲ免カレ、入額ヲ所得ト爲ス者ハ、其賣拂ヒタル財産ニ付其權ヲ失フニ因リ、負債ノ利息ヲ拂フノ義務ヲ免カル、若シ其賣拂ヒタル財産ノ價額ヲ以テ負債ヲ償却シテ猶ホ餘リアル

ドキハ、其餘リタル金高ノ入額ヲ所得ト爲スト否トハ、入額所得者ノ權内ニアリトス、

第六百十三條　財産ノ入額ヲ所得ト爲ス者ハ其入額ヲ得ルニ關係シタル訴訟ノ費用ト其訴訟ニ因リ言渡サルヽコアル可キ償金トヲ己レニ擔當ス可シ（民六〇九、六一〇八七一、一〇〇九、一〇一二、一〇一七、）

訴訟ハ入額ヲ所得ト爲スコ、若クハ名義ノミノ所有權、若クハ全所有權ニ付生ジ得、第一單ニ入額ヲ所得ト爲スコニ付生ズル訴訟ハ、入額所得者ニノミ關ス、故ニ其者負訴訟トナルドキハ自ラ其訴訟入費ヲ擔當スベシ、而シテ其者ハ入額所得ノ權ヲ與ヘタル者ニ向テ追償ヲ要メ得ベキヤト云フニ、生存中ノ贈遺若クハ遺囑ノ贈遺ニ因リ、償ヲ出サズシテ其權ヲ受ケタルドキハ、追償ヲ要ムルコヲ得ズ何トナレバ贈遺ヲ爲ス者ハ決シテ其贈遺物ノ保證ヲ立ルコヲ要セザレバナリ、賣買若クハ交換等ノ如ク償ヲ出シテ入額所得ノ權ヲ受ケシドキハ、追償ヲ要ムルコヲ得、第二名義ノミノ所有權ニ付生ズル訴訟ハ、名義ノミノ所有者ノミニ關ス、故ニ其者負訴訟トナルドキハ自ラ其訴訟入費ヲ擔當ス、第三全所有權ニ付生ジタル訴訟ニテ、入額ヲ得所ト爲ス者モ名義ノミノ所有者モ共ニ負

訴訟トナルドキハ、各其權利ノ關スル價値ノ割合ニ應ジテ其訴訟入費用ヲ擔當ス、入額所得權ノ價値ヲ定ムルニ付テハ、大ニ其權アル者ノ年齢ヲ酌量シ、全所有權ノ價額ノ半ト定ムルコ多シ、然レドモ名義ノミノ所有者ニ於テ他人ヨリ入額所得者ノ權ノ妨害ヲ爲スドキ、其保證ノ責ニ任スベキドキハ、固ヨリ一人ニテ一切ノ費用ヲ擔當セザルベカラズ、

第六百十四條　不動産ノ入額ヲ所得ト爲ス時間ニ他人其不動産ノ一部ヲ掠奪シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ所有者ノ權利ヲ害スル時ハ其入額ヲ得ル者ヨリ其由ヲ其所有者ニ報知ス可シ若シ其事ヲ報知セズシテ其所有者ノ爲メ損害ノ生ジタル時ハ其入額ヲ得ル者之ヲ償フ可キコ猶ホ其者ノ自カラ其所有者ニ損害ヲ加ヘタルト同一ナリトス（民二四九、一三八二、一三八三、一七二六、一七六八、訴二三、二四）

入額所得者ハ、其入額ヲ所得ト爲スカ爲メ、委托セラレシ所ノ物件ヲ監護保存スベキヲ要スルニ因リ、他人其所有者ノ權利ヲ妨害シ若クハ掠奪スル時ハ、其由ヲ名義ノミノ所有者ニ報知セザルベカラズ、若シ之ヲ爲サヾルドキハ損害補償ノ訴ヲ受ク得ベシ、此報知ハ多ク使吏ヲシテ之ヲ爲サシムト雖モ、書翰等ノ如キ他ノ方便ヲ以テ爲スコヲ

得、此報知ヲ爲スベキ期限ヲ定ムルヿナキニ因リ、若シ爭論ノ生シタルトキ裁判官ハ、入額所得者ニ於テ所有者ノ權利ヲ害セシ懈怠ナキヤ否ヤヲ監定スベシ、

第六百十五條　一頭ノ獸ノ入額所得ノ權ヲ得タル者其過失ニ非ズシテ其獸ノ死シタル時ハ其者ヨリ其獸ニ代ヘ他ノ獸ヲ還與シ又ハ其價ヲ償フニ及バズ（民六九七、六一六、六一七、六二三、六二四、一八一〇、一八二七、）

本條ノ場合ニ於テハ入額所得者ヨリ、意外ノ事ニ因テ死シタル其獸ノ皮ヲ名義ノミノ所有者ニ還與スルヲ要ス、

第六百十六條　數頭ノ獸ノ入額所得ノ權ヲ得タル者其過失ニ非ズシテ意外ノ事又ハ疾病ニ因リ其獸ノ盡ク死シタル時ハ其者ヨリ其所有者ニ其皮又ハ皮ノ價ヲ還與スルヿノミヲ必要トス、

若シ其數頭ノ獸ノ中一部ノ死シタル時ハ入額ヲ得可キ者此迄其獸ノ增殖シタル數ニ至ル迄其死シタル獸ノ數ヲ補フ可シ（民六一五、六一七、六二三、六二四、一八〇九、一八一〇、一八二二、一八二五、一八二七、）

數頭ノ獸ニ付得タル入額所得ノ權ハ、其獸盡ク死スルニ非ザレバ消滅セズ、而シテ自己ノ過失ニ非ズシテ其獸死シタルトキハ、一頭ノ獸ノ入額所得權ヲ得タル者ト同ク、名義ノミノ所有者ニ獸ノ皮ヲ還與スルヿノミヲ要ス、數頭ノ獸盡ク死セズ其若干頭生存スルトキハ、假令牝一頭ノ外生存セズト雖モ、入額所得權ハ依然繼續シテ存在ス、然ルトキハ入額所得者ニテ死シタル獸ノ皮ヲ所得トス、然レモ又現ニ存スル增殖獸若クハ將ニ生ズベキ增殖獸ヲ以テ、死シタル獸ノ代ト爲サヾルベカラズ、但シ入額所得者ニ於テ、天災ニ罹リ死シタル獸ニ代フルニ增殖ノ獸ヲ以テスルヿ、其死セザル獸ヨリ得ル利益ヨリ、其費用多キヲ要スベシト算考スルトキハ、入額ノ所得權ヲ放棄スルヿヲ得、而シテ之ヲ放棄スルトキハ、死シタル獸ノ總テノ皮ヲ名義ノミノ所有者ニ還與スルヲ要ス、

○第三款　入額所得權ノ終ル方法

第六百十七條　入額所得ノ權ハ左ノ方法ニテ終ル

入額ヲ所得ト爲ス者ノ死去スル事、准死トナル事、及ビ入額ヲ所得ト爲ス可キヿヲ許セシ期限ノ終ル事

入額ヲ所得ト爲スノ權ト所有ノ權トヲ一人ニテ併セタル事

入額ヲ得ベキ權ヲ三十年間行ハザル事

入額ヲ得ベキ財産ノ全ク滅盡スル事

（民二三、二五、六一八、六一九、七〇三、七〇四、一三〇〇、一三〇一、一三〇二、一三〇三、二一七七、二二一九、二二六二、二二六五、訴一八、）

本條ハ入額所得權ノ消滅スル五個ノ方法ヲ揭ゲ、次條ニ於テ猶特別ナル一個ノ方法ヲ示ス、第一入額所得ノ權利ハ、其人限リニシテ之ヲ相續人ニ讓與スベカラザルモノナリ、故ニ入額ヲ得所ト爲ス者ノ死去ニ因リテ消滅シ、名義ノミノ所有權ニ合併ス、准死モ亦入額所得ノ權ヲ消滅セシト雖ドモ、千八百五十四年五月三十一日ノ法律ヲ以テ准死ヲ廢シタリ、第二契約ハ之ヲ爲ス雙方ノ者ノ爲メニハ法律ト同一ノ力アリ、故ニ入額所得ノ權利ハ其契約ヲ以テ定メタル期限ニ至ルカ、若クハ未必ノ條件ニ因テ入額ヲ所得ト爲ス權利ノ消滅スベキト否トヲ約定シタルトキ、其條件ノ來リシトキ、消滅スベシ、但シ期限ノ至ルノ前カ、若クハ未必ノ條件ノ來ルノ前タリトモ、入額ヲ所得ト爲ス者ノ死去スルトキ

ハ消滅スベシ、蓋シ期限及ビ未必ノ條件ハ入額ヲ所得ト爲ス權ノ消滅スル方法ヲ減ズルニアラズ、偶然タリトモ其消滅ノ方法ヲ增スノ効アリトス、第三入額所得ノ權ハ他人ノ所有權ノ一部トス、故ニ入額所得者ノ分限ト、名義ノミノ所有者ノ分限トヲ、一人ニテ併有スルトキハ、入額所得ノ權ヲ分立スベカラズ、第四入額所得權ハ三十年間之ヲ行ハザルトキハ消滅ス、且入額所得權ノ附屬シタル不動産正意ニシテ、且相當ノ證書ヲ有スル他人ノ所有トナリシトキハ、十年若クハ二十年ノ間其權ヲ行フヿナキトキモ亦消滅ス、（第二千二百六十五條見合セ）第五入額ヲ得ベキ財産ノ滅盡トハ止タニ其財産ノ毀失ノミヲ云フニアラズ、其財産ノ本質ヲ變ゼシヿヲモ包含ス、何トナレバ其本質ヲ變ジテ從前ノ如ク使用スベカラザルトキハ、入額所得ノ權消滅スレバナリ、（マルカデー）ノ說ニ因レバ、羅馬ニ於テハ森林變ジテ耕作地トナリ、池水乾涸シテ一個ノ土地トナリシトキノ如ク、財産ノ本體ヲ變ジタルトキハ、入額所得權消滅シタリシガ、佛國法典ノ精神ニ於テハ、家屋ノ燒火シタルガ如ク、財産ノ眞實全ク滅盡シタルトキニアラザレバ、入額所得權ノ消滅スルヿナシ、）

第六百十八條　又入額ヲ所得ト爲ス者其不動産ヲ毀壞シタル事及ビ修理ヲ加ヘズシテ其不動産ヲ損敗セシメタル事ニ因リ其權ヲ行フニ付テノ過失アル時ハ其權終ル可シ

入額ヲ所得ト爲ス者ノ債主ハ其者ト所有者トノ間ニ起ルヿアル可キ訴訟ニ管涉シテ己レノ權利ヲ保全ス可キ爲メ入額ヲ得可キ者ノ行ヒシ毀壞ヲ修繕セント述ベ且以後其者ノ保證人トナル可キヿヲ訴フルヲ得可シ

裁判官ハ其時ノ摸樣ニ從ヒ其入額ヲ得可キノ權ノ全ク終ル可キヿヲ言渡シ又ハ入額ヲ得可キ者若クハ其代權人ニ其權ノ終リニ至ル迄其所有者ヨリ毎歲定數ノ金高ヲ償フ可キノ約定ヲ爲シテ其財産ノ入額ヲ其所有者ニ屬セシム可キヿヲ言渡スヿヲ得（民六〇一、ヨリ六〇五、六一四、六一七、六二二、一一六七、訴三三九、三四〇、）

財産ヲ毀壞シ若クハ損敗セシメタル入額所得者ハ、財産ヲ保存スベキ義務ヲ侵セリ、（第五百七十八條見合セ）然レヒ入額所得ノ權ハ、當然之ヲ失フヿナク裁判官ノ判決ニ因テノミ之ヲ失フベシ、裁判官ハ其情狀ニ因リ入額所得權ノ消滅ヲ宣告シ、又ハ之ヲ宣告セズシテ其權アル財産ヲ他人ニ附托シ、若クハ名義ノミノ所有者ニ於テ年々預定ノ

金額ヲ入額所得者ニ拂フニアラザレバ、其財産ノ入額所得權ヲ取戻スベカラザル旨ヲ宣告スベシ、

入額所得者ノ債主ハ、其權利ヲ保存スル爲メ、入額所得者ト名義ノミノ所有者トノ間ニ生シタル訴訟ニ管涉スルヿヲ得、以テ入額所得權消滅ノ宣告ヲ防ガントス、此場合ニ於テハ名義ノミノ所有者ニ、其受ケタル損害ヲ補償セント述ベ、且將來ノ保證ヲ立ント述ブルヲ要ス、

第六百十九條　人ニ與ヘタルモノニ非ザル入額所得ノ權ハ其期限三十年ヲ過クベカラズ（民六一七、六二〇、）

人ニ與ヘタルモノニ非ザル入額ヲ所得ト爲スノ權トハ、邑病院等ノ如キ無形人ニ與ヘタル所ノモノヲ云、抑無形人ハ幾百年ヲ經ルモ死去スルヿナキニ因リ、若シ法律ヲ以テ其入額所得權ノ期限ヲ預定スルヿナキニ於テハ、名義ノミノ所有權ハ虛稱タルノミナラス、困難ノモノタルベシ、而シテ此期限羅馬ニ於テハ百年トセシニ、佛國ニ於テ之ヲ三十年ニ減縮シタリ、然レヒ若シ三十年ノ期限ニ至ルノ前、無形人ノ廢滅トナリシトキハ、

入額所得ノ權モ共ニ消滅スベキハ固ヨリトス、

第六百二十條　甲ノ定リシ齡ニ至ル迄乙ニ與ヘシ入額所得ノ權ハ甲ノ定リシ齡ニ至ラズシテ死去シタル時ト雖モ預メ定メタル期限ニ至ル迄繼續ス可シ

本條ノ場合ニ於テハ、乙者生存ノ長短ヲ酌量セシコアラズ入額所得ノ權ノ年數ヲ酌量シタルナリ、然レモ父母中ニテ其子ノ滿十八歳ニ至ル迄親權ヲ行フ所ノ者（第三百八十四條見合セ）ニ與ヘタル入額所得ノ權ハ、其子ノ死去ニ遭遇スルニ於テハ消滅ス、甲若豫定ノ年齡ニ至ラザル前入額ヲ所得ト爲ス乙者死去スルトキハ、其權亦消滅ス、

第六百二十一條　入額ヲ得可キ者アル財産ヲ其所有者ノ賣拂ヒタル時ト雖モ其入額ヲ得可キ者ノ權ニ變更アルヿナシ但シ其者別段其權ヲ拋棄スルヿヲ述ベタル時ハ格別ナリトス

（民六二二、一五八二、一五八三、二一二五）

入額所得權ト名義ノミノ所有權トハ各分立ス、故ニ之ヲ有スル者ハ他ノ者ノ權利ヲ妨害スルヿナキニ於テハ、各其權利ヲ賣買讓與スル等、隨意ニ之ヲ處置スルヿヲ得、若シ入額所得者名義ノミノ所有權ノ賣拂ニ管涉シ其權ヲ拋棄スルトキハ、之ヲ買受ケタル者

ハ十全ナル所有權ヲ得、然レモ此拋棄ハ必別段之ヲ證スルヲ要シ、入額所得者ニ於テ名義ノミノ所有者、其權賣拂ノ場ニ立會シノミヲ以テ、拋棄ノ意アリト看做スベカラズ、但シ此拋棄ハ假令償ヲ得ズシテ爲ストキタリモ、證書人ノ記シタル證書ヲ以テ之ヲ證スルニ要セズトス、

第六百二十二條　入額ヲ所得ト爲ス者其權ヲ拋棄シテ債主ノ損害トナル可キ時ハ債主其者ノ其權ヲ拋棄シタル證書ヲ取消ト爲スヿヲ得（民六一八、七八八、一〇五三、一一六七、一四六四、二三三五、）

入額所得ノ權ヲ拋棄スルニ因リ、入額所得權ニ付書入質ノ權ヲ得タル債主ヲ害スルヿナシト雖モ、書入質ノ權ナク負債主ヲ信用スルノミノ尋常ノ債主アルトキハ、入額所得者其權ヲ拋棄スルニ因リ其債主ヲ害スベシ、故ニ此債主ハ自己ニ妨害アル入額所得權ノ拋棄ヲ取消サシムルヿヲ得、而シテ此取消ヲ得ルガ爲ニハ、第千百六十七條ニ掲ゲタル規則ニ從ヒ、負債主ニ於テ入額所權得ヲ拋棄シテ、債主ノ權ヲ妨害セントノ意アリテ、詐僞ノ所行アリシヿノ證ヲ立ルヿノ必要ナリヤト云フニ、負債主ニテ償ヲ得テ入額所得

權ヲ抛棄シタルトキハ、此證ヲ立ルヲ要スト雖ドモ、若シ償ヲ得ズシテ抛棄シタルトキハ、負債主ノ其負債償還ノ信用力ヲ減ジタルニ因リ、債主ノ權利ヲ損害スルノミヲ證スルヲ以テ足レリトス、蓋シ此場合ニ於テハ詐僞ヲ行フノ意アリシ者ト推量スレバナリ、

第六百二十三條　入額ヲ所得ト爲ス可キ財產ノ一部滅盡シタル時ハ猶ホ其存在スル一部ニ付キ入額ヲ得可キノ權ヲ保有ス可シ（民六一五、六一六、六二四、）

例ヘバ連接シタル二個ノ家屋ニ付入額ヲ所得ト爲スノ權アリ、其家屋ノ一個毀壞シ他ノ一個ハ住居シ得ベキ景狀ニシテ止ルトキ、入額ヲ所得ト爲ス權ハ依然存在シテ變ズルコトナシト雖ドモ、其毀壞シタル家屋ノ材料及ビ附屬物ニ付テハ、其權ノ存在スルコトナシ、

第六百二十四條　若シ建造物ノミニ付入額ヲ得可キノ約アリテ其建造物火災又ハ其他意外ノ事ニ因リ滅盡シタル時又ハ歲月ヲ經タルニ因リ崩壞シタル時ハ其建物ノ土地及ビ屋材ニ付キ入額ヲ得ルノ權ナシ

又建造物ト土地トヲ合シテ入額ヲ得可キノ約アル時ハ同上ノ場合ニ於テ其建造物ノ土地及ビ屋材ノ入額ヲ得ルノ權アリ（民六〇七、六一七、六二三、七〇四、一三〇二、一三〇三、）

建造物ノ滅盡シタルトキ、入額所得ノ權ノ消滅スベキヤ否ヤヲ知ラント欲セバ、本條ニ依リ入額所得ノ權專ラ其建造物ニ付テノミ與ヘシモノナルヤヲ區別セザルベカラズ、則チ第一ノ場合ニ於テハ入額所得ノ權消滅シ、其建造物ヲ再築ストモ更ニ其權ヲ生ズルコトナク、且入額所得者ニ於テ其建造物ノ土地及ビ材料ノ入額ヲ得ルノ權ナシ、第二ノ場合於テハ、入額ヲ得ル者ノ權繼續シテ土地及ビ材料ノ入額ヲ得、且若シ建造物ヲ再築シタルトキハ、之ヲ入額ヲ得ベキ物件中ニ入レシムベシ、

○第二章　使用ノ權及ビ住居ノ權

使用（ユザージュ）ノ權トハ他人ノ品物ヲ自己ノ使用ニ供ズルノ權ナリト雖ドモ、品物ニ因リ使用ノ權ノミニテハ有名無實ナルコトアルヲ以テ、其字義ヲ擴張シ使用ノ權アル者ハ自己ノ需用ニ充ル部分迄ハ、入額ヲ得ルノ權アリト爲セリ、法律上使用ノ字義ヲ斯ノ如ク擴張セシニ因リ、之ヲ解シテ使用ノ權ハ其權アル者及ビ其家族ノ需用ニ充ルヲ限リテ入額ヲ所得ト爲スノ權ナリト云フ

住居ノ權（アビタシヨン）トハ家屋ヲ使用スルノ權ヲ云フ、

第六百二十五條　使用ノ權及ビ住居ノ權ハ之ヲ得之ヲ失フノ方法入額所得ノ權ト同一ナリトス（民五七九、五八〇、一四六五、）

本條ハ不備ナルヿアリ、蓋シ入額所得ノ權ハ法律上ニテ生ジ又ハ各人ノ意ニ因テ生ズ（五百七十九條見合セ）ト雖ヒ、使用ノ權及ビ住居ノ權ハ各人ノ意ニ因ラザレバ、決シテ之ヲ生ズルヿナシ、

第六百二十六條　預メ保證ヲ立テ且不動產ノ摸樣書及ビ動產ノ目錄ヲ記スルヿナキ時ハ使用ノ權及ビ住居ノ權ヲ得ルヿ能ハザルヿ入額所得ノ權ヲ得ルヿ能ハザルト同一ナリトス（民六〇〇、六〇一、二〇一一、二〇一八、二〇四〇、訴五一七、五一八、九四二、九四三、）

使用者ハ入額ヲ得ル者ノ如ク、第一豫メ保證ヲ立ルヲ要ス、然レヒ此保證ヲ立ルヿ能ハザルトキト雖ヒ、第六百二條及ビ第六百三條ニ准擬スベカラズ、第二動產ノ目錄ヲ作ルヿヲ要ス、又不動產ノ管理ヲ爲ストキハ其摸樣書ヲ作ルヲ要ス、

第六百二十七條　使用ノ權ヲ得ル者及ビ住居ノ權ヲ得ル者ハ愼重ニ用ヰル可シ（民六〇一、

二三七、）

一個ノ財產ヲ使用スルノ權アル者ハ、其入額ヲ所得ト爲サヾルヿ多シ、其權ハ入額中ニテ自己ノ需用ニ必要ナル部分ヲ所有者ニ要求スルニアリトス、

第六百二十八條　使用ノ權及ビ住居ノ權ハ其權ヲ與フルノ證書ヲ以テ之ヲ定ムルモノニシテ其證書ニ記スル所ニ循ヒ其權限ヲ定ム可シ（民六二九、六三〇、一一三四、）

契約ヲ取結ブ雙方ノ意ハ、其雙方ノ爲ニハ法律ト同一ノ力アリトス、

第六百二十九條　若シ證書ニ其權限ヲ定ムルヿナキ時ハ左ノ數條ニ循フ可シ（民六二八、六三〇、六三一、）

何レノ證書及ビ契約ニ付テモ、法律ハ雙方ノ意旨ニ適ヒタリト思度スル大綱ヲ定ム、然レヒ之ニ反シタル意旨ヲ明ニ證書中ニ記シタルトキハ、此思度消却スベシ、

第六百三十條　土地ヨリ生ズル利益ニ付キ使用ノ權ヲ有スル者ハ自己ト家族トノ爲ニ必要ナル所ノミヲ求ムルヿヲ得可シ

使用ノ權ヲ得タル後ニ生レタル子ノ爲メニ必要ナル所モ亦不動產ノ利益中ヨリ之ヲ得ル

ヿヲ得（民五四八、五八三、五八四、）

土地ヨリ生ズル利益ヲ使用スルノ權ヲ有スル者云々ノ文ハ、土地ノ使用權ヲ有スル者云々ト改正スベキヲ要ス、蓋シ使用ノ權ハ土地ニ付テ之ヲ有シ、土地ヨリ生ズル利益ニ付テハ使用者タルノミナラズ、己レノ得ベキ限内ノ利益ニ付テハ所有者トナルナリ、土地ノ耕作ハ必シモ所有者ニ於テ爲スベキニアラズ、使用者ニ於テ土地ノ利益ノ全部ヲ所得ト爲ストキハ、其耕作ヲ爲スベキモノトス、使用者ノ權ノ限リヲ定ムル爲メノ家族トハ、第一夫若クハ婦、第二子孫及住所ヲ同クスル尊族親、第三僕婢ナリ、而シテ使用者ノ所得ト爲スベキ利益ノ分量ハ、一度之ヲ定メタリトモ、需用ノ增減ニ從ヒ增減スルヿヲ得、但シ使用者ハ其所得ト爲ス利益ハ、必シモ之ヲ其現品ノ儘消費スルヲ要セズ自己ノ隨意ニ之ヲ他人ニ賣拂ヒ、若クハ讓與スルヿヲ得、

第六百三十一條　使用ノ權ヲ有スル者ハ他人ニ其權ヲ讓與ヘ又ハ賃貸ヲ爲ス可カラズ（民五九五、六三四、一七〇九、）

使用ノ權ハ其人限リニシテ、之ヲ他人ニ讓與ヘ又ハ賃貸スベカラズ、何トナレバ使用者

ノ權利ノ程限ハ、其需用ノ度ニ准シテ之ヲ計量スレバナリ、又右ノ理由アルニ因リ使用權ハ之ヲ差押フベカラズ使用者ノ債主ノ要メニ應シテ之ヲ賣拂フヿヲ得ズ、入額所得ノ權ト相違スル所ハ實ニ此ニアリ、蓋シ入額所得ノ權ハ讓與スルヲ得ベク、且差押フルヲ得ベシト雖モ、之ガ爲メ入額所得權ノ期限ヲ延スノ効ナキハ固ヨリナリ、

第六百三十二條　家屋ニ付キ住居ノ權ヲ有スル者ハ其權ヲ得タル時未ダ婚姻ヲ爲サズト雖モ婚姻ヲ結ビタル後其家族ト共ニ其家屋ニ住居スルヿヲ得可シ（民六三〇、六三三、）

本條ハ第六百三十條ノ第二項ト畧ヽ同一ノ理ニ基ケリ、

第六百三十三條　住居ノ權ハ其權ヲ得タル者ト其家族トノ居住ノ爲メ必要ナル所ノミニ限ル可シ（民六三二）

本條ハ第六百三十條ノ第一項ト畧同シ、雖馬法ニ於テハ一個ノ家屋ノ使用權ヲ有スル者ハ、自己ノ住居セザル所ノ室ヲ他人ニ貸與ルノ權ヲ有シタリシガ、佛國民法制定者ハ之ヲ以テ、過當ニ使用權ヲ擴張シタルモノトナシテ之ヲ採用セザリキ、

第六百三十四條　住居ノ權ハ之ヲ他人ニ讓與ヘ又賃貸ヲ爲ス可カラズ（民五九五、六三一、